

平成22年度 農林水産情報交流ネットワーク事業 全国調査
食料・農業・農村及び水産資源の持続的利用に関する意識・意向調査

この調査は、平成23年1月下旬から2月上旬にかけて、農林水産情報交流ネットワーク事業の農業者モニター2,000名、漁業者モニター400名、流通加工業者モニター1,650名、消費者モニター1,800名の方を対象に実施したものであり、農業者モニター1,627名、漁業者モニター347名、流通加工業者モニター1,025名、消費者モニター1,626名から回答を得た結果である。

【調査結果の概要】

1 農業者モニターに対する調査

(1) 農業経営の意向について

ア 農業の経営規模の意向について（複数回答）

農業の経営規模の今後の意向について伺ったところ、「現状のまま維持したい」が45.3%と最も多く、次いで「農業経営面積（頭数等）を拡大したい」（29.0%）、「新たな部門に取り組む等、経営の複合化を進めたい」（22.4%）であった。

また、年齢階層別に見ると20～39歳では「農業経営面積（頭数等）を拡大したい」、「新たな部門に取り組む等、経営の複合化を進めたい」とする者が多い一方で、60歳以上では「現状のまま維持したい」とする者が多かった（図1、2）

図1 今後の農業経営規模に関する意向

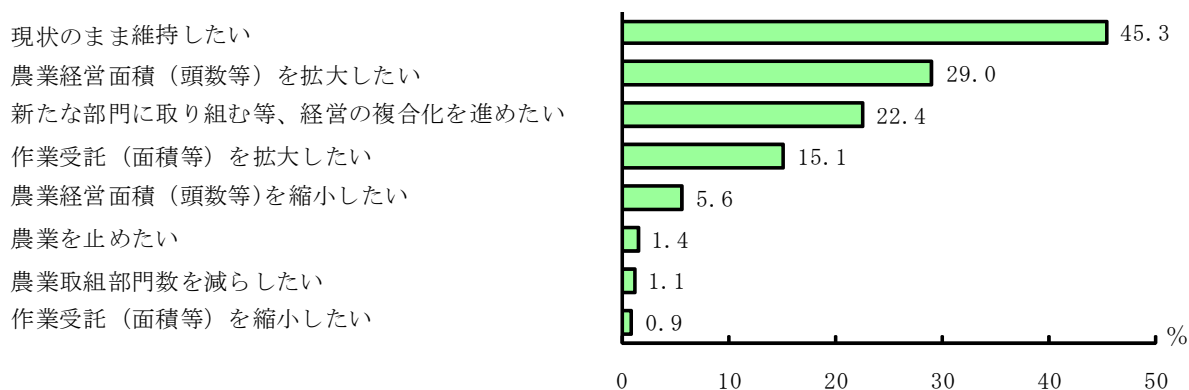
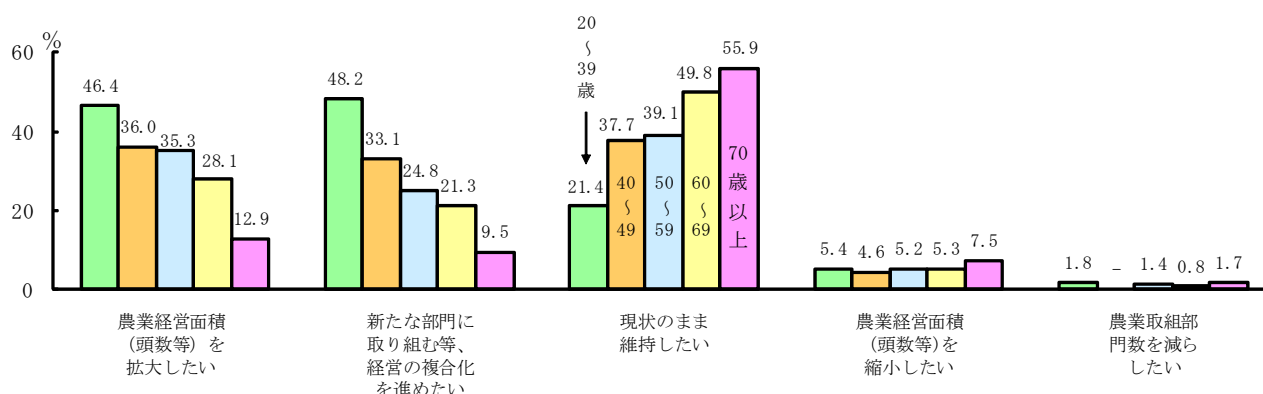


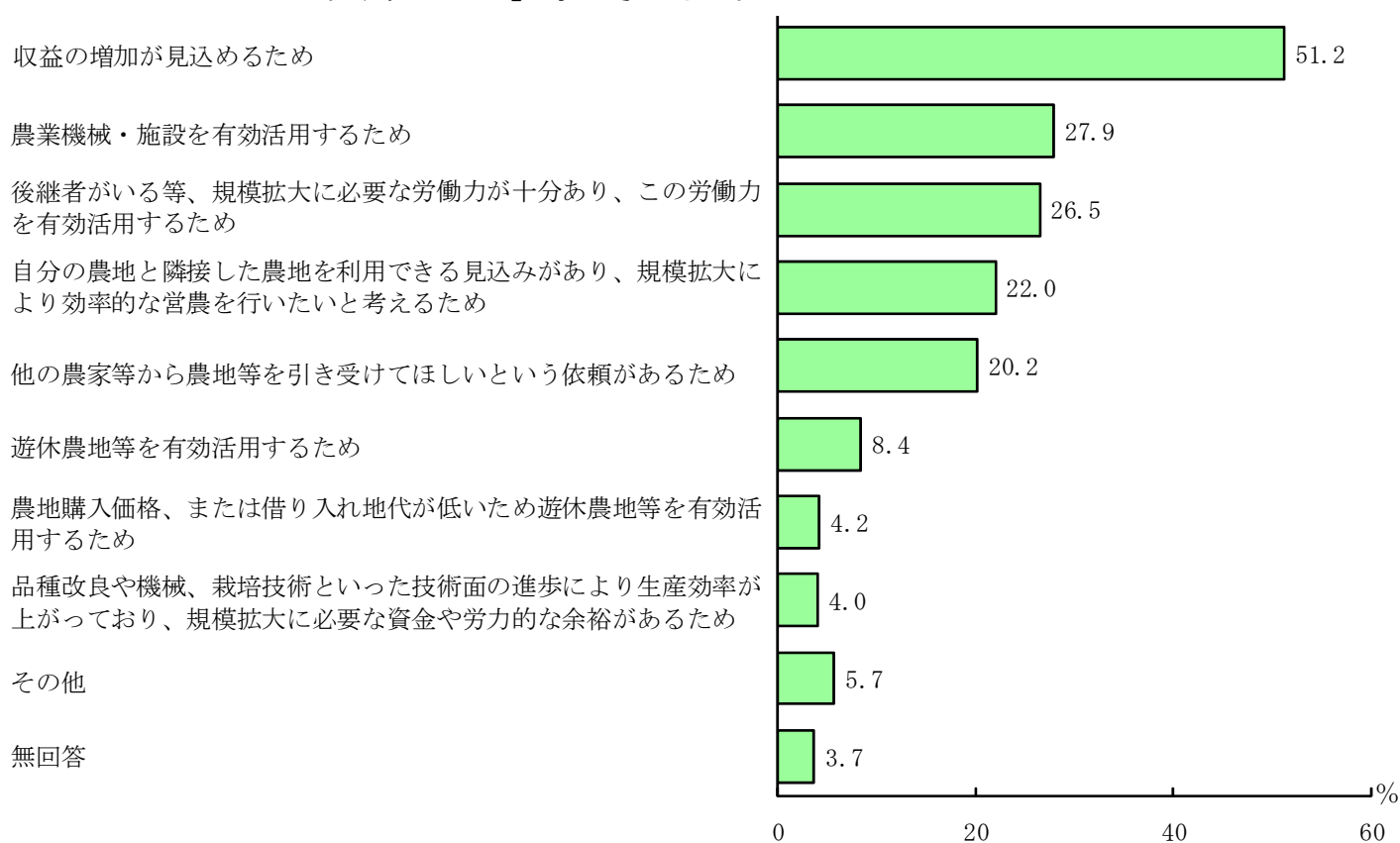
図2 今後の農業経営規模に関する意向（年齢別）



イ 「経営面積（頭数等）を拡大したい」あるいは「新たな部門に取り組みたい」等と考える理由について（複数回答）

「経営面積（頭数等）を拡大したい」あるいは「新たな部門に取り組みたい」等と答えた農業者に対して、その理由を伺ったところ、「収益の増加が見込めるため」が51.2%と最も多く、次いで「農業機械・施設を有効活用するため」（27.9%）、「後継者がいる等、規模拡大に必要な労働力が十分あり、この労働力を有効活用するため」（26.5%）であった。（図3）

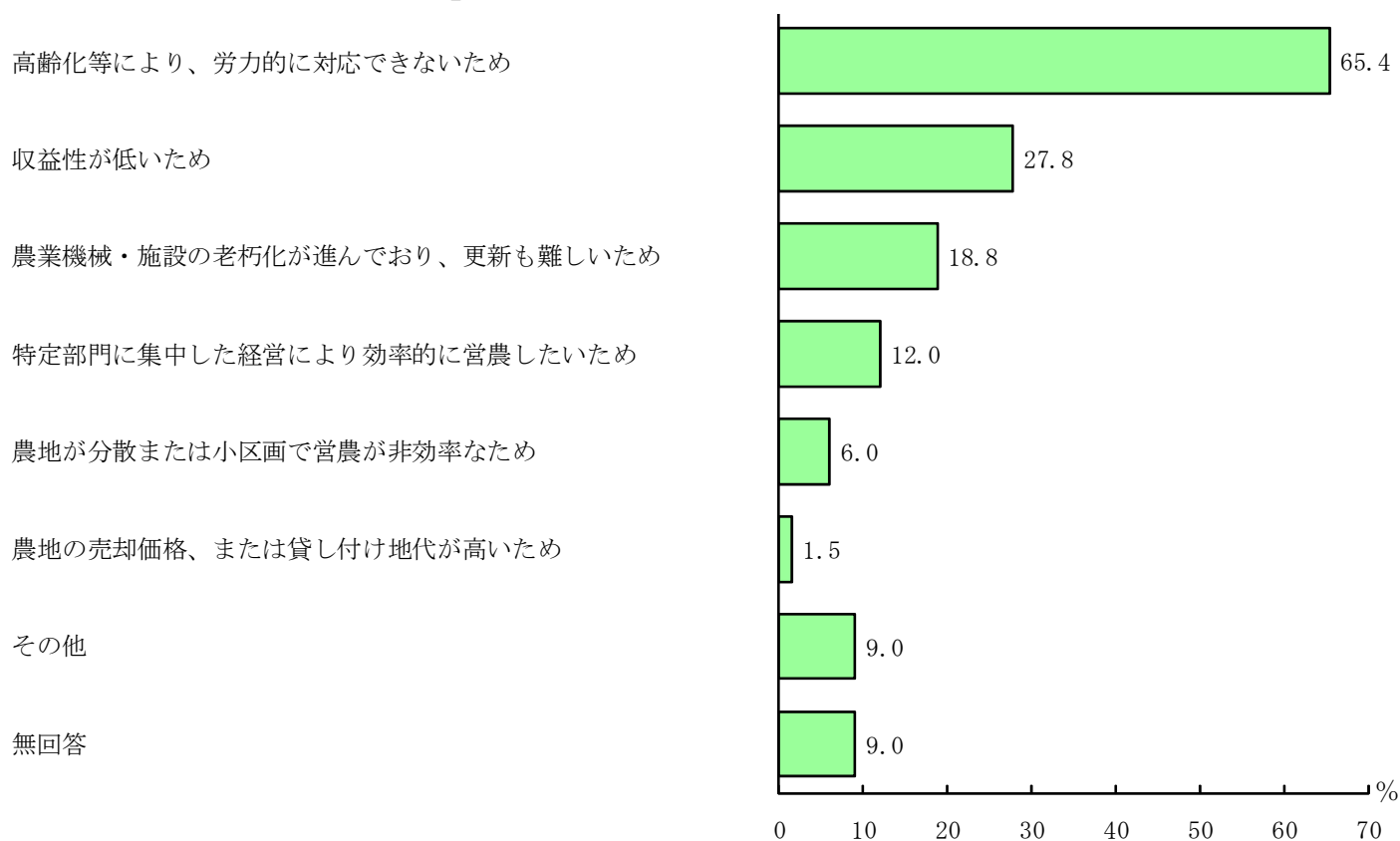
図3 「経営面積（頭数等）を拡大したい」あるいは「新たな部門に取り組みたい」等と考える理由



ウ 「経営面積（頭数等）を縮小したい」あるいは「取組部門数を減らしたい」等と考える理由について（複数回答）

「経営面積（頭数等）を縮小したい」あるいは「取組部門数を減らしたい」等と答えた農業者に対して、その理由を伺ったところ、「高齢化等により、労力的に対応できないため」が65.4%と最も多く、次いで「収益性が低いため」（27.8%）、「農業機械・施設の老朽化が進んでおり、更新も難しいため」（18.8%）であった。（図4）

図4 「経営面積（頭数等）を縮小したい」あるいは「取組部門数を減らしたい」等と考える理由

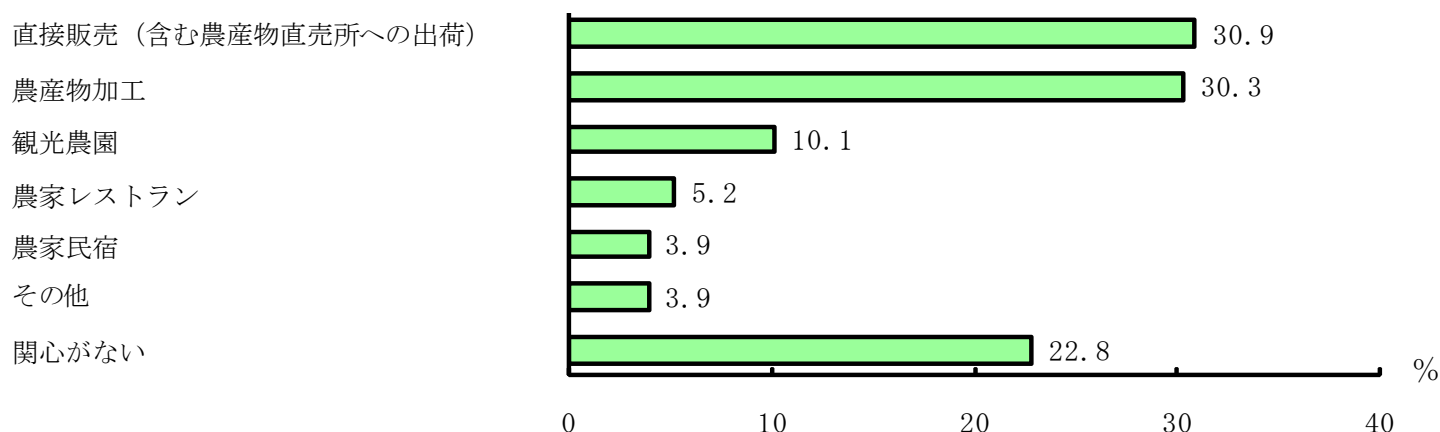


(2) 6次産業化の取組について

ア 今後取り組みたい「6次産業化」の分野について（複数回答）

今後取り組みたいと考える「6次産業化」の分野について伺ったところ、「直接販売」(30.9%)、「農産物加工」(30.3%)が多く、次いで「観光農園」(10.1%)、「農家レストラン」(5.2%)、農家民宿(3.9%)であった。(図5)

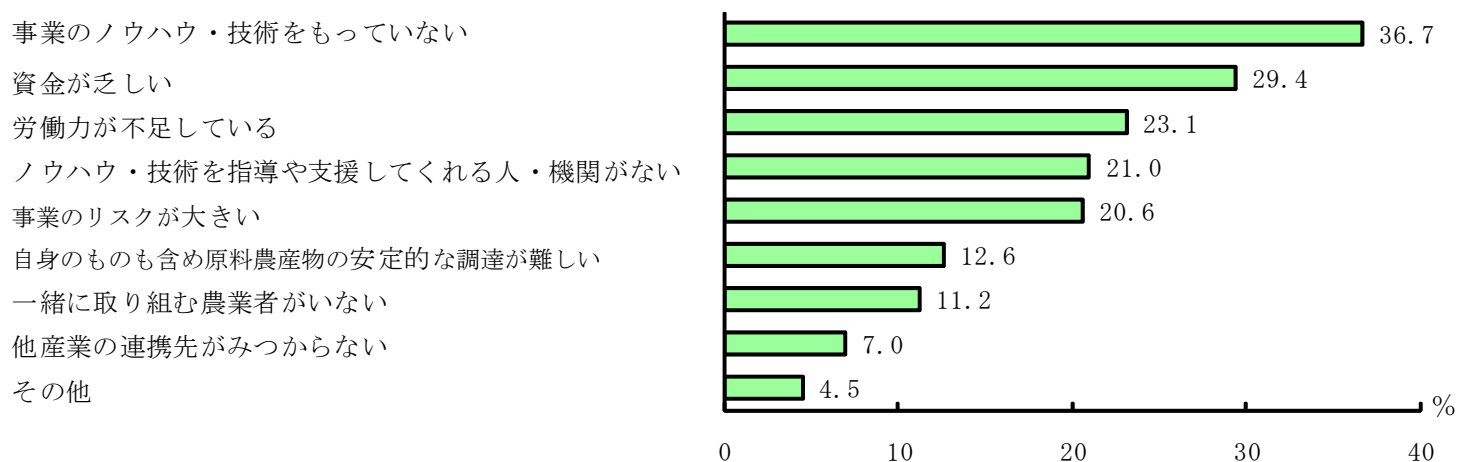
図5 6次産業化の取組



イ 「6次産業化」に取り組むに当たっての課題について（複数回答）

『6次産業化』に取り組んでいる」あるいは「関心がある」と答えた農業者に、取り組むに当たっての課題について伺ったところ、「事業のノウハウ・技術をもっていない」(36.7%)、「資金が乏しい」(29.4%)、「労働力が不足している」(23.1%)であった。(図6)

図6 「6次産業化」に取り組むに当たっての課題



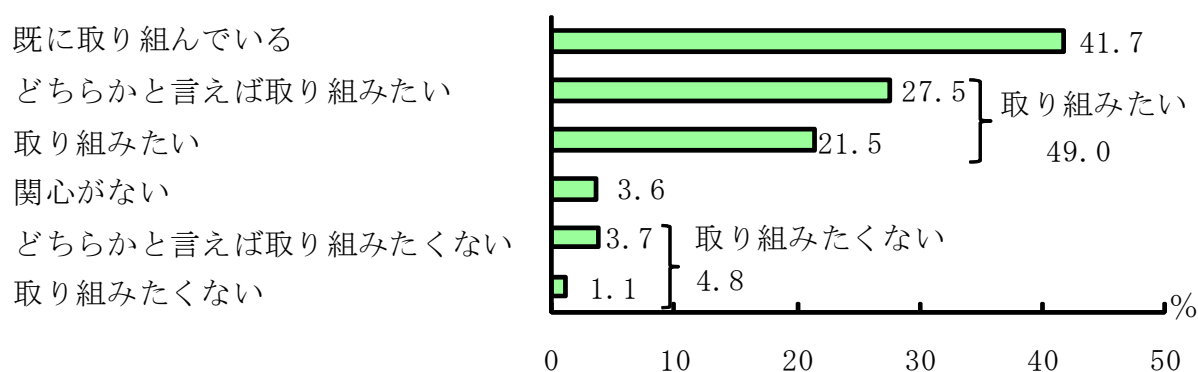
(3) 環境保全型農業の取組について

ア 環境保全型農業への取組の意向について

環境保全型農業に取り組みたいか伺ったところ、「既に取り組んでいる」(41.7%)との回答のほか、取り組みたい(「取り組みたい」、あるいは「どちらかと言えば取り組みたい」)との回答が49.0%であった。

一方、環境保全型農業に取り組みたくない(「取り組みたくない」、あるいは「どちらかと言えば取り組みたくない」)との回答は4.8%であった。(図7)

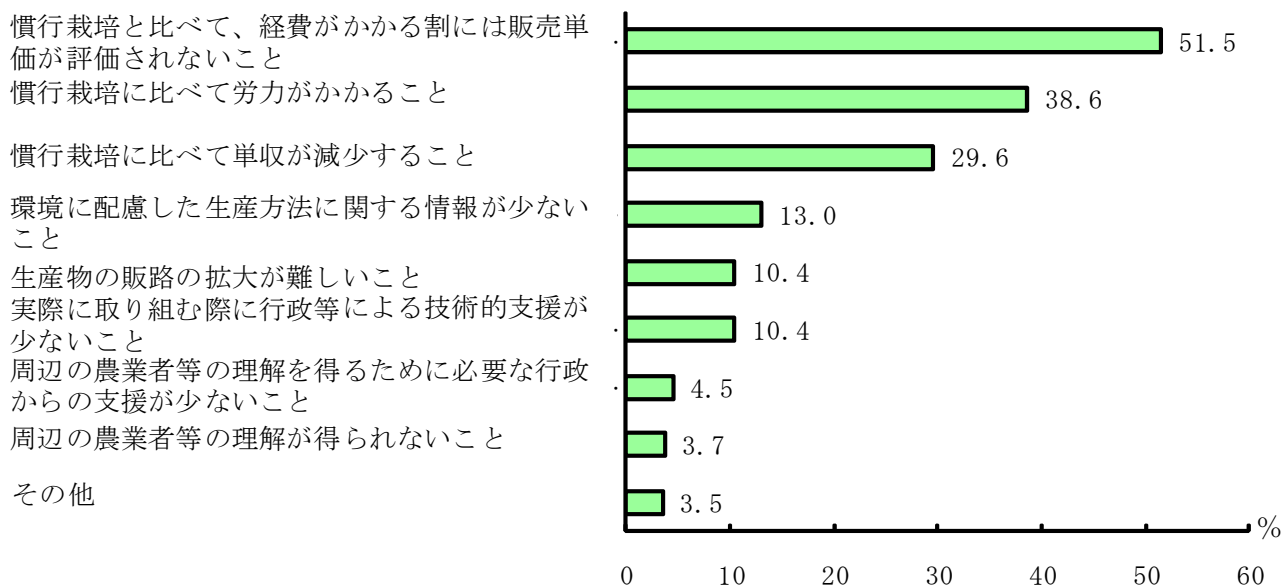
図7 環境保全型農業への取組の意向



イ 環境保全型農業に取り組む場合の支障について(複数回答)

環境保全型農業に「既に取り組んでいる」あるいは取り組みたい(「取り組みたい」、あるいは「どちらかと言えば取り組みたい」)と答えた農業者に対して、取り組む場合に支障となっている点について伺ったところ、「慣行栽培と比べて、経費がかかる割には販売単価が評価されないこと」(51.5%)、「慣行栽培に比べて労力がかかること」(38.6%)、「慣行栽培に比べて単収が減少すること」(29.6%)であった。(図8)

図8 環境保全型農業に取り組む場合の支障について

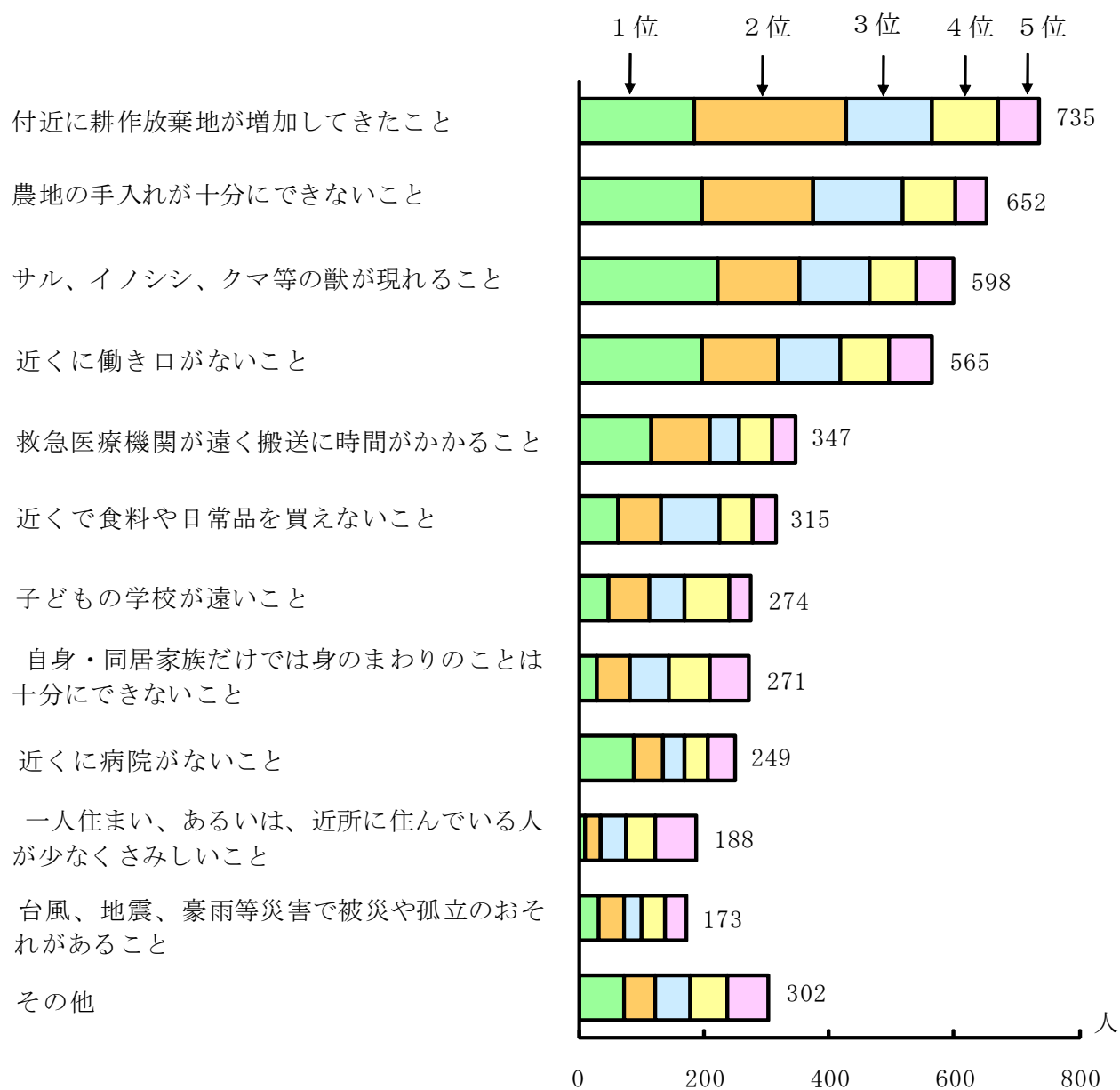


(4) 農村の維持・活性化について

ア 農村で生活する上で、困ること、不安なことについて

農村で生活する上で、困ること、不安なことについて伺ったところ、「付近に耕作放棄地が増加してきたこと」(735人)、「農地の手入れが十分にできないこと」(652人)、「サル、イノシシ、クマなどの獣が現れること」(598人)といった回答を多く得た。これに続き、「近くに働き口がないこと」(565人)、「救急医療機関が遠く搬送に時間がかかること」(347人)、「近くで食料や日常品を買えないこと」(315人)等の回答を得た。(図9)

図9 農村で生活する上で、困ること、不安なことについて



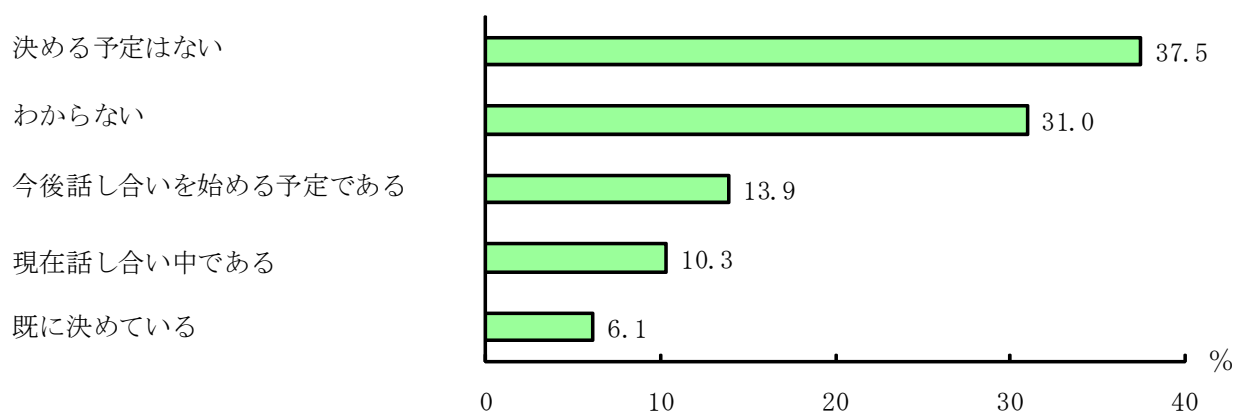
注：グラフの数値は、各項目において1～5位の順位で選択した人数を単純に積み上げたものである。

イ 集落の維持・活性化方策の決定状況について

今後の集落の維持・活性化方策を決めているか伺ったところ、「決める予定はない」(37.5%)、「わからない」(31.0%)との回答が多かった。

一方で、「今後話し合いを始める予定である」(13.9%)、「現在話し合い中である」(10.3%)、「既に決めている」(6.1%)などの回答は少なかった。(図10)

図10 集落の維持・活性化方策の決定状況について



2 漁業者モニターに対する調査

(1) 最近の水産資源の状況

最近の水産資源の状況について、どのように感じているか伺ったところ、「資源は減少している」と回答した者の割合がもっとも高く（87.9%）、次いで、「資源は変わらない」（8.9%）、「分からない」（2.6%）、「資源は増加している」（0.6%）であった。（図11）

「資源は減少している」と答えた漁業者に対し、資源が減少している原因を伺ったところ「水温上昇等の環境変化により、資源が減少している」と回答した者の割合がもっとも高かった（51.5%）。（図12）

図11 我が国周辺海域の水産資源の状況の認識について

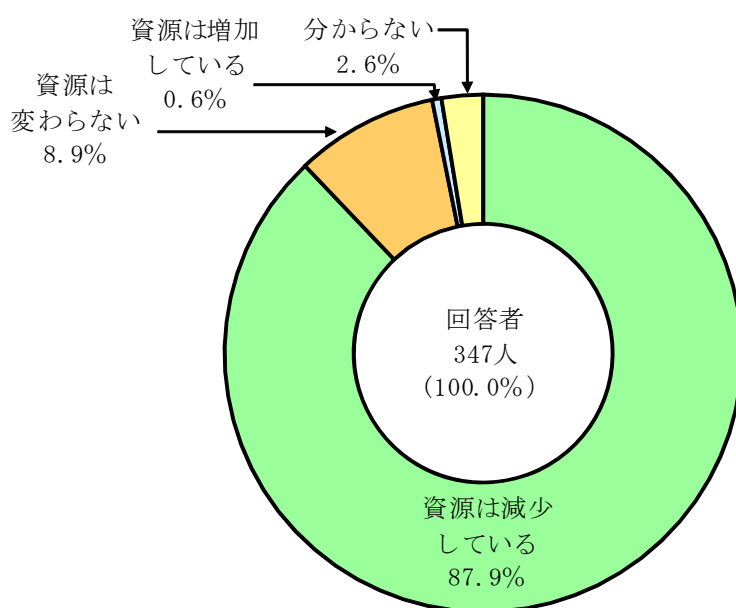
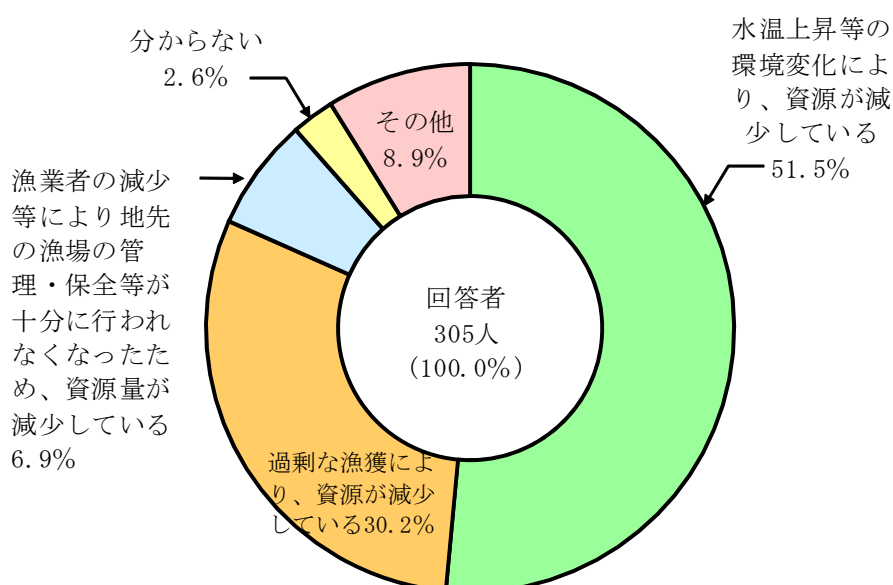


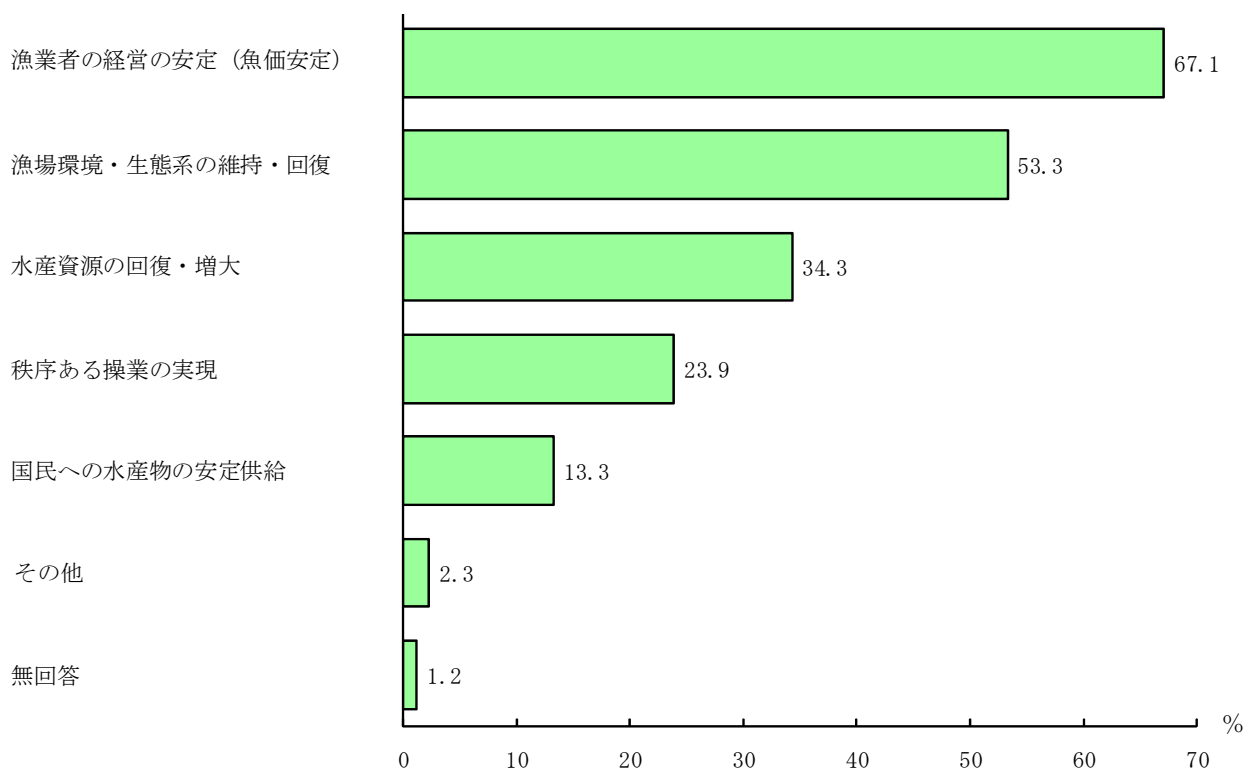
図12 資源が減少している原因について



（２） 漁業者が行っている資源管理の効果・目標（複数回答）

水産資源の管理の取組によって達成され则认为る効果・目標を伺ったところ、「漁業者の経営の安定（魚価安定）」と回答した者の割合がもっとも高く（67.1%）、次いで、「漁場環境・生態系の維持・回復」（53.3%）であった。（図13）

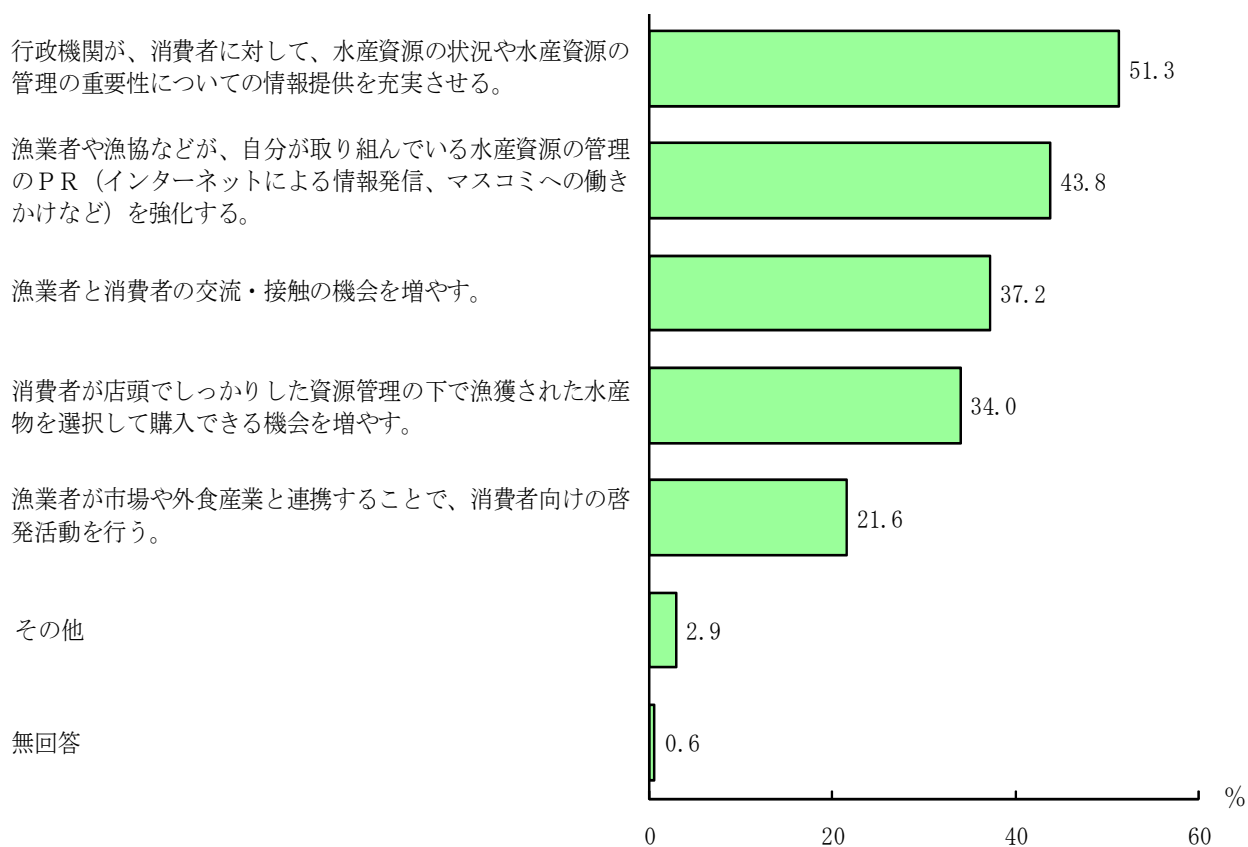
図13 漁業者が行っている資源管理の効果・目標について



(3) 漁業者が行っている資源管理について消費者の理解を深める取組（複数回答）

漁業者が行っている水産資源の管理について消費者の理解を深めるため、どのような取組が有効と考えるかを伺ったところ、「行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる。」と回答した者の割合がもっとも高く（51.3%）、次いで、「漁業者や漁協などが、自分に取り組んでいる水産資源の管理のPR（インターネットによる情報発信、マスコミへの働きかけなど）を強化する。」（43.8%）であった。（図14）

図14 漁業者が行っている資源管理について消費者の理解を深める取組について



3 流通加工業者モニターに対する調査

(1) 国産の農畜水産物・加工食品について

ア 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が増えた理由について（複数回答）

原料や販売用として取り扱う国産の農畜水産物・加工食品の取扱量を、2～3年前に比べて増やした理由について伺ったところ、「外国産に比べ品質が高いため」、「商品の高付加価値化・差別化のため」、「国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから」、「国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため」、「地産地消の要望があったため」との回答が多く、それぞれ2～5割程度であった。（表1）

表1 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が増えた理由について

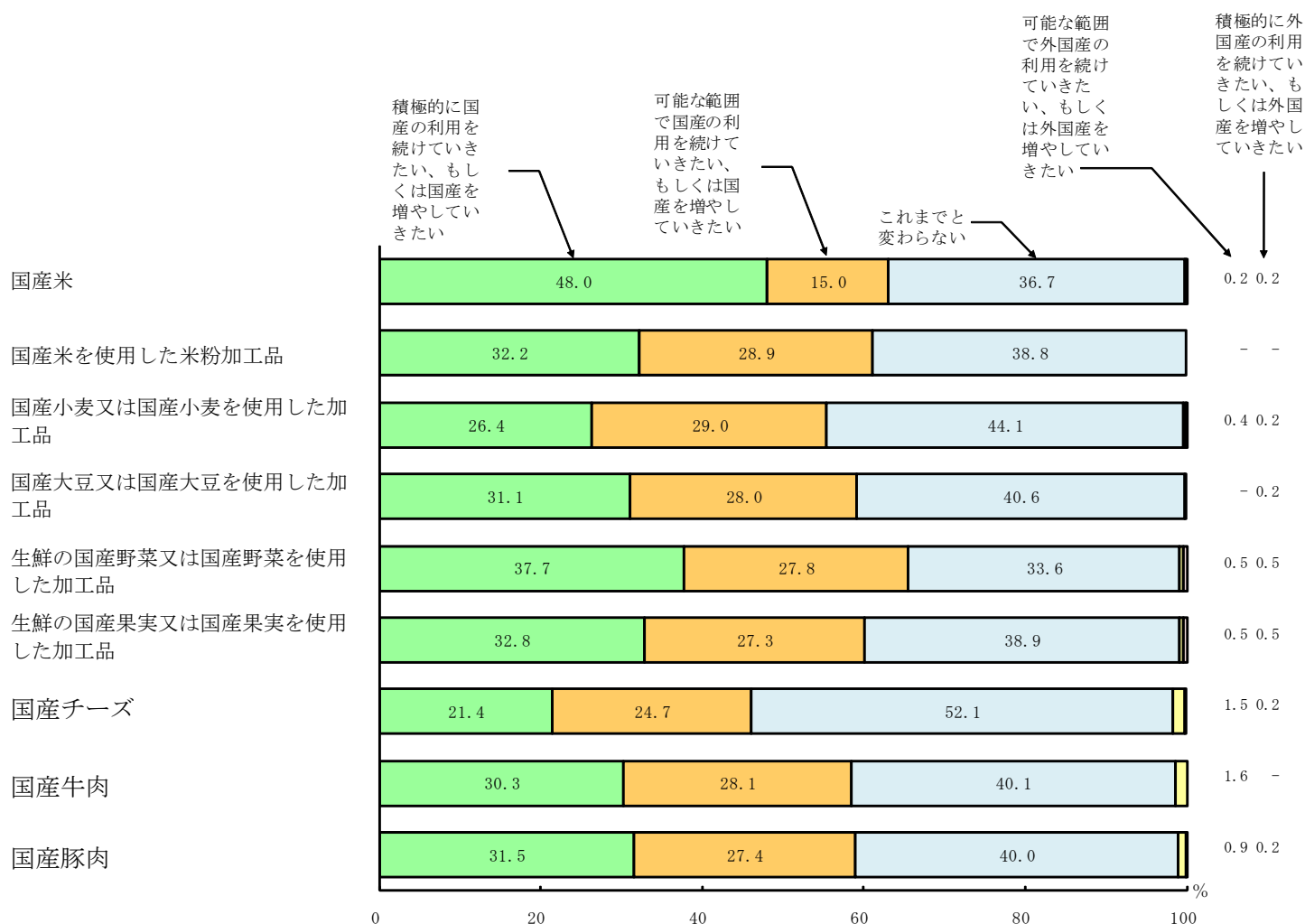
単位：（％）

	外国産に比べ品質が高いため	商品の高付加価値化・差別化のため	安定的に量が調達できるため	外国産に比べて価格が安い	価格が外国産に比べて安定しているため	国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから	産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため	自社生産に取り組んだため	国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため	小売業者や顧客等から国産を使用したいとの要望があったため	輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他
国産米	41.5	43.1	24.6	-	1.5	46.2	12.3	12.3	38.5	12.3	-	38.5	3.1
国産米を使用した米粉加工品	21.4	43.9	13.3	-	-	45.9	6.1	11.2	24.5	23.5	-	37.8	8.2
国産小麦又は国産小麦を使用した加工品	25.6	48.8	6.1	2.4	1.2	41.5	8.5	6.1	31.7	26.8	-	36.6	8.5
国産大豆又は国産大豆を使用した加工品	38.5	42.9	8.8	2.2	3.3	39.6	7.7	5.5	37.4	22.0	-	35.2	6.6
生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	38.1	42.1	16.7	1.6	1.6	42.1	8.7	9.5	42.9	37.3	0.8	46.0	8.7
生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	35.1	40.3	15.6	2.6	1.3	44.2	9.1	7.8	28.6	27.3	-	39.0	13.0
国産チーズ	28.6	42.9	7.1	-	10.7	53.6	3.6	7.1	32.1	14.3	-	28.6	-
国産牛肉	55.7	51.4	20.0	-	8.6	35.7	8.6	7.1	42.9	22.9	2.9	21.4	7.1
国産豚肉	50.0	48.7	25.0	2.6	6.6	40.8	11.8	2.6	38.2	21.1	1.3	26.3	9.2

イ 国産の農畜水産物・加工食品の取扱い量の今後の意向について

原料や販売用として取り扱う国産の農畜水産物・加工食品の取扱い量を、今後どうするか伺ったところ、「積極的に国産の利用を続けていきたい、もしくは、国産を増やしていきたい」、「可能な範囲で国産の利用を続けていきたい、もしくは国産を増やしていきたい」との回答が合わせて4～6割程度であった。(図15)

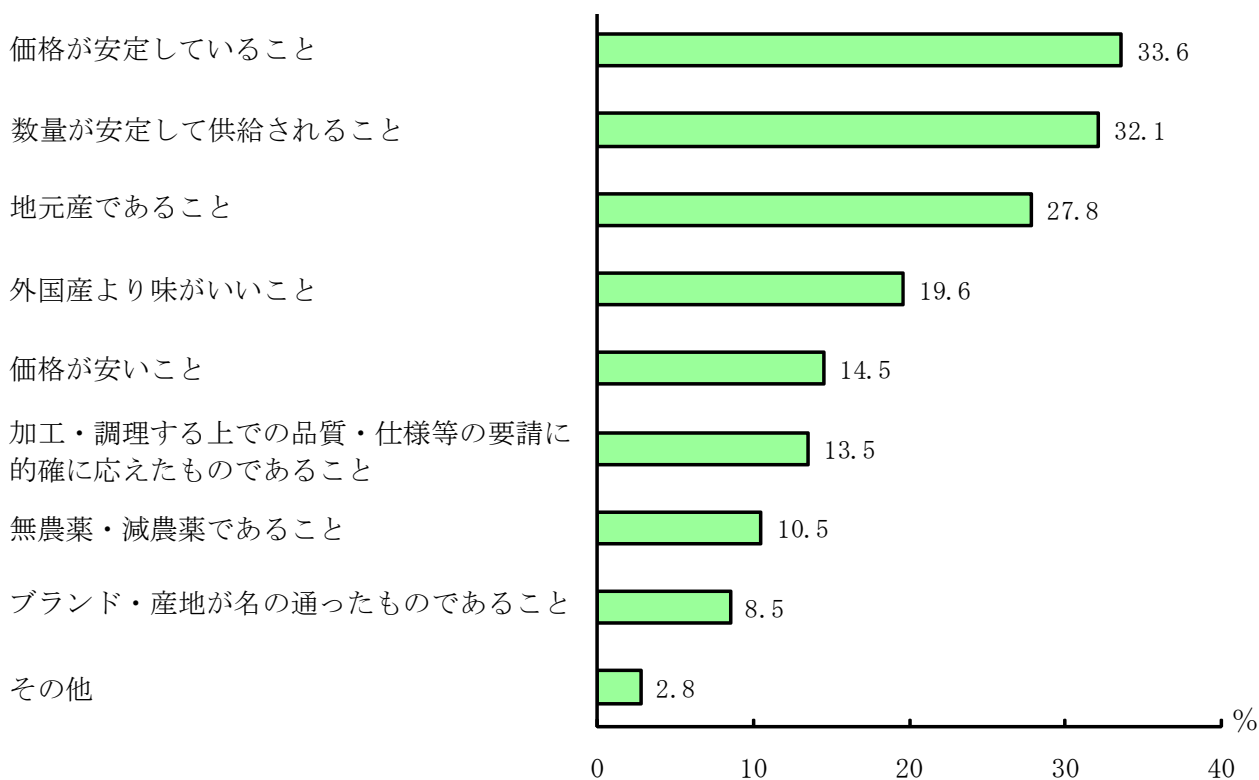
図15 国産の農畜水産物・加工食品の取扱い量の今後の意向



ウ 原料や販売用として取り扱う国産の農畜産物に求める点について（複数回答）

原料や販売用として取り扱う国産の農畜産物に求める点について伺ったところ、「価格が安定していること」（33.6%）、「数量が安定して供給されること」（32.1%）、「地元産であること」（27.8%）であった。（図16）

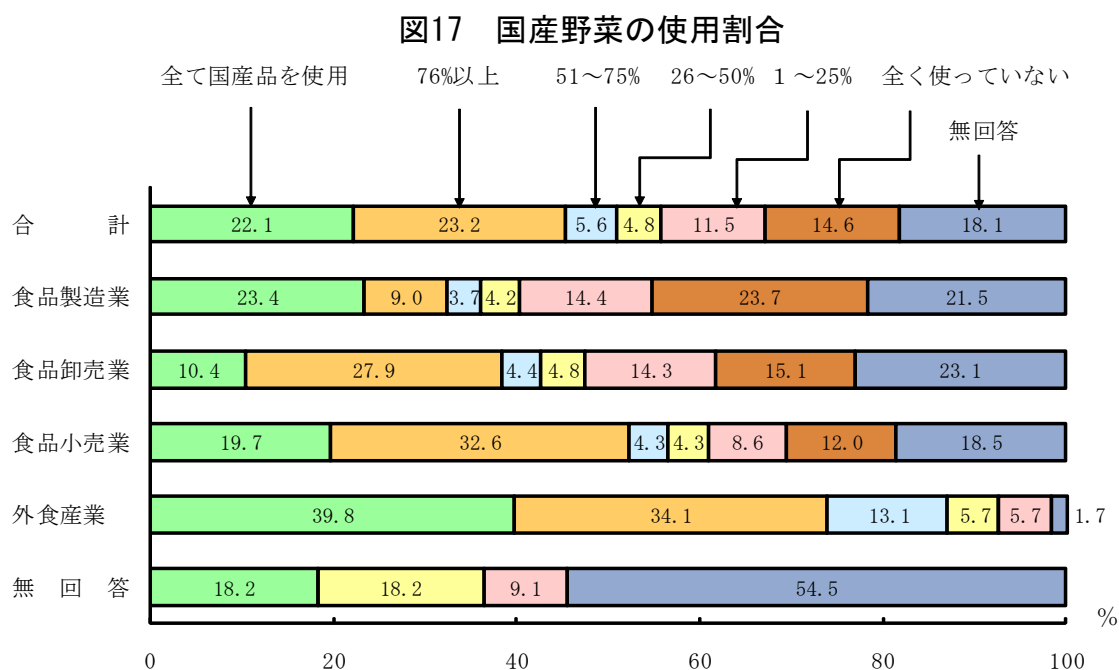
図16 原料や販売用として取り扱う国産の農畜産物に求める点



(2) 国産農産物について

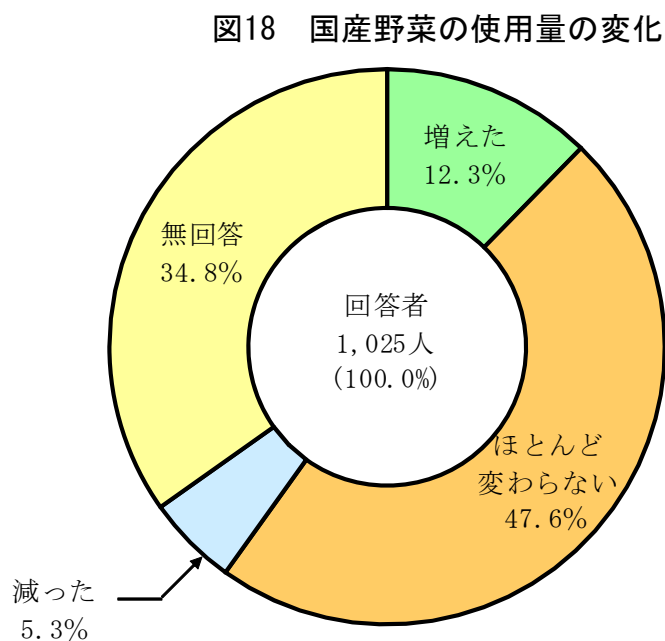
ア 国産農産物の使用割合について

取り扱う野菜全体に占める国産割合を伺ったところ、「76%以上」が23.2%と最も高く、次いで「全て国産品を使用」(22.1%)であり、この2区分合計で45.3%を占めた。また、この2区分の合計を業態別にみると、「外食産業」(73.9%)、「食品小売業」(52.3%)で高い割合であった。(図17)



イ 国産農産物の使用量の変化

国産野菜の使用量の2、3年前からの変化について伺ったところ、「ほとんど変わらない」が47.6%と最も高く、次いで「増えた」(12.3%)、「減った」(5.3%)であった。(図18)



ウ 国産野菜の使用量を増やした理由、減らした理由（複数回答）

イで「増えた」と回答された方に、国産野菜の使用量を増やした理由について伺ったところ、「地産地消の要望があったため」が46.0%と最も高く、次いで「国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため」（42.9%）、「国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから」（42.1%）、「商品の高付加価値化・差別化のため」（42.1%）であった。（図19）

一方、イで「減った」と回答された方に、国産野菜の使用量を減らした理由について伺ったところ、「量を安定的に確保することが困難なため」が25.9%と最も高く、次いで「外国産に比べ基本的に価格が高いため」（24.1%）であった。（図20）

図19 国産野菜の使用量を増やした理由

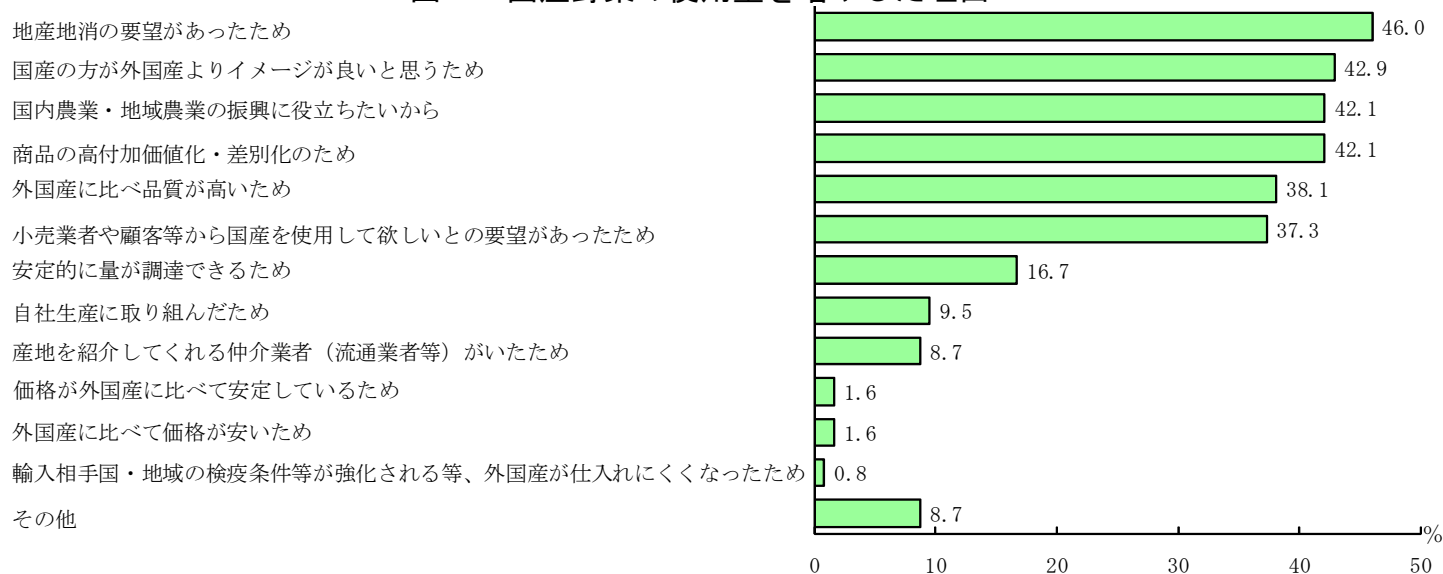


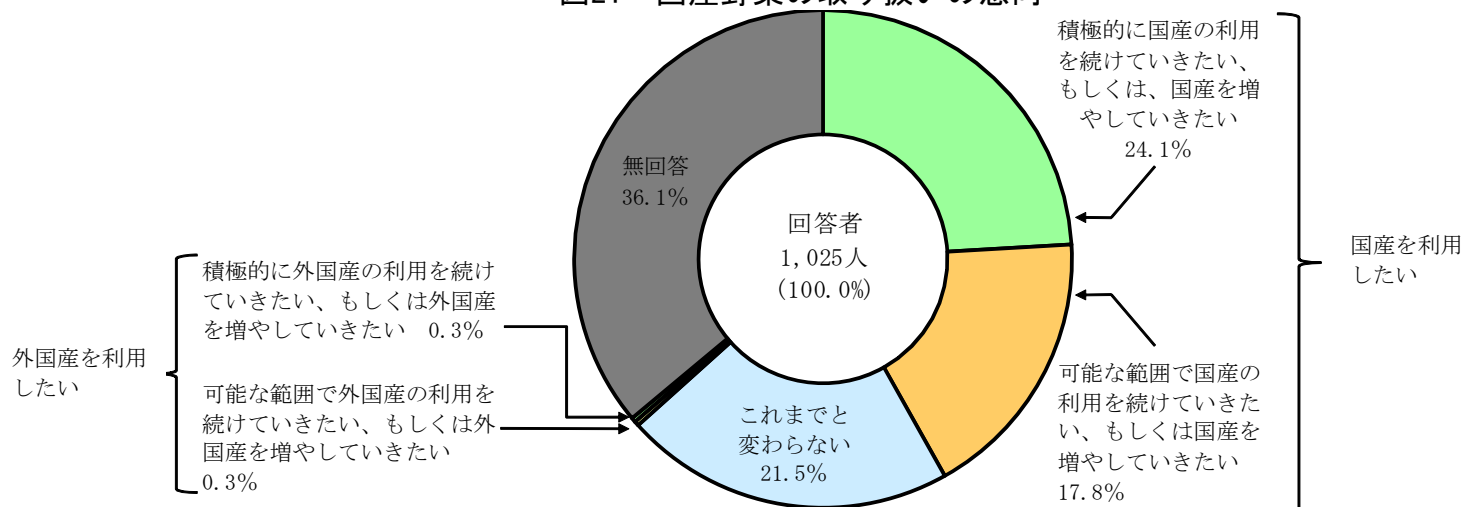
図20 国産野菜の使用量を減らした理由（複数回答）



エ 国産野菜の取り扱いの意向

国産野菜のこれからの取扱量の意向を伺ったところ、「積極的に国産の利用を続けていきたい、もしくは国産を増やしていきたい」(24.1%)が最も高く、「可能な範囲で国産の利用を続けていきたい、もしくは国産を増やしていきたい」(17.8%)と合わせた2区分合計で41.9%を占めた。「これまでと変わらない」は21.5%であり、「可能な範囲で外国産の利用を続けていきたい、もしくは外国産を増やしていきたい」(0.3%)、「積極的に外国産の利用を続けていきたい、もしくは外国産を増やしていきたい」(0.3%)の2区分合計で0.6%であった。(図21)

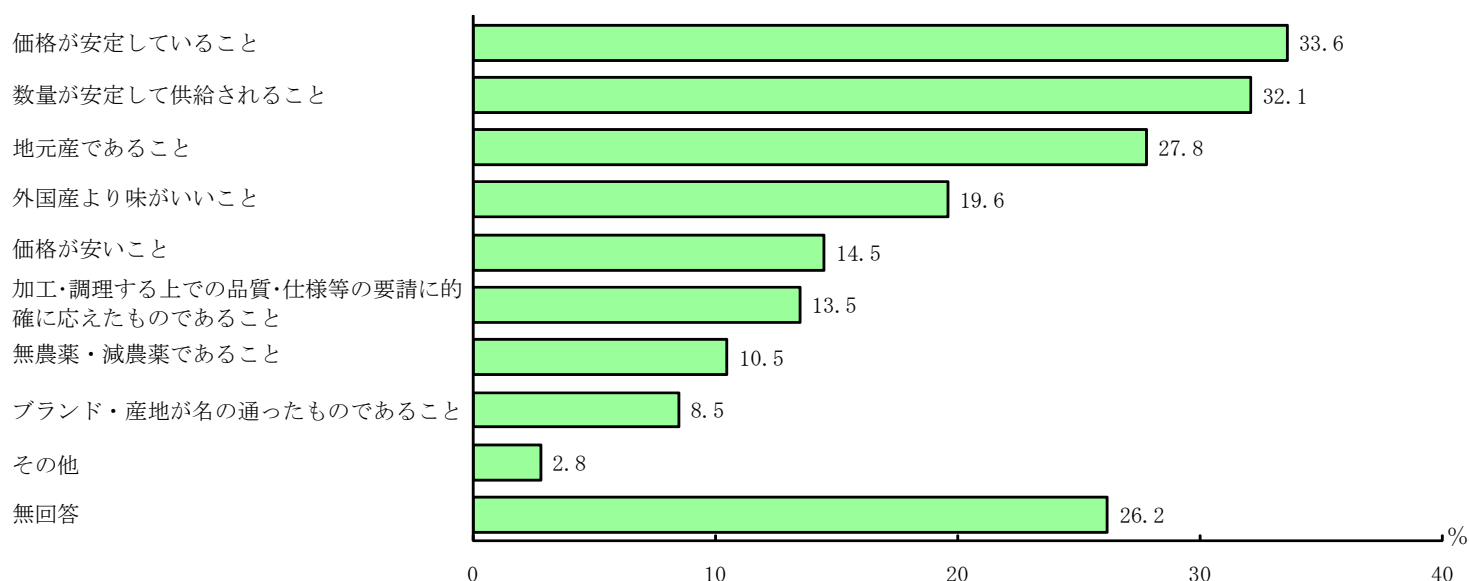
図21 国産野菜の取り扱いの意向



オ 国産野菜に求めること（複数回答）

国産野菜に求めることについて意向を伺ったところ、「価格が安定していること」が33.6%と最も高く、次いで「数量が安定して供給されること」(32.1%)、「地元産であること」(27.8%)であった。(図22)

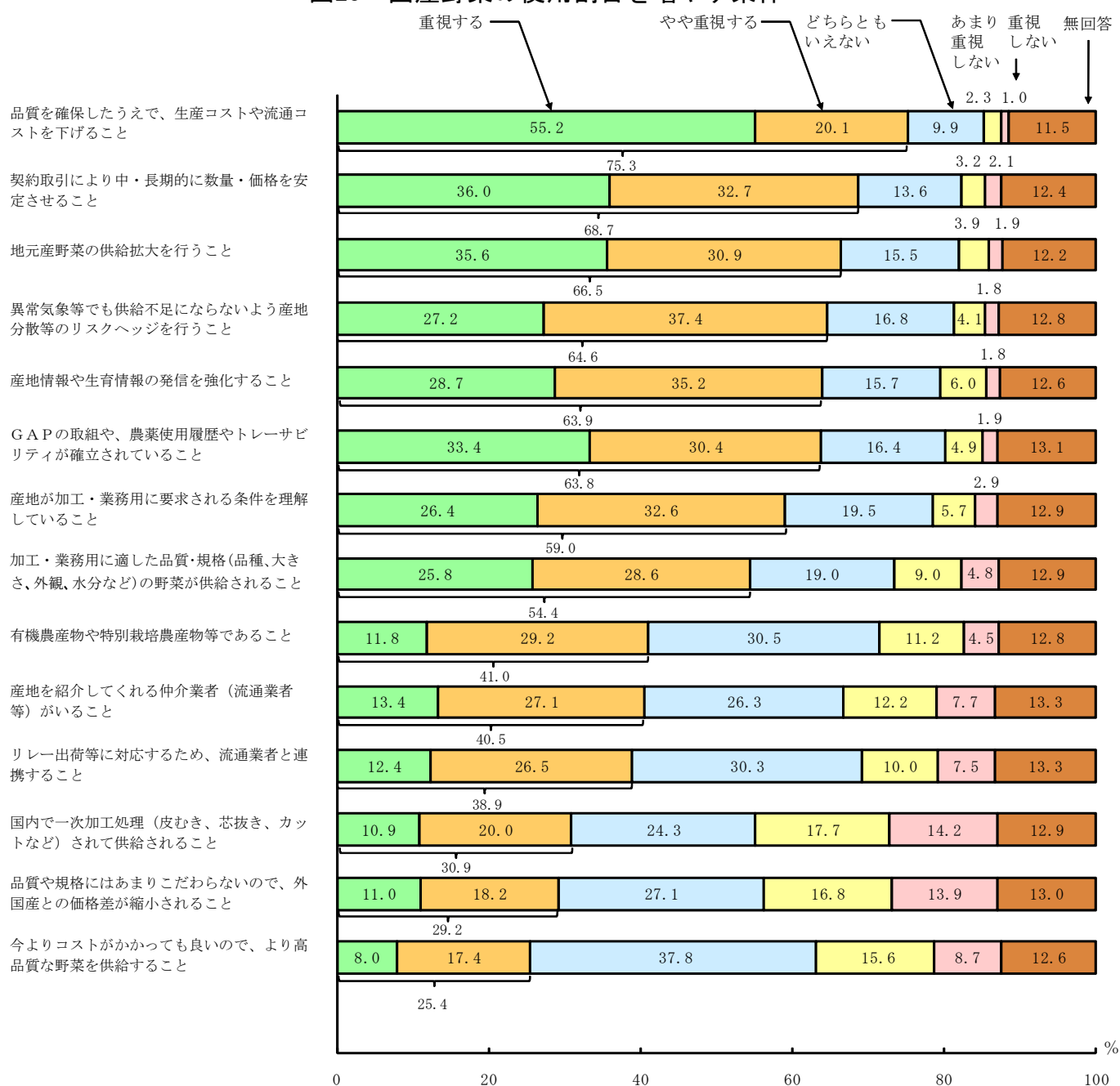
図22 国産野菜に求めること



カ 国産野菜の使用割合を増やす条件

国産野菜の使用割合を増やす（国産のみを使用している場合には国産の使用を継続する）上で、国内産地に求める条件について伺ったところ、「重視する」及び「やや重視する」の2区分合計の割合が高かった条件は、「品質を確保したうえで、生産コストや流通コストを下げること」が75.3%と最も高く、次いで「契約取引により中・長期的に数量・価格を安定させること」（68.7%）、「地元産野菜の供給拡大を行うこと」（66.5%）、「異常気象等でも供給不足にならないよう産地分散等のリスクヘッジを行うこと」（64.6%）、「産地情報や生育情報の発信を強化すること」（63.9%）、「GAPの取組や、農薬使用履歴やトレーサビリティが確立されていること」（63.8%）であった。（図23）

図23 国産野菜の使用割合を増やす条件

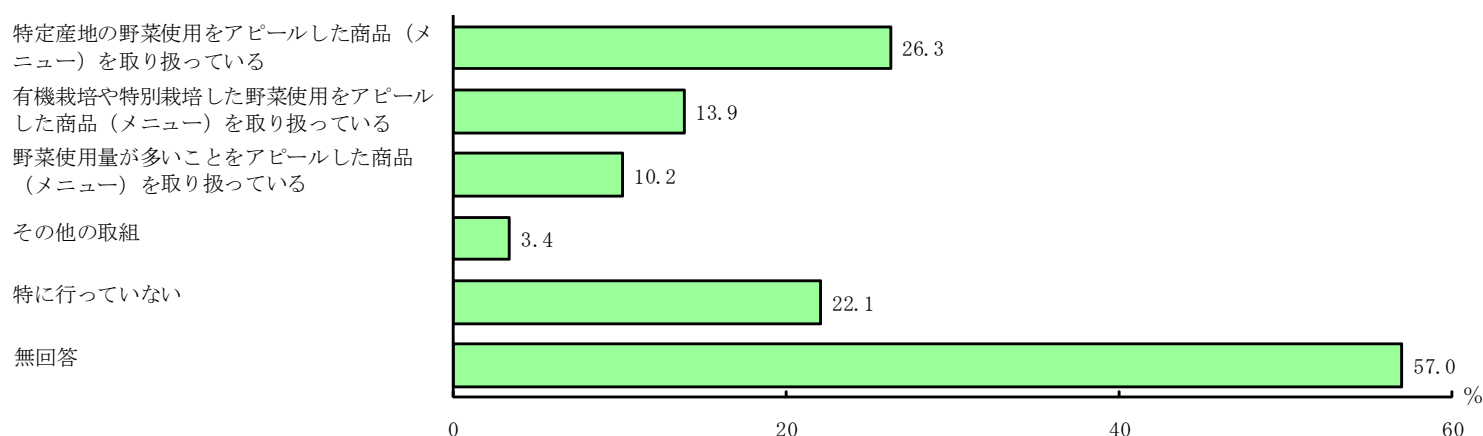


(3) 野菜の取組について

ア 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）について（複数回答）

野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の取り扱いについて伺ったところ、取り扱っていると回答された方では「特定産地の野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている」が26.3%と最も多く、次いで「有機栽培や特別栽培した野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている」（13.9%）、「野菜使用量が多いことをアピールした商品（メニュー）を取り扱っている」（10.2%）であった。（図24）

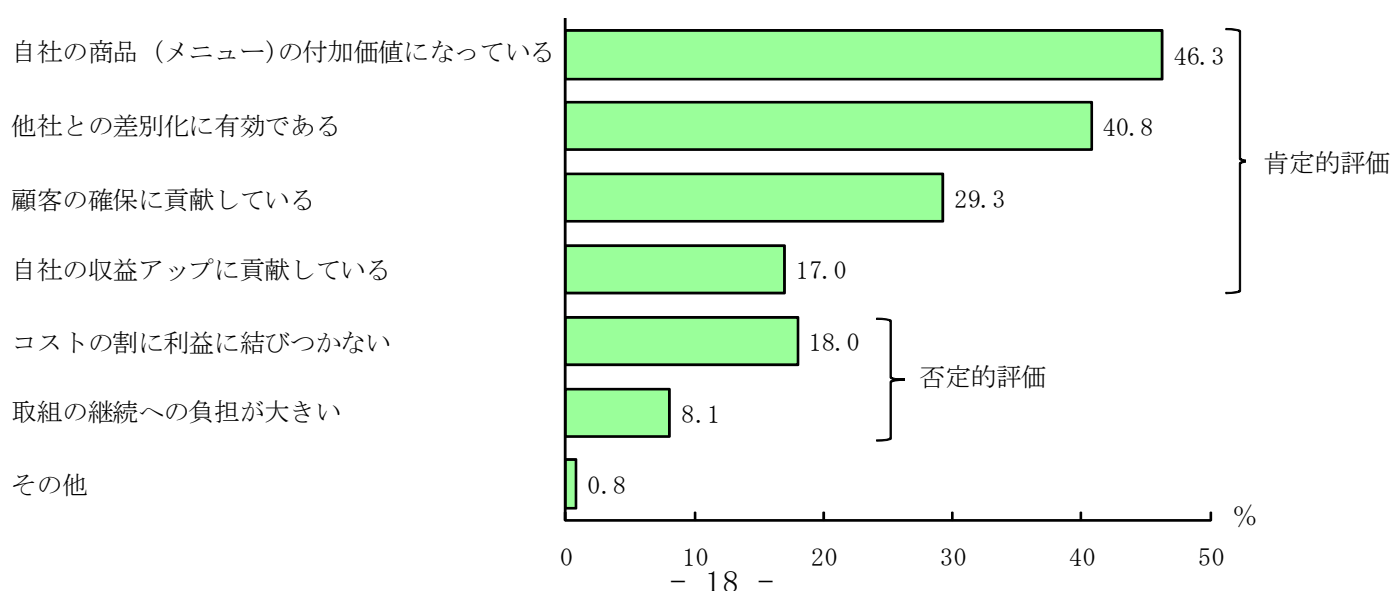
図24 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の取り扱い



イ 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の評価について（複数回答）

アで野菜の特徴を利用した商品（メニュー）を取り扱っていると回答された方に、野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の会社等での評価を伺ったところ、肯定的評価としては、「自社の商品（メニュー）の付加価値になっている」が46.3%と最も多く、次いで「他社との差別化に有効である」（40.8%）、「顧客の確保に貢献している」（29.3%）、「自社の収益アップに貢献している」（17.0%）であった。一方、否定的評価としては、「コストの割に利益に結びつかない」（18.0%）、「取組の継続への負担が大きい」（8.1%）であった（図25）

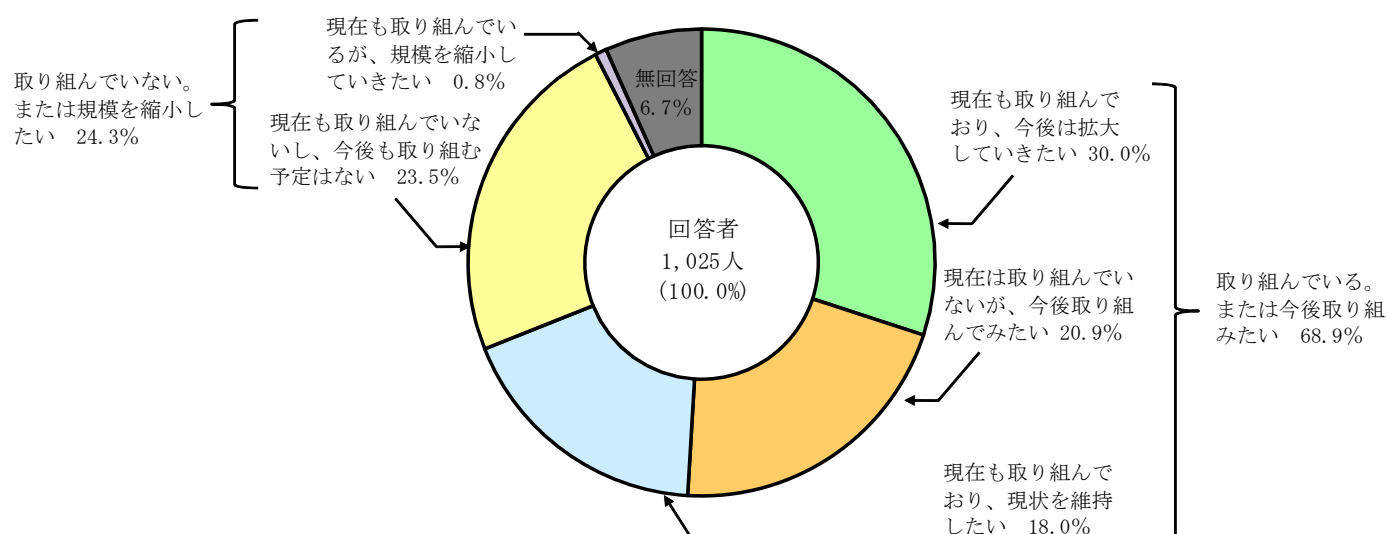
図25 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の評価



ウ 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の今後の取り扱い対する意識

野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の今後の取り扱いについて伺ったところ、「現在も取り組んでおり、今後は拡大していきたい」が30.0%と最も多く、「現在は取り組んでいないが、今後取り組んでみたい」（20.9%）、「現在も取り組んでおり、現状を維持したい」（18.0%）と今後取り組むとする上記3区分の合計は68.9%を占めた。一方、「現在も取り組んでいないし、今後も取り組む予定はない」は23.5%であった。（図26）

図26 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）に対する意識



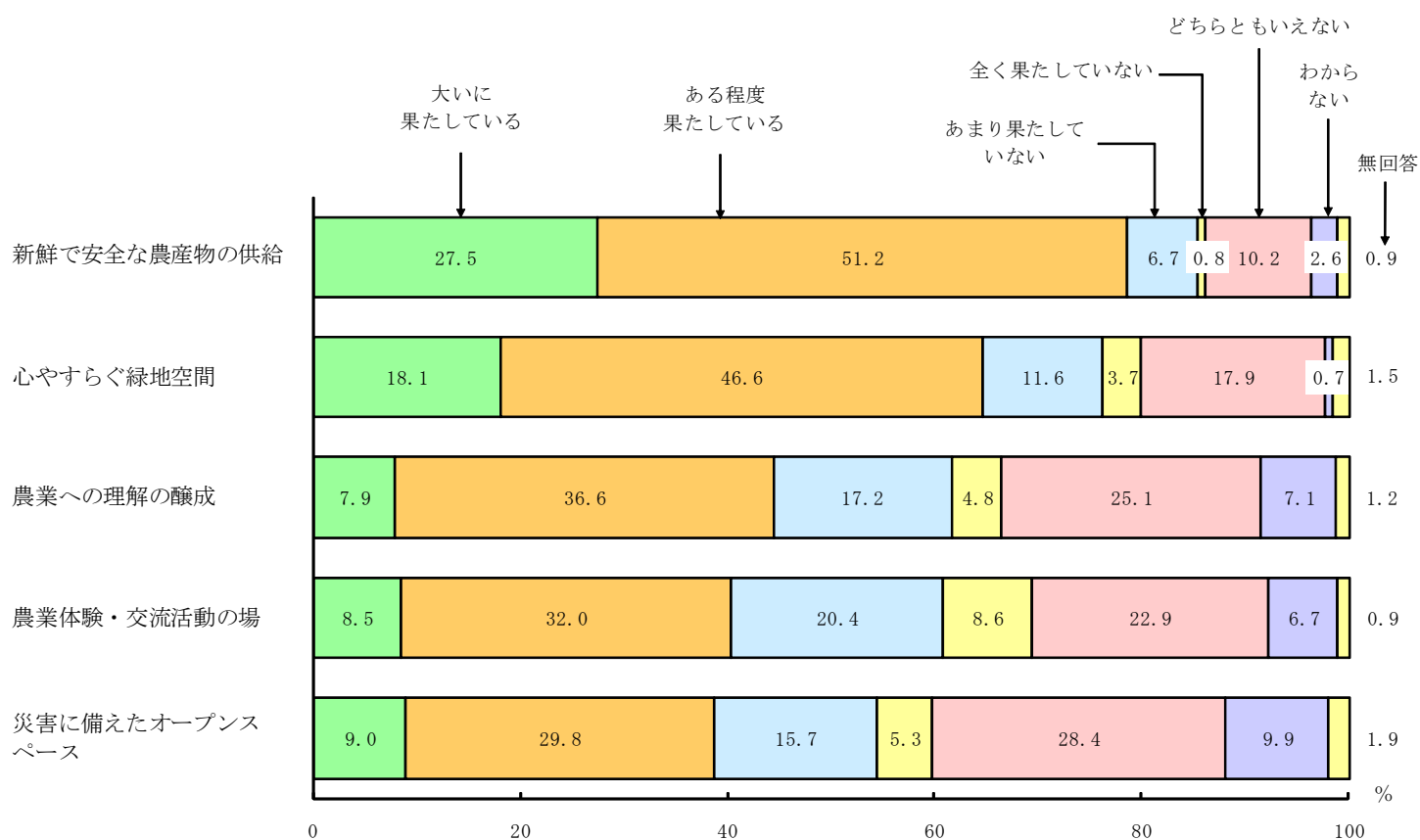
4 消費者モニターに対する調査

(1) 都市農業について

ア 都市農業の役割・機能について

都市部に住み、その住まいの近くに農地がある消費者に対して、都市農業はどのような役割・機能を果たしているか伺ったところ、「大いに果たしている」または「ある程度果たしている」を合わせた回答は、「新鮮で安全な農産物の供給」(78.7%)、「心安らぐ緑地空間」(64.7%)、「農業への理解の醸成」(44.5%)となった。(図27)

図27 都市農業について



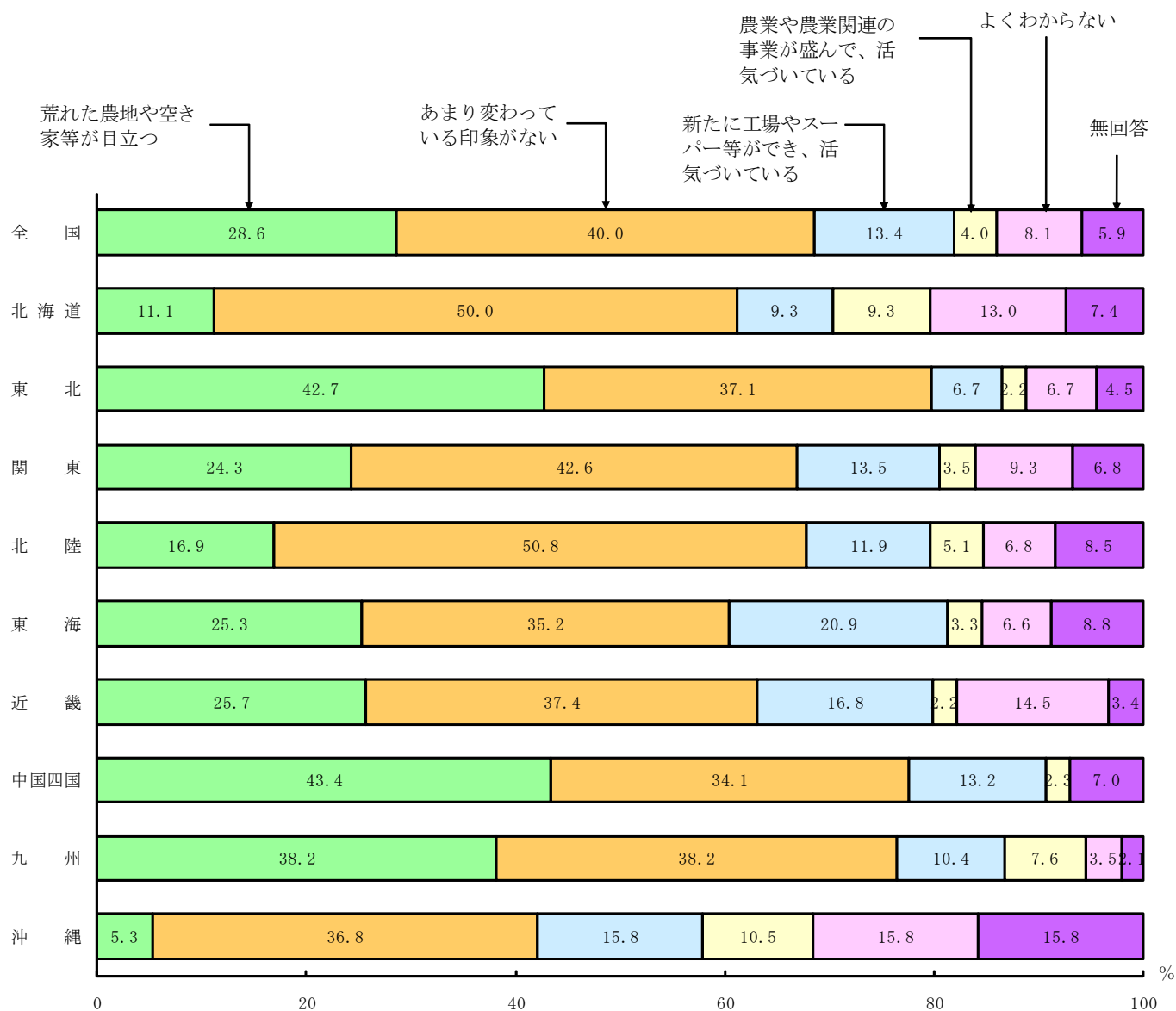
(2) 農業・農村の維持・活性化について

ア 消費者からみた農村の現状

都市部以外に住む消費者、あるいは都市部に住んでいても帰省先が農村部である消費者に、農業・農村の現状について伺ったところ、「あまり変わっている印象がない」(40.0%)、次いで「荒れた農地や空き家等が目立つ」(28.6%)をあげるモニターが多かった。一方、「新たに工場やスーパー等ができ、活気づいている」(13.4%)、「農業や農業関連の事業が盛んで、活気づいている」(4.0%)は少なかった。

これらを地域別にみると、特に、東北、中国四国、九州で「荒れた農地や空き家等が目立つ」が4割程度と多かった。(図28)

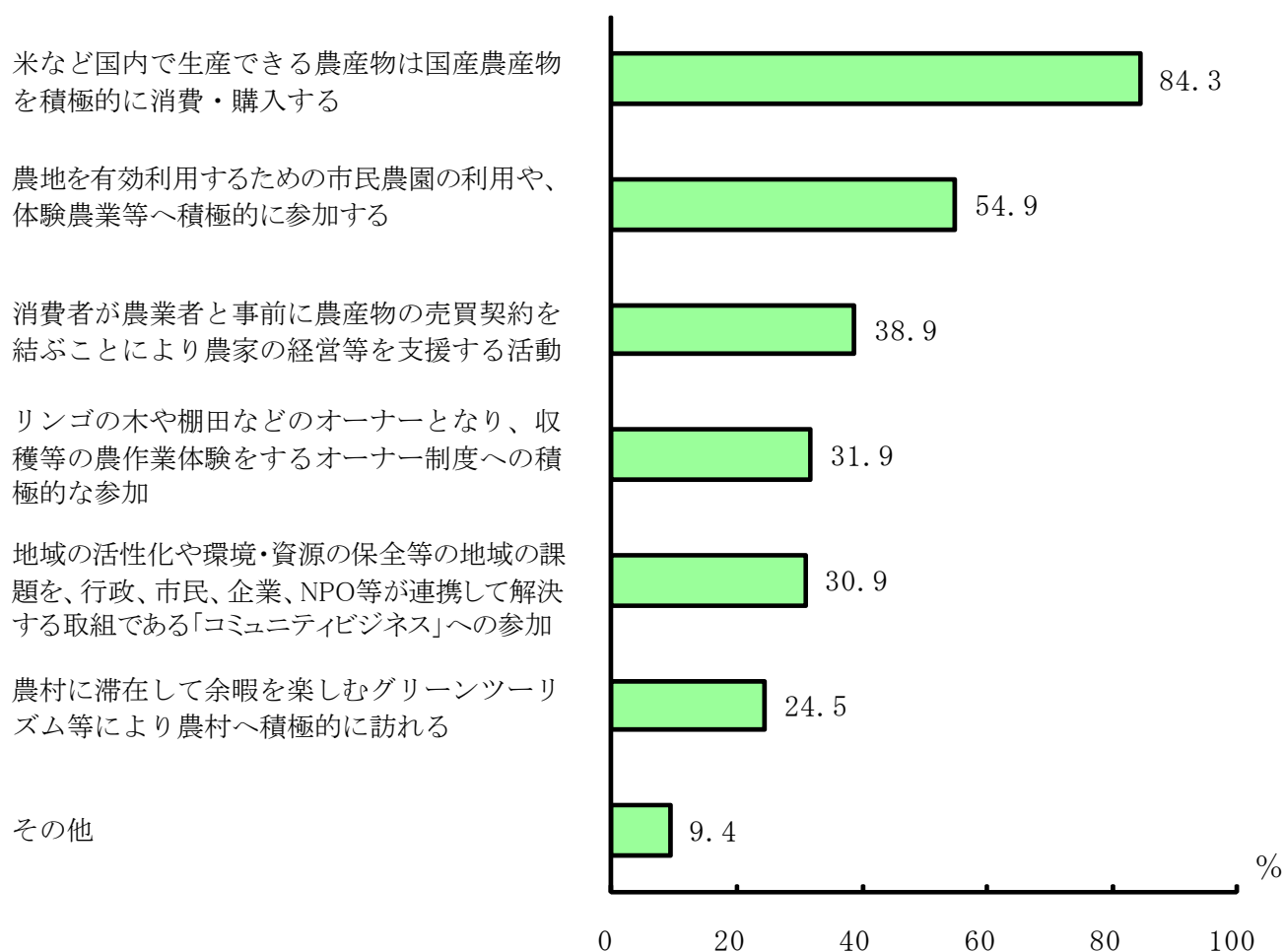
図28 消費者からみた農村の現状



イ 農業・農村の維持・活性化のために、消費者として応援していったらよいと思う取組について（複数回答）

農業・農村の維持・活性化のために、消費者としてどのような応援をしていったらよいか伺ったところ、「米など国内で生産できる農産物は国産農産物を積極的に消費・購入する」（84.3%）、「農地を有効利用するための市民農園の利用や、体験農業等へ積極的に参加する」（54.9%）、「消費者が農業者と事前に農産物の売買契約を結ぶことにより農家の経営等を支援する活動」（38.9%）、「リンゴの木や棚田などのオーナーとなり、収穫等の農作業体験をするオーナー制度への積極的な参加」（31.9%）であった。（図29）

図29 農業・農村の維持・活性化のために消費者として応援していったらよいと思う取組



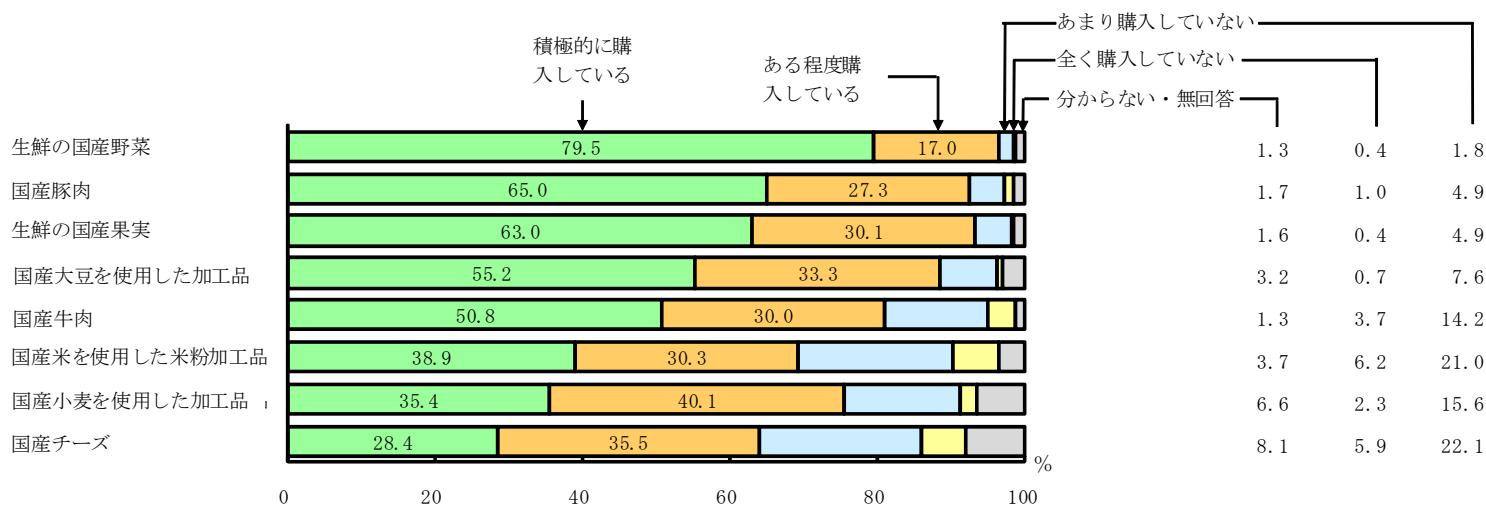
(3) 国産農産物、食品の購入について

ア 国産農産物等の購入状況について

普段の食材の買い物において、どの程度国産の農産物等を購入しているか伺ったところ、生鮮野菜（79.5%）、豚肉（65.0%）、生鮮果実（63.0%）等については国産品を積極的に購入しているとの回答が6～8割と多かった。

一方、国産米を使用した米粉加工品（38.9%）、国産小麦を使用した加工品（35.4%）、国産チーズ（28.4%）等については、積極的に購入しているとの回答は3～4割と少なかった。（図30）

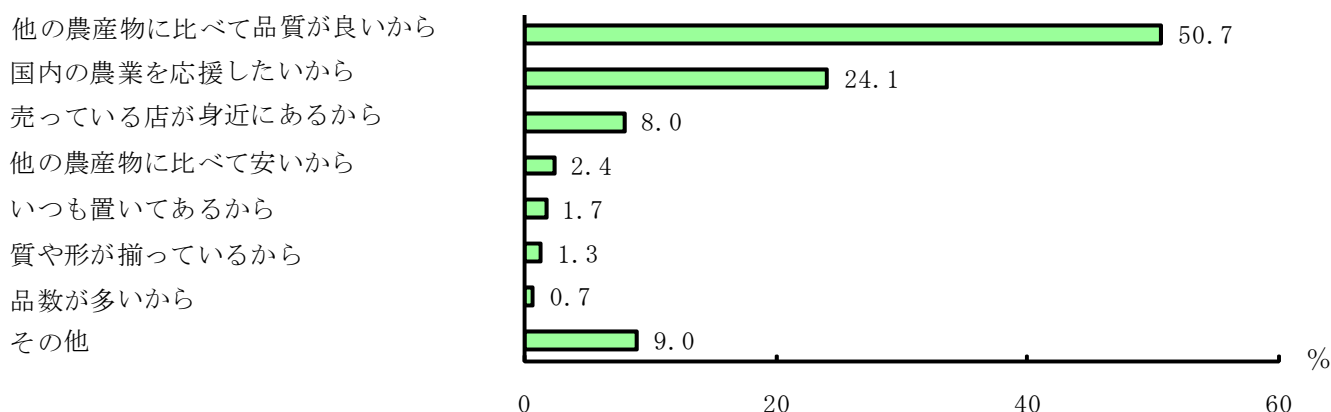
図30 国産農産物等の購入状況



イ 国産農産物等を購入している理由について

国産の農産物等を購入している理由について伺ったところ、「他の農産物に比べて品質が良いから」（50.7%）、「国内の農業を応援したいから」（24.1%）、「売っている店が身近にあるから」（8.0%）であった。（図31）

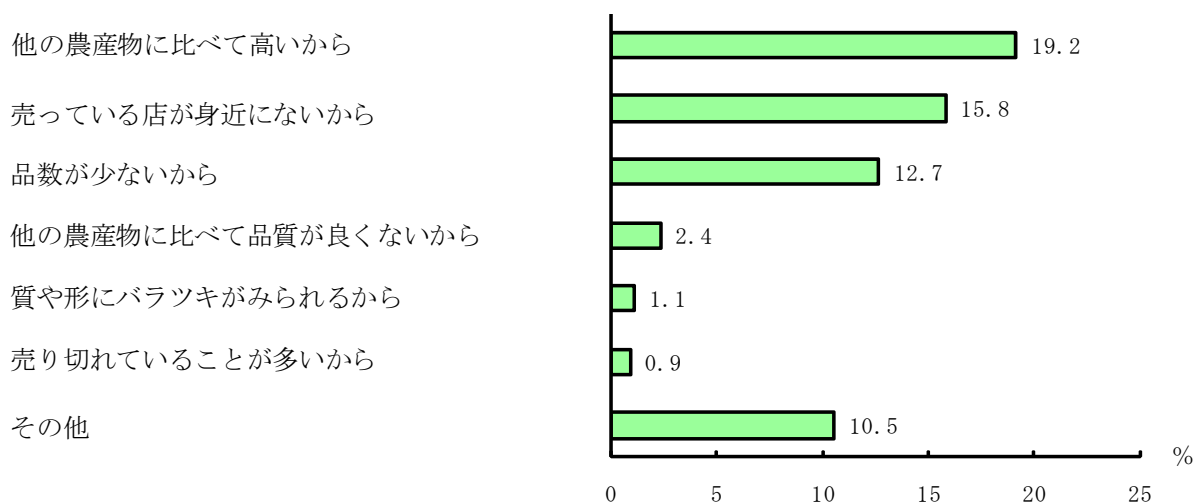
図31 国産農産物等を購入している理由



ウ 国産農産物等を購入していない理由について

国産の農産物等を購入していない理由について伺ったところ、「他の農産物に比べて高いから」(19.2%)、「売っている店が身近にないから」(15.8%)、「品数が少ないから」(12.7%)であった。(図32)

図32 国産農産物等を購入していない理由



(4) 水産業について

ア 水産資源の状況と利用

我が国周辺海域の水産資源の状況について認識を伺ったところ、「枯渇しつつある」と回答した者の割合がもっとも高かった（55.4%）。(図33)

また、水産資源の利用に関する考え方を伺ったところ、「水産資源を食料として持続的に利用できるよう、漁業と資源保護の両立を図っていくべき」と回答した者の割合が多数を占めた（86.5%）。(図34)

図33 我が国周辺海域の水産資源の状況の認識について

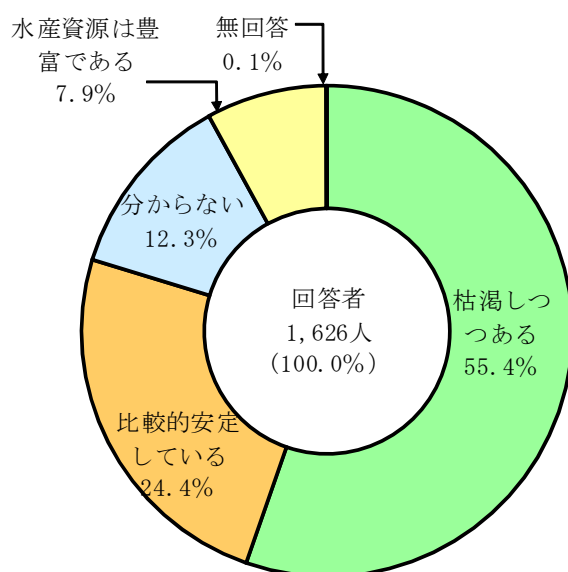
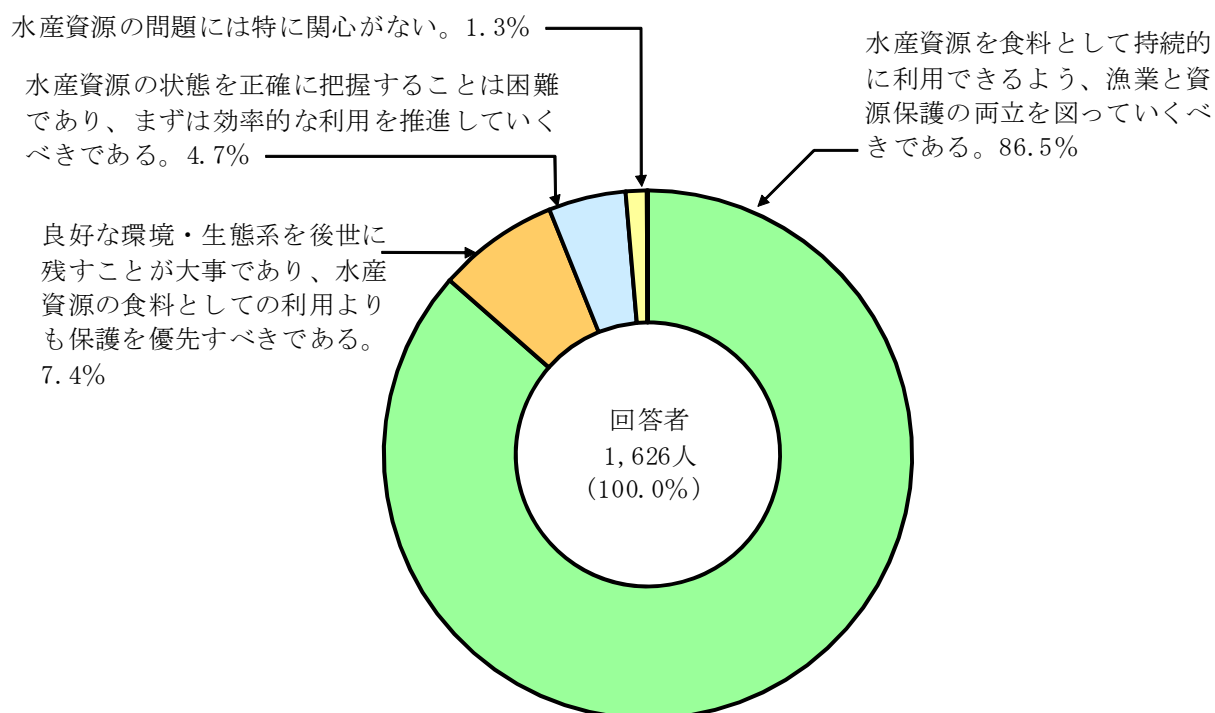


図34 水産資源の利用に関する考え方について



イ 水産物を購入する際に重視すること（複数回答）

水産物を購入する際に重視することを消費者に伺ったところ、「鮮度」(67.7%)、「安全・安心」(54.6%)、「価格」(49.4%)の順で回答した者の割合が高く、「資源管理上問題のない魚種であること」は1.9%にとどまった。(図35)

また、水産エコラベルの認知度を伺ったところ、74.2%が「知らない」との回答であったが、水産エコラベルのマークが付いた水産物が販売されていたら購入するかについて伺ったところ、「価格や鮮度が同一であれば、エコラベルのマークが付いた水産物を選択する」が69.9%、「多少高くても、エコラベルのマークが付いた水産物を購入する」が16.0%であった。(図36、37)

図35 水産物を購入する際に重視することについて

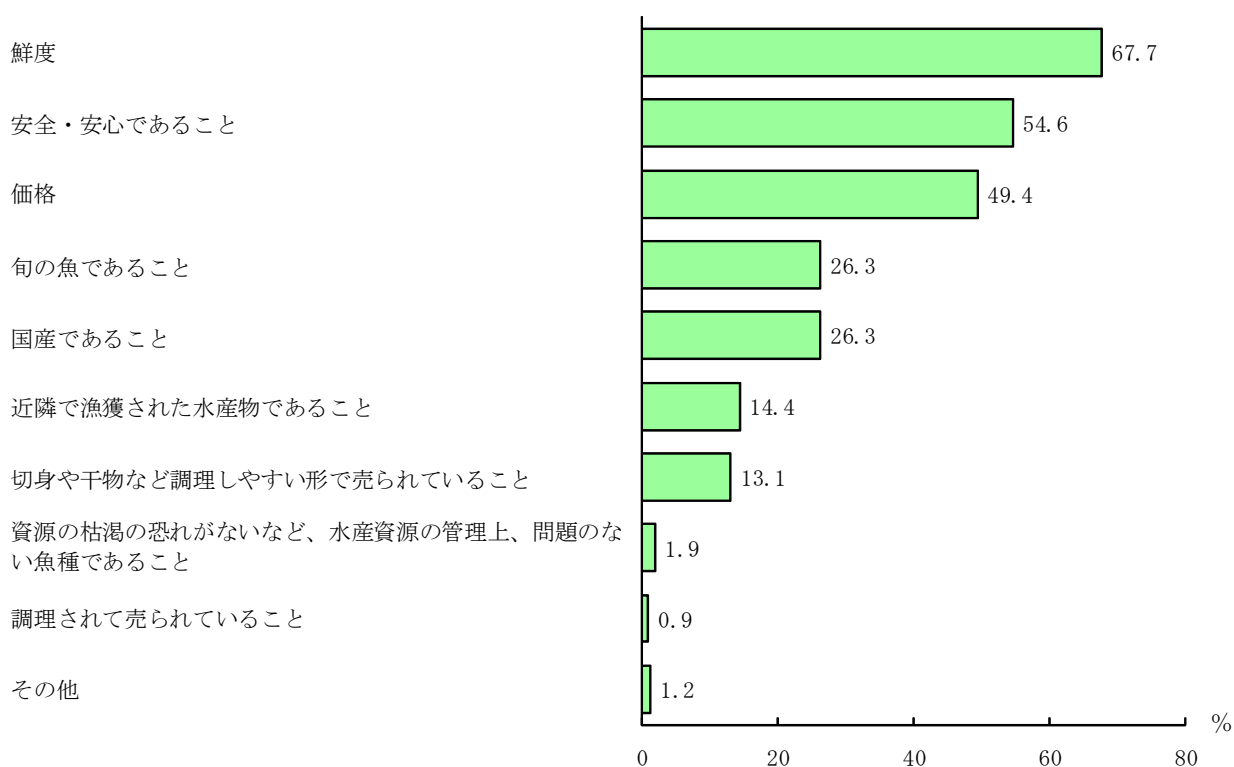


図36 水産エコラベルの認知度について

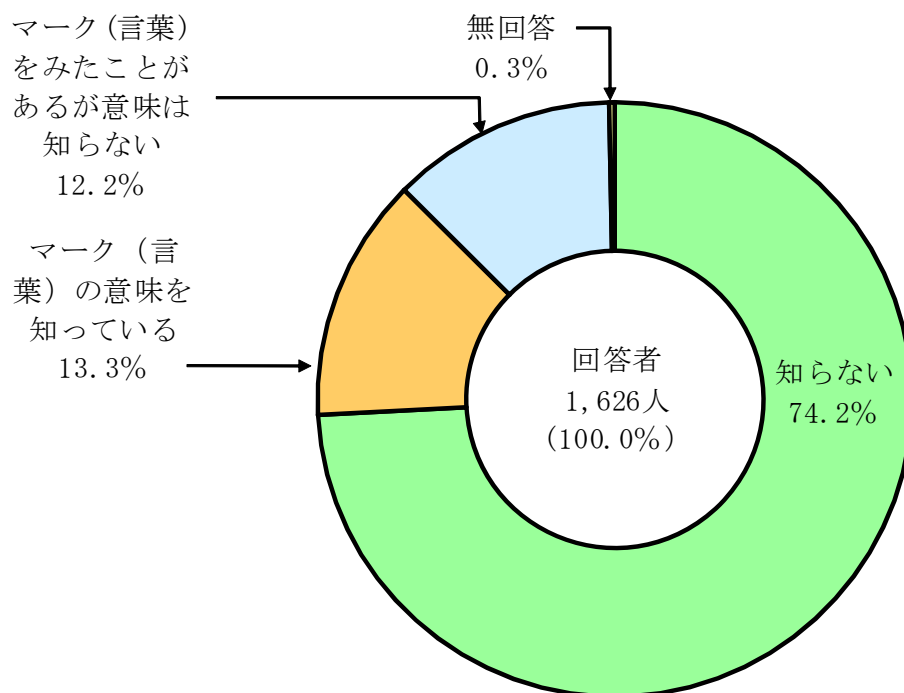
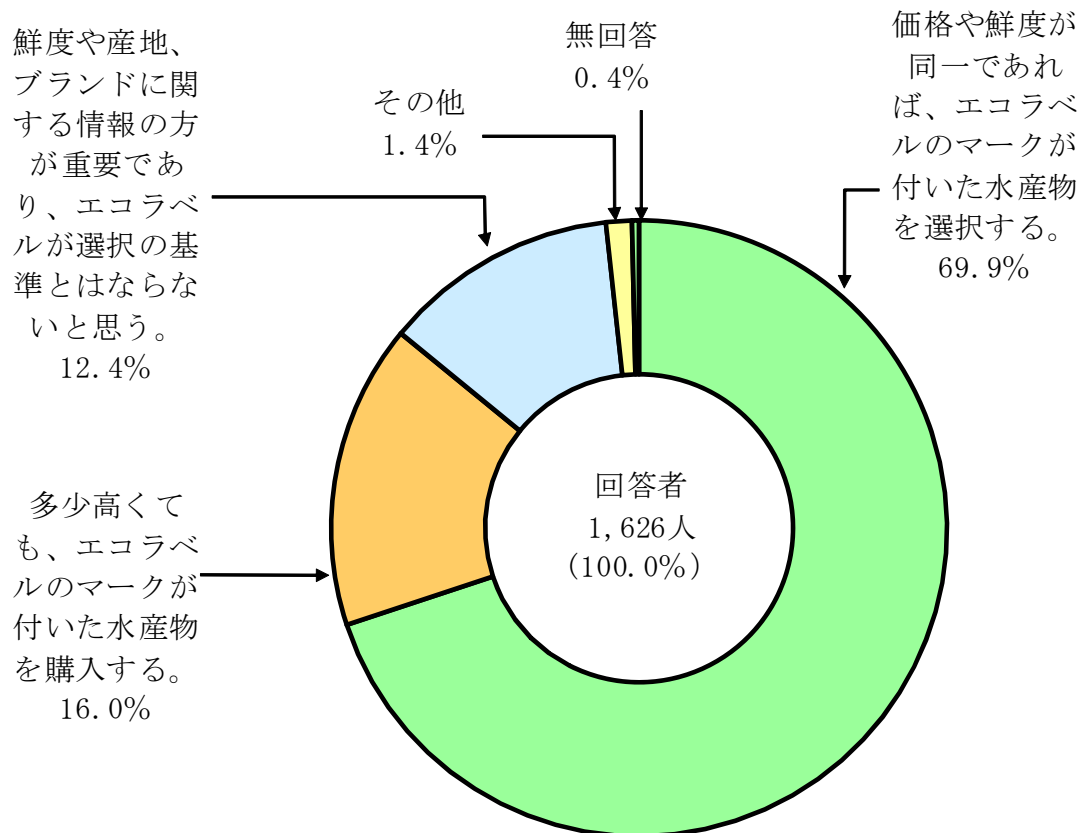


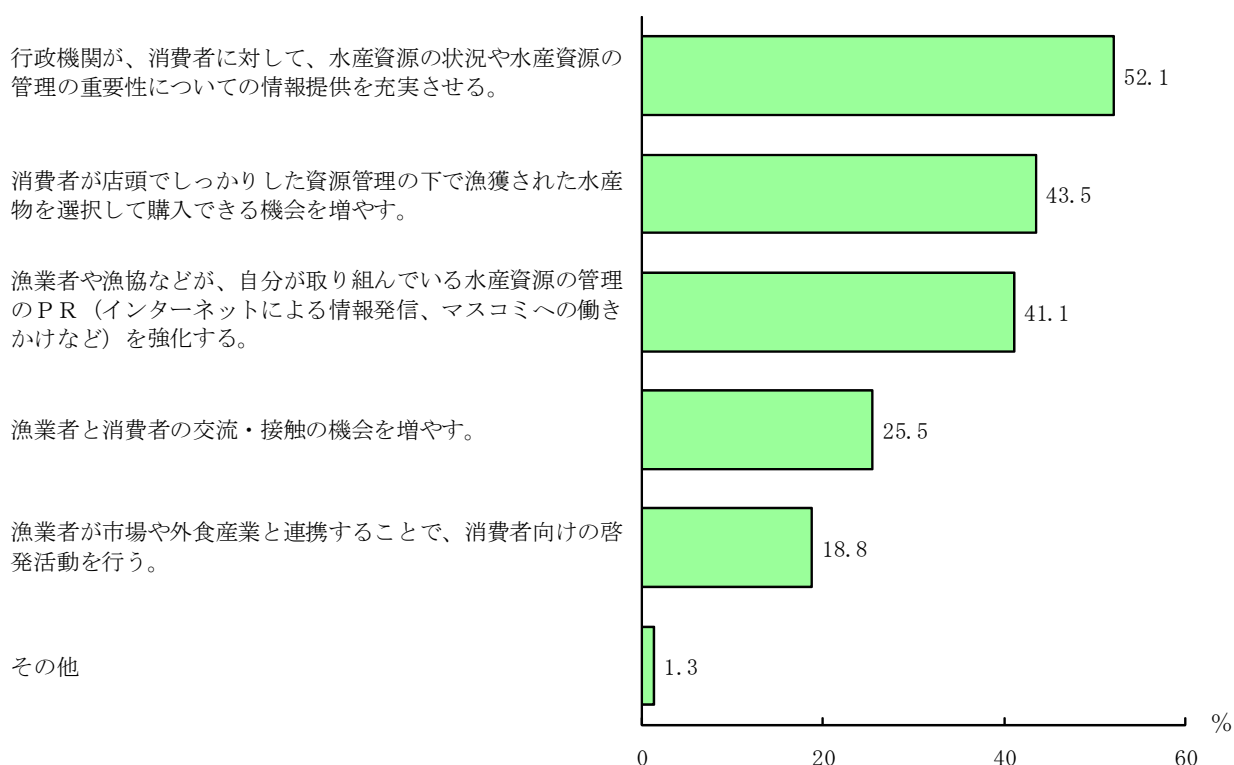
図37 「エコラベル」マークが付いた水産物購入の意向について



ウ 漁業者が行っている資源管理について消費者の理解を深める取組（複数回答）

漁業者が行っている水産資源の管理について消費者の理解を深めるため、どのような取組が有効と考えるか伺ったところ、「行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる。」と回答した者の割合がもっとも高く（52.1%）、次いで、「消費者が店頭でしっかりした資源管理の下で漁獲された水産物を選択して購入できる機会を増やす。」（43.5%）であった。（図38）

図38 漁業者が行っている資源管理について消費者の理解を深める取組について



【 統 計 表 】

(農業者モニターに対する調査)

《 目 次 》

1 過去1年間で最も販売金額が多い品目	30
2 年齢	30
3 農業経営の状況	30
4 今後の農業経営の意向	
(1) 農業の経営規模等(複数回答)	30
(2) 組織形態	30
(3) 集落営農への参加	30
5 「経営面積(頭数等)を拡大したい」あるいは「新たな部門に取り組みたい」と考える理由(複数回答)	31
6 「経営面積(頭数等)を縮小したい」、「取組部門数を減らしたい」等を行いたい理由(複数回答)	32
7 「6次産業化」の取組状況(複数回答)	
(1) 既に取り組んでいるもの	33
(2) 今後取り組みたいもの	33
8 「6次産業化」に取り組む場合の課題(複数回答)	34
9 「環境保全型農業」の取組の意向	34
10 「環境保全型農業」に取り組む理由(複数回答)	35
11 「環境保全型農業」に取り組む場合に支障となる(なっている)もの(複数回答)	35
12 「環境保全型農業」に取り組みたくない理由(複数回答)	36
13 集落における農業の後継ぎの確保状況	36
14 農村で生活する上で困ることや不安なこと(上位5つまで順位を付けて選択)	36
15 集落の維持・活性化方策の決定状況	38
16 集落の農業の担い手として期待する人・組織(複数回答)	38
17 農業者自身が行っている集落維持、活性化のための取組(複数回答)	38
18 子どもたち(小学校高学年～中学生まで)の食べ物や農業についての知識	39
19 子どもたちの親の食べ物や農業についての知識	39
20 農業関係団体の役割発揮に関する意向	
(1) 農業協同組合	39
(2) 農業委員会	40
(3) 農業共済組合	40
(4) 土地改良区	40
(5) 普及組織	40

1 過去1年間で最も販売金額が多い品目

単位：％

単位：%											
区 分	回答者数	米	畑作物(注)	野菜	果樹	畜産	花き	その他	無回答	区分	
計	1	人 1,627	33.8	4.3	23.0	13.4	13.0	6.1	6.3	0.1	1

注：「畑作物」は、麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

2 年齢

単位：％

単位：人

区 分	回答者数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	無回答	区分	
計	1	人 1,627	0.6	2.9	10.8	30.7	24.6	12.3	18.1	0.1	1

3 農業経営の状況

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	全て個別 に行って いる	米などの 基幹作物 では自分 で行って いるが、 他の作物 では他の 人、組織 に任せて いる	一部作物 では自分 で行って いるが、 多くの作 物では、 他の人、 組織に任 せている	全て、他 の人、組 織に任せ ている	無回答	区分	
計	1	人 1,627	83.2	6.5	6.6	3.1	0.7	1

4 今後の農業経営の意向

(1) 農業の経営規模等（複数回答）

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	農業経営面積（頭数等）を拡大したい	作業受託（面積等）を拡大したい	新たな部門に取り組む等、経営の複合化を進めたい	現状のまま維持したい	農業経営面積（頭数等）を縮小したい	農業取組部門数を減らしたい	作業受託（面積等）を縮小したい	農業を止めたい	無回答	区分	
計	1	人 1,627	29.0	15.1	22.4	45.3	5.6	1.1	0.9	1.4	7.6	1

(2) 組織形態

単位：％

単位：%							
区 分	回答者数	個人経営 (非法人) のままで よい	法人化し たい	既に法人 になって いる	無回答	区分	
計	1	人 1,627	67.1	15.2	13.0	4.8	1

(3) 集落営農への参加

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	自らの農地の近くに集落営農があり、参加したい	自らの農地の近くに集落営農ができれば、参加したい	自らの農地の近くに集落営農があるが、参加したくない	自らの農地の近くに集落営農もないし、参加もしたくない	既に集落営農に参加しており、今後とも参加したい	既に集落営農に参加しているが、今後は参加したくない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	3.5	21.3	8.7	38.5	17.5	2.0	8.6	1

注：集落営農には、転作組合、麦作集団等も含む。

5 「経営面積（頭数等）を拡大したい」あるいは「新たな部門に取り組みたい」と考える理由（複数回答）

4の（1）で「農業経営面積（頭数等）を拡大したい」、「作業受託（面積等）を拡大したい」、「新たな部門に取り組む等経営の複合化を進めたい」と回答した方のみ回答

単位：％

単位：%												
区 分	回答者数	収益の増加が見込めるため	農地購入価格、または借り入れ地代が低いため	他の農家等から農地等を引き受けてほしいという依頼があるため	自分の農地と隣接した農地を利用できる見込みがあり、規模拡大により効率的な営農を行いたいと考えるため	後継者がいる等、規模拡大に必要な労働力が十分あり、この労働力を有効活用するため	遊休農地等を有効活用するため	農業機械・施設を有効活用するため	品種改良や機械、栽培技術といった技術面の進歩により生産効率が上がり、規模拡大に必要な資金や労力的な余裕がある	その他	区分	
計	1	645	51.2	4.2	20.2	22.0	26.5	8.4	27.9	4.0	5.7	1
今後の組織形態意向別												
個人経営	2	315	53.0	4.8	19.7	20.0	25.7	10.2	27.0	2.5	4.1	2
法人化したい	3	177	50.8	5.1	20.3	29.4	24.9	7.3	30.5	3.4	7.3	3
既に法人化	4	128	50.8	1.6	19.5	18.8	27.3	6.3	29.7	7.0	6.3	4
無回答	5	25	32.0	4.0	28.0	12.0	44.0	4.0	12.0	12.0	12.0	5
年齢階層別												
20～29歳	5	7	57.1	－	28.6	28.6	－	－	42.9	－	－	5
30～39歳	6	31	64.5	3.2	12.9	12.9	22.6	3.2	22.6	9.7	19.4	6
40～49歳	7	88	62.5	2.3	14.8	27.3	8.0	10.2	30.7	3.4	8.0	7
50～59歳	8	229	52.4	3.1	20.5	17.9	30.1	9.6	27.5	3.9	6.1	8
60～64歳	9	168	45.8	5.4	15.5	25.6	35.7	8.3	26.8	3.6	4.2	9
65～69歳	10	65	40.0	10.8	32.3	21.5	27.7	7.7	29.2	4.6	3.1	10
70歳以上	11	57	49.1	1.8	29.8	24.6	17.5	5.3	28.1	3.5	1.8	11
販売金額1位部門別												
米	12	239	38.9	5.4	30.5	27.2	23.4	5.0	42.3	3.8	2.1	12
畑作物（注）	13	39	48.7	2.6	23.1	15.4	23.1	12.8	41.0	5.1	2.6	13
野菜	14	140	55.7	4.3	13.6	20.7	27.1	12.1	14.3	3.6	7.1	14
果樹	15	67	64.2	7.5	16.4	22.4	28.4	7.5	9.0	4.5	9.0	15
畜産	16	83	59.0	1.2	8.4	13.3	34.9	10.8	26.5	3.6	12.0	16
花き	17	38	71.1	－	5.3	21.1	23.7	10.5	18.4	7.9	2.6	17
その他	18	39	53.8	2.6	23.1	20.5	28.2	5.1	20.5	2.6	10.3	18

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

6 「経営面積（頭数等）を縮小したい」、「取組部門数を減らしたい」等を行いたい理由（複数回答）

4の（1）で「農業経営面積（頭数等）を縮小したい」、「農業経営部門数を減らしたい」、「作業受託（面積等）を縮小したい」、「農業を止めたい」と回答した方のみ回答

単位：％

単位：%											
区 分	回答者数	収益性が低い ため	農地の売却 価格、または貸 し付け地代が高い ため	他の農家、組織 から農地の購入、 または借り入れの 申し出があるため	農地が分散または 小画で営農が非 効率なため	高齢化等により、 労力的に対応でき ないため	農業機 械・施設 の老朽化が進んで おり、更新も難し いため	特定部門 に集中した経営に より効率的に営農 したいため	その他	区分	
計	1	133	27.8	1.5	-	6.0	65.4	18.8	12.0	9.0	1
今後の組織形態意向別											
個人経営	2	104	26.9	1.9	-	4.8	73.1	21.2	9.6	7.7	2
法人化したい	3	13	38.5	-	-	7.7	30.8	15.4	23.1	15.4	3
既に法人化	4	10	30.0	-	-	10.0	40.0	-	30.0	10.0	4
無回答	5	6	16.7	-	-	16.7	50.0	16.7	-	16.7	5
年齢階層別											
20～29歳	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
30～39歳	6	3	-	-	-	-	66.7	-	100.0	-	6
40～49歳	7	9	33.3	-	-	11.1	66.7	22.2	11.1	22.2	7
50～59歳	8	33	36.4	3.0	-	6.1	54.5	24.2	18.2	12.1	8
60～64歳	9	23	30.4	-	-	8.7	73.9	26.1	13.0	-	9
65～69歳	10	22	22.7	-	-	4.5	63.6	18.2	9.1	9.1	10
70歳以上	11	43	23.3	2.3	-	4.7	69.8	11.6	2.3	9.3	11
販売金額1位部門別											
米	12	44	34.1	2.3	-	6.8	54.5	27.3	4.5	4.5	12
畑作物（注）	13	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	13
野菜	14	22	18.2	-	-	-	54.5	22.7	18.2	9.1	14
果樹	15	36	19.4	-	-	5.6	83.3	11.1	8.3	13.9	15
畜産	16	13	30.8	-	-	7.7	61.5	15.4	23.1	15.4	16
花き	17	10	40.0	-	-	10.0	70.0	20.0	30.0	10.0	17
その他	18	7	42.9	14.3	-	14.3	71.4	-	14.3	-	18

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

7 「6次産業化」の取組状況（複数回答）
（1）既に取り組んでいるもの

単位：％

単位：％										
区 分	回答者数	農産物 加 工	直接販売 （農産物 直売所へ の出荷も 含む）	観光農園	農家 レストラン	農家民宿	その他	関心がない	区分	
計	1	人 1,627	16.3	52.2	3.4	0.7	1.6	4.0	21.4	1
今後の組織形態意向別										
個人経営	2	1,091	13.0	50.2	3.1	0.1	1.4	4.0	25.7	2
法人化したい	3	247	18.6	57.5	2.8	1.2	1.2	3.6	10.9	3
既に法人化	4	211	31.3	62.1	4.7	1.9	2.8	4.7	13.3	4
無回答	5	78	15.4	35.9	5.1	1.3	－	1.3	16.7	5
年齢階層別										
20～29歳	2	9	11.1	66.7	－	－	－	11.1	22.2	2
30～39歳	3	47	25.5	59.6	6.4	2.1	2.1	－	19.1	3
40～49歳	4	175	17.7	47.4	2.9	0.6	2.3	4.6	20.6	4
50～59歳	5	499	17.4	57.1	3.2	0.6	1.2	4.0	21.8	5
60～64歳	6	401	17.7	57.1	4.2	0.2	2.2	4.7	17.7	6
65～69歳	7	200	17.0	49.5	5.0	1.0	0.5	4.0	23.0	7
70歳以上	8	295	9.8	40.0	1.4	1.4	1.7	3.1	25.4	8
無回答	9	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－	9
販売金額1位部門別										
米	10	550	14.5	49.3	1.1	0.5	2.0	2.7	25.1	10
畑作物（注）	11	70	14.3	41.4	2.9	1.4	4.3	5.7	22.9	11
野菜	12	375	15.5	60.0	2.7	0.8	1.3	2.9	17.1	12
果樹	13	218	23.4	70.2	14.7	0.9	0.9	3.7	10.6	13
畜産	14	211	11.8	25.1	0.5	0.5	1.4	7.6	30.8	14
花き	15	99	9.1	58.6	4.0	－	1.0	6.1	22.2	15
その他	16	103	32.0	58.3	－	1.9	1.0	4.9	18.4	16
無回答	17	1	－	－	－	－	－	－	100.0	17

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

（2）今後取り組みたいもの

単位：％

区 分	回答者数	農産物 加 工	直接販売 （農産物 直売所へ の出荷も 含む）	観光農園	農家 レストラン	農家民宿	その他	関心がない	区分	
計	1	人 1,627	30.3	30.9	10.1	5.2	3.9	3.9	22.8	1
今後の組織形態意向別										
個人経営	2	1,091	26.2	30.1	8.6	2.9	3.5	3.2	27.2	2
法人化したい	3	247	42.1	36.4	14.6	9.3	6.1	5.7	11.3	3
既に法人化	4	211	39.8	29.9	15.2	12.8	2.8	5.2	14.2	4
無回答	5	78	24.4	28.2	3.8	2.6	6.4	3.8	38.5	5
年齢階層別										
20～29歳	2	9	66.7	11.1	22.2	－	11.1	－	22.2	2
30～39歳	3	47	44.7	34.0	19.1	12.8	4.3	2.1	12.8	3
40～49歳	4	175	37.1	34.3	9.7	8.0	5.7	3.4	25.1	4
50～59歳	5	499	32.5	30.3	10.6	7.2	3.8	5.0	23.4	5
60～64歳	6	401	28.9	32.7	11.2	4.5	3.7	4.0	19.2	6
65～69歳	7	200	27.0	33.0	8.0	3.5	3.5	4.0	23.0	7
70歳以上	8	295	23.4	26.4	7.8	1.0	3.4	2.4	26.4	8
無回答	9	1	－	－	－	－	－	－	100.0	9
販売金額1位部門別										
米	10	550	27.5	33.6	8.0	4.7	2.9	4.2	24.4	10
畑作物（注）	11	70	35.7	37.1	15.7	7.1	8.6	2.9	22.9	11
野菜	12	375	33.9	29.9	10.1	3.7	3.7	3.2	21.1	12
果樹	13	218	34.9	28.4	17.0	5.0	5.5	3.2	17.0	13
畜産	14	211	25.6	25.1	4.7	6.6	3.8	5.7	28.9	14
花き	15	99	25.3	30.3	11.1	7.1	3.0	1.0	24.2	15
その他	16	103	34.0	34.0	13.6	6.8	4.9	5.8	18.4	16
無回答	17	1	－	－	－	－	－	－	100.0	17

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

8 「6次産業化」に取り組む場合の課題（複数回答）
（7の（1）（2）ともに、「農産物加工」、「直接販売」、「観光農園」、「農家レストラン」、「農家民宿」、「その他」を選択した方のみ回答）

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	事業のノウハウ・技術をもっていない	ノウハウ・技術を指導や支援してくれる人・機関がない	事業のリスクが大きい	一緒に取り組む農業者がいない	他産業の連携先がみつからない	労働力が不足している	資金が乏しい	自身のもも含め原料農産物の安定的な調達が難しい	その他	無回答	区分	
計	1	762	36.7	21.0	20.6	11.2	7.0	23.1	29.4	12.6	4.5	4.9	1
販売金額1位部門別													
米	2	254	41.7	21.3	20.1	13.8	5.5	20.9	26.4	15.7	3.1	4.7	2
畑作物（注）	3	34	32.4	23.5	32.4	20.6	5.9	23.5	26.5	8.8	2.9	2.9	3
野菜	4	180	35.0	24.4	20.6	10.6	8.3	22.8	29.4	12.8	2.8	4.4	4
果樹	5	132	43.9	15.9	13.6	8.3	8.3	22.7	25.8	11.4	6.1	9.1	5
畜産	6	55	23.6	18.2	27.3	5.5	5.5	30.9	40.0	5.5	12.7	1.8	6
花き	7	49	26.5	14.3	26.5	14.3	4.1	22.4	32.7	12.2	2.0	6.1	7
その他	8	58	27.6	27.6	20.7	5.2	10.3	27.6	39.7	10.3	6.9	-	8

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

9 「環境保全型農業」の取組の意向

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	取り組み たい	どちらか と言え ば 取 り 組 み た い	どちらか と言え ば 取 り 組 み た く な い	取 り 組 み た く な い	既 に 取 り 組 ん で い る	関 心 が な い	無回答	区分	
計	1	人 1,627	21.5	27.5	3.7	1.1	41.7	3.6	1.0	1
地方農政局等別										
北海道	2	91	17.6	25.3	6.6	1.1	49.5	－	－	2
東北	3	272	24.6	24.6	3.3	0.4	43.4	2.9	0.7	3
関東	4	420	17.6	28.6	4.5	0.7	42.9	4.5	1.2	4
北陸	5	98	15.3	27.6	2.0	1.0	53.1	－	1.0	5
東海	6	91	19.8	22.0	1.1	2.2	46.2	7.7	1.1	6
近畿	7	112	22.3	25.0	2.7	2.7	44.6	2.7	－	7
中国四国	8	215	21.4	34.0	5.1	2.3	33.5	3.3	0.5	8
九州	9	301	25.6	26.6	3.0	0.7	37.2	5.0	2.0	9
沖縄	10	27	40.7	33.3	－	－	25.9	－	－	10
販売金額1位部門別										
米	11	550	20.9	28.5	4.4	0.9	41.8	2.2	1.3	11
畑作物（注）	12	70	32.9	32.9	1.4	－	25.7	5.7	1.4	12
野菜	13	375	18.7	22.9	2.9	0.5	50.4	3.5	1.1	13
果樹	14	218	19.3	27.5	3.7	2.8	43.6	3.2	－	14
畜産	15	211	23.2	28.0	2.4	0.9	37.4	6.2	1.9	15
花き	16	99	24.2	34.3	5.1	2.0	27.3	7.1	－	16
その他	17	103	25.2	26.2	5.8	1.0	38.8	2.9	－	17
無回答	18	1	－	100.0	－	－	－	－	－	18

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

10 「環境保全型農業」に取り組む理由（複数回答）

（９で、「取り組みたい」、「どちらかと言えば取り組みたい」、「既に取り組んでいる」のいずれかを選択した方のみ回答）

単位：％

区 分	回答者数	農業の使用の減少によって自身の健康面への不安が小さくなるから	連作障害や地力低下を防ぐなど、栽培面の効果があるから	生産物に付加価値がつくなど、収入面で魅力があるから	環境問題への解決に貢献したいから	消費者や消費者グループ、農協や行政から働きかけがあるから	取引先が求めるから	その他	無回答	区分	
計	1	人 1,474	45.0	28.3	29.9	34.6	24.7	8.7	4.5	1.2	1
地方農政局等別											
北海道	2	84	22.6	32.1	33.3	32.1	31.0	10.7	4.8	4.8	2
東北	3	252	43.3	21.8	31.0	35.3	32.1	10.3	4.8	2.0	3
関東	4	374	44.1	31.3	29.4	33.2	22.7	8.8	5.3	1.6	4
北陸	5	94	45.7	14.9	39.4	40.4	36.2	8.5	-	1.1	5
東海	6	80	41.3	26.3	27.5	37.5	23.8	7.5	6.3	-	6
近畿	7	103	49.5	26.2	19.4	35.9	22.3	7.8	6.8	1.0	7
中国四国	8	191	52.9	27.2	29.8	33.0	16.2	8.9	5.2	-	8
九州	9	269	46.8	36.1	29.4	33.8	22.7	7.1	3.3	0.4	9
沖縄	10	27	59.3	25.9	37.0	40.7	14.8	7.4	-	-	10
販売金額1位部門別											
米	11	502	45.2	19.3	32.9	39.0	27.9	8.2	3.4	1.8	11
畑作物（注）	12	64	39.1	45.3	31.3	31.3	18.8	7.8	3.1	1.6	12
野菜	13	345	40.0	41.7	27.2	25.5	31.3	9.0	3.2	1.4	13
果樹	14	197	49.2	24.9	32.5	33.5	22.3	10.2	6.6	-	14
畜産	15	187	40.1	25.1	24.6	40.6	16.0	9.6	10.2	1.1	15
花き	16	85	71.8	30.6	23.5	37.6	8.2	1.2	-	1.2	16
その他	17	93	41.9	25.8	34.4	34.4	24.7	12.9	5.4	-	17
無回答	18	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	18

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

11 「環境保全型農業」に取り組む場合に支障となる（なっている）もの（複数回答）

（９で、「取り組みたい」、「どちらかと言えば取り組みたい」、「既に取り組んでいる」のいずれかを選択した方のみ回答）

単位：％

区 分	回答者数	慣行栽培と比べて、経費がかかる割には販売単価が評価されないこと	慣行栽培に比べて単収が減少すること	慣行栽培に比べて労力がかかること	環境に配慮した生産方法に関する情報が少ないこと	実際に取り組む際に行政等による技術的支援が少ないこと	周辺の農業者等の理解が得られないこと	周辺の農業者等の理解を得るために必要な行政からの支援が少ないこと	生産物の販路の確保が難しいこと	その他	無回答	区分	
計	1	人 1,474	51.5	29.6	38.6	13.0	10.4	3.7	4.5	10.4	3.5	6.6	1
販売金額1位部門別													
米	2	502	56.4	35.7	40.6	9.8	9.0	3.6	4.8	11.0	1.8	5.8	2
畑作物（注）	3	64	50.0	31.3	35.9	18.8	12.5	7.8	4.7	4.7	1.6	7.8	3
野菜	4	345	55.9	24.6	39.7	12.8	11.3	2.9	4.1	7.2	3.8	8.1	4
果樹	5	197	49.2	23.9	39.1	14.7	13.2	4.1	4.6	14.2	4.6	5.6	5
畜産	6	187	34.8	29.4	35.3	15.0	9.1	4.3	3.7	12.3	5.9	8.0	6
花き	7	85	49.4	18.8	34.1	21.2	10.6	2.4	5.9	10.6	4.7	4.7	7
その他	8	93	50.5	36.6	35.5	11.8	10.8	3.2	4.3	11.8	4.3	5.4	8
無回答	9	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

12 「環境保全型農業」に取り組みたくない理由（複数回答）
（9で、「どちらかと言えば取り組みたくない」、「取り組みたくない」のいずれかを選択した方のみ回答）

単位：％

区 分	回答者数	慣行栽培と比べて、経費がかかる割には販売単価が評価されないから	慣行栽培に比べて単収が減少するから	慣行栽培に比べて労力がかかるから	環境に配慮した生産方法に関する情報が少ないこと	実際に取り組む際に行政等による技術的支援が少ないこと	周辺の農業者等の理解が得られないこと	周辺の農業者等の理解を得るために必要な行政からの支援が少ないこと	生産物の販路の確保が難しいこと	その他	無回答	区分	
計	1	78	51.3	32.1	39.7	10.3	10.3	3.8	1.3	16.7	6.4	2.6	1
販売金額1位部門別													
米	2	29	44.8	34.5	55.2	3.4	6.9	6.9	-	13.8	3.4	-	2
畑作物（注）	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	3
野菜	4	13	61.5	38.5	15.4	7.7	15.4	-	7.7	15.4	15.4	-	4
果樹	5	14	50.0	21.4	42.9	28.6	7.1	-	-	28.6	-	7.1	5
畜産	6	7	42.9	42.9	57.1	-	14.3	-	-	14.3	-	-	6
花き	7	7	71.4	14.3	28.6	14.3	-	14.3	-	-	28.6	-	7
その他	8	7	57.1	42.9	14.3	14.3	28.6	-	-	28.6	-	-	8

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

13 集落における農業の後継ぎの確保状況

単位：％

単位：%								
区 分	回答者数	集落内の農業が維持できる程度には後継ぎが確保できている	集落内の農業が維持できるかどうか後継ぎの確保に不安な状態である	後継ぎがあまり確保できておらず、集落内の農業が一部維持できない状態である	後継ぎがほとんど確保できておらず、集落の農業の維持がほとんどできない状態である	無回答	区分	
計	1	人 1,627	20.5	42.8	25.0	11.1	0.6	1
地方農政局等別								
北海道	2	91	38.5	36.3	18.7	6.6	-	2
東北	3	272	17.3	46.0	25.7	9.9	1.1	3
関東	4	420	19.0	40.2	26.9	13.1	0.7	4
北陸	5	98	27.6	55.1	13.3	4.1	-	5
東海	6	91	27.5	40.7	20.9	11.0	-	6
近畿	7	112	25.0	34.8	20.5	19.6	-	7
中国四国	8	215	16.7	39.5	33.5	9.8	0.5	8
九州	9	301	17.9	45.5	24.3	11.6	0.7	9
沖縄	10	27	3.7	66.7	25.9	-	3.7	10

14 農村で生活する上で困ることや不安なこと（上位5つまで順位を付けて選択）

区 分	回答者数	近くに病院がないこと	救急医療機関が遠く搬送に時間がかかること	近くで食料や日用品を買えないこと	子どもの学校が遠いこと	近くに働き口がないこと	郵便局や農協が近くにないこと	携帯電話の電波が届かないこと（電波の状態が悪いこと）	農地の手入れが十分にできないこと	付近に耕作放棄地が増加してきたこと	サル、イノシシ、クマなどの獣が現れること	台風、地震、豪雨など災害で被災や孤立の恐れがあること	
計	1	1,627	249	347	315	274	565	141	54	652	735	598	173
地方農政局等別													
北海道	2	91	23	31	22	22	18	11	3	20	23	16	10
東北	3	272	47	62	53	56	121	28	15	121	147	49	22
関東	4	420	56	81	73	62	103	37	10	162	187	125	29
北陸	5	98	16	18	19	19	40	8	4	33	31	28	9
東海	6	91	9	16	16	7	24	5	－	41	37	36	10
近畿	7	112	17	19	17	18	47	8	1	48	49	68	14
中国四国	8	215	34	43	42	33	88	21	4	114	116	139	34
九州	9	301	40	71	69	54	112	23	13	104	134	134	36
沖縄	10	27	7	6	4	3	12	－	4	9	11	3	9

単位：人

自身・同居家族だけでは身のまわりのことは十分にできないこと	一人住まい、あるいは、近所に住んでいる人が少なくさみしいこと	その他	特になし	区分
271	188	107	427	1
12	13	8	30	2
54	35	14	62	3
63	26	36	128	4
18	11	4	34	5
12	4	7	31	6
21	18	10	24	7
43	38	9	36	8
42	42	17	74	9
6	1	2	8	10

15 集落の維持・活性化方策の決定状況

単位：％

平成27年度									
区 分	回答者数	既に決めている	現在話し合い中である	今後話し合いを始める予定である	決める予定はない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	6.1	10.3	13.9	37.5	31.0	1.2	1
地方農政局等別									
北海道	2	91	1.1	5.5	17.6	42.9	33.0	-	2
東北	3	272	5.9	13.6	14.0	40.4	25.0	1.1	3
関東	4	420	5.2	8.3	9.3	40.5	35.0	1.7	4
北陸	5	98	11.2	10.2	22.4	23.5	32.7	-	5
東海	6	91	5.5	11.0	14.3	31.9	37.4	-	6
近畿	7	112	6.3	6.3	20.5	40.2	25.9	0.9	7
中国四国	8	215	6.5	10.2	11.6	35.3	35.3	0.9	8
九州	9	301	7.6	12.6	15.6	35.9	26.2	2.0	9
沖縄	10	27	-	14.8	11.1	37.0	37.0	-	10

16 集落の農業の担い手として期待する人・組織（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	農業者のこども・親族	農業者のこども・親族以外で、農村在住の人	農業者のこども・親族以外で、農村以外に住の人	集落営農組織（法人・任意組織）	企業	J A ・地方公共団体	左記以外の法人・団体	無回答	区分	
計	1	人 1,627	64.0	23.0	10.9	42.4	6.0	23.0	2.2	1.7	1
地方農政局等別											
北 海 道	2	91	63.7	11.0	18.7	41.8	7.7	23.1	3.3	3.3	2
東 北	3	272	64.7	17.6	8.5	54.0	5.9	21.7	1.1	0.7	3
関 東	4	420	65.0	24.0	12.1	36.7	7.1	24.5	2.6	2.1	4
北 陸	5	98	53.1	25.5	13.3	51.0	12.2	24.5	4.1	-	5
東 海	6	91	58.2	19.8	7.7	48.4	6.6	26.4	3.3	1.1	6
近 畿	7	112	62.5	24.1	8.9	42.9	2.7	21.4	0.9	0.9	7
中国四国	8	215	69.8	27.9	11.6	39.5	4.7	18.1	1.9	1.4	8
九 州	9	301	63.8	25.9	9.6	38.5	4.0	22.9	2.0	2.7	9
沖 縄	10	27	63.0	29.6	7.4	29.6	3.7	40.7	-	-	10

17 農業者自身が行っている集落維持、活性化のための取組（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	農業用 水、農 道、ため 池等農業 用施設の 維持・管 理	空屋の維 持・管理	伝統文化 の維持	寺・神社 の維持・ 管理	草刈り・ 清掃・街 路樹の剪 定等によ る景観の 保持	集落活性 化のため の行事等 の企画・ 実施	集落の見 回り・高 齢者のお 世話（防 災・防火 を含む）	その他	特に取り 組んでい ない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	74.8	4.7	34.1	50.8	65.9	40.9	23.5	2.3	10.3	3.5	1
地方農政局等別													
北 海 道	2	91	61.5	6.6	16.5	44.0	65.9	49.5	23.1	2.2	14.3	3.3	2
東 北	3	272	80.5	3.3	32.0	47.4	73.9	43.8	25.7	2.9	7.7	2.6	3
関 東	4	420	66.9	2.4	38.8	49.8	59.0	34.0	17.9	1.9	15.0	4.5	4
北 陸	5	98	83.7	8.2	33.7	65.3	65.3	51.0	25.5	2.0	7.1	3.1	5
東 海	6	91	76.9	3.3	24.2	57.1	62.6	34.1	22.0	4.4	9.9	3.3	6
近 畿	7	112	79.5	8.0	41.1	71.4	67.0	43.8	27.7	7.1	4.5	2.7	7
中国四国	8	215	82.3	4.7	30.2	52.1	67.4	40.5	23.7	0.9	9.8	0.9	8
九 州	9	301	76.4	6.6	37.9	45.8	68.4	41.9	27.9	1.3	8.0	5.0	9
沖 縄	10	27	48.1	3.7	37.0	11.1	63.0	55.6	18.5	-	18.5	7.4	10

18 子どもたち（小学校高学年～中学生まで）の食べ物や農業についての知識

単位：％

区 分		回答者数	ほとんどの子どもたちが知識を十分持っている	十分知識を持っている子どもたちが多いが、一部は持っていない	十分知識をもっている子ども、持っていない子ども半々ぐらいである	知識を持っていない子どもたちが多いが、一部は十分知識を持っている	ほとんどの子どもたちが十分な知識を持っていない	わからない	無回答	区分
計	1	人 1,627	5.2	16.7	17.7	23.8	25.8	9.6	1.2	1
地方農政局等別										
北 海 道	2	91	11.0	24.2	13.2	26.4	15.4	9.9	-	2
東 北	3	272	5.9	15.1	22.1	24.3	23.2	8.5	1.1	3
関 東	4	420	4.3	16.9	15.7	22.6	28.1	11.0	1.4	4
北 陸	5	98	5.1	13.3	23.5	23.5	27.6	7.1	-	5
東 海	6	91	6.6	12.1	24.2	26.4	19.8	9.9	1.1	6
近 畿	7	112	4.5	14.3	9.8	22.3	38.4	8.9	1.8	7
中国四国	8	215	6.0	18.6	16.7	23.7	24.7	9.3	0.9	8
九 州	9	301	3.0	17.3	17.9	23.6	26.6	9.6	2.0	9
沖 縄	10	27	7.4	18.5	14.8	33.3	14.8	11.1	-	10

19 子どもたちの親の食べ物や農業についての知識

単位：％

区 分	回答者数	ほとんどの子どもたちが知識を十分持っている	十分知識を持っていない子どもたちが多いが、一部は持っている	十分知識をもっている子ども、持っていない子ども半々ぐらいである	知識を持っていない子どもたちが多いが、一部は十分知識を持っている	ほとんどの子どもたちが十分な知識を持っていない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	15.1	27.4	21.9	18.7	9.6	5.8	1.4	1
地方農政局等別										
北 海 道	2	91	25.3	24.2	20.9	16.5	5.5	7.7	-	2
東 北	3	272	20.2	29.0	22.1	14.0	7.4	4.8	2.6	3
関 東	4	420	13.1	24.8	22.6	21.7	10.0	6.9	1.0	4
北 陸	5	98	13.3	29.6	20.4	21.4	11.2	4.1	-	5
東 海	6	91	11.0	26.4	17.6	22.0	13.2	8.8	1.1	6
近 畿	7	112	11.6	19.6	22.3	21.4	17.9	4.5	2.7	7
中国四国	8	215	17.2	27.9	16.3	19.5	11.6	6.5	0.9	8
九 州	9	301	12.0	32.6	25.6	17.3	6.3	4.3	2.0	9
沖 縄	10	27	14.8	29.6	37.0	7.4	7.4	3.7	-	10

20 農業関係団体の役割発揮に関する意向
(1) 農業協同組合

単位：％

年10、20

区 分	回答者数	大いに発揮 している	ある程度 発揮して いる	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮 していない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	18.3	48.6	12.8	13.6	4.6	0.4	1.7	1
販売金額1位部門別										
米	2	550	18.5	46.0	14.5	14.0	4.4	0.2	2.4	2
畑作物（注）	3	70	24.3	48.6	14.3	10.0	1.4	－	1.4	3
野菜	4	375	20.0	50.9	10.9	13.1	2.9	0.5	1.6	4
果樹	5	218	16.1	53.7	8.3	12.8	7.3	－	1.8	5
畜産	6	211	18.5	46.9	15.6	11.4	6.2	0.9	0.5	6
花き	7	99	12.1	48.5	11.1	19.2	6.1	1.0	2.0	7
その他	8	103	16.5	46.6	14.6	17.5	3.9	－	1.0	8
無回答	9	1	－	100.0	－	－	－	－	－	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

(2) 農業委員会

単位：％

単位：%										
区 分	回答者数	大いに発揮 している	ある程度 発揮して いる	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮 していない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	8.8	35.3	23.2	18.2	9.8	2.9	1.8	1
販売金額1位部門別										
米	2	550	7.6	33.5	25.6	18.4	11.1	1.5	2.4	2
畑作物（注）	3	70	18.6	45.7	15.7	14.3	2.9	-	2.9	3
野菜	4	375	10.1	34.4	24.5	18.4	8.5	2.4	1.6	4
果樹	5	218	6.9	35.3	21.1	19.7	10.1	4.6	2.3	5
畜産	6	211	10.9	39.3	21.3	14.7	8.1	5.2	0.5	6
花き	7	99	5.1	34.3	21.2	19.2	16.2	2.0	2.0	7
その他	8	103	6.8	34.0	20.4	22.3	8.7	6.8	1.0	8
無回答	9	1	-	-	100.0	-	-	-	-	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

(3) 農業共済組合

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	大いに発揮 している	ある程度 発揮して いる	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮 していない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	11.1	37.6	24.0	14.2	6.8	4.2	2.1	1
販売金額1位部門別										
米	2	550	11.5	39.8	24.2	14.0	6.9	1.3	2.4	2
畑作物（注）	3	70	15.7	40.0	25.7	10.0	4.3	1.4	2.9	3
野菜	4	375	10.9	35.2	27.2	12.3	6.9	5.1	2.4	4
果樹	5	218	7.3	35.8	22.9	16.1	9.2	6.4	2.3	5
畜産	6	211	18.0	46.4	16.1	11.8	3.3	3.8	0.5	6
花き	7	99	3.0	27.3	27.3	19.2	9.1	11.1	3.0	7
その他	8	103	8.7	27.2	25.2	21.4	7.8	8.7	1.0	8
無回答	9	1	－	100.0	－	－	－	－	－	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

(4) 土地改良区

単位：％

単位：%										
区 分	回答者数	大いに発揮 している	ある程度 発揮して いる	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮 していない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	11.2	32.0	18.7	13.2	7.8	12.6	4.5	1
販売金額 1 位部門別										
米	2	550	13.6	33.3	18.9	13.6	8.9	8.0	3.6	2
畑作物（注）	3	70	11.4	42.9	21.4	8.6	5.7	8.6	1.4	3
野菜	4	375	11.2	33.1	18.4	13.6	6.1	13.6	4.0	4
果樹	5	218	6.9	29.8	19.3	11.9	6.9	18.3	6.9	5
畜産	6	211	8.5	29.4	19.4	14.2	7.6	15.2	5.7	6
花き	7	99	12.1	29.3	17.2	9.1	15.2	13.1	4.0	7
その他	8	103	12.6	26.2	15.5	16.5	4.9	18.4	5.8	8
無回答	9	1	－	－	－	100.0	－	－	－	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

(5) 普及組織

単位：％

単位：％										
区 分	回答者数	大いに発揮 している	ある程度 発揮して いる	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮 していない	わからない	無回答	区分	
計	1	人 1,627	8.2	40.5	20.7	15.1	5.2	7.9	2.5	1
販売金額 1 位部門別										
米	2	550	7.5	38.7	22.4	15.5	5.8	7.6	2.5	2
畑作物（注）	3	70	11.4	57.1	14.3	7.1	2.9	4.3	2.9	3
野菜	4	375	10.9	43.5	16.8	13.3	4.8	8.3	2.4	4
果樹	5	218	7.8	45.4	22.9	12.8	4.1	3.7	3.2	5
畜産	6	211	5.7	32.2	27.5	17.1	6.6	10.0	0.9	6
花き	7	99	4.0	44.4	12.1	24.2	3.0	9.1	3.0	7
その他	8	103	9.7	31.1	20.4	16.5	5.8	13.6	2.9	8
無回答	9	1	－	－	－	－	－	100.0	－	9

注：麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょである。

【 統 計 表 】

(漁業者モニターに対する調査)

《 目 次 》

1 年齢・	42
2 世帯構成・	42
3 主として営んでいる漁業種類・	42
4 我が国周辺海域の水産資源の状況の認識・	42
5 資源が減少している原因・	42
6 資源管理について、重視すべき効果・目標・	42
7 水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには有効な取組（複数回答）・	43
8 6次産業化に対する認識・	43
9 6次産業化の取組・	43

1 年齢

単位：％

区 分	回答者数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	区分	
計	1	人 347	0.6	1.7	12.1	33.4	22.2	30.0	1

2 世帯構成

単位：％

区 分	回答者数	夫婦のみ の世帯	夫婦と 子どもの 世帯	単独世帯	その他	無回答	区分
計 1	人 347	22. 2	43. 5	4. 0	30. 0	0. 3	1

3 主として営んでいる漁業種類

単位：％

区 分	回答者数	採貝・採藻、地先の釣り等の沿岸漁業	日帰りできる範囲で、地先から離れて行う漁業	数日以上にわたる沖合漁業	数ヶ月にわたる遠洋漁業	無回答	区分	
計	1	人 347	37.2	57.3	4.0	0.9	0.6	1

4 我が国周辺海域の水産資源の状況の認識

単位：％

区 分		回答者数	資源は減少 している	資源は変わ らない	資源は増加 している	分からない	区分
計	1	人 347	87.9	8.9	0.6	2.6	1

5 資源が減少している原因

単位：％

区分		回答者数	過剰な漁獲により、資源が減少している	水温上昇等の環境変化により、資源が減少している	漁業者の減少等により地先の漁場の管理・保全等が十分に行われなくなったため、資源量が減少している	その他	分からない	区分
計	1	人 305	30.2	51.5	6.9	8.9	2.6	1

6 資源管理について、重視すべき効果・目標（複数回答）

単位：％

平成27年度										
区 分	回答者数	漁場環境・生態系の維持・回復	国民への水産物の安定供給	水産資源の回復・増大	漁業者の経営の安定（魚価安定）	秩序ある操業の実現	その他	無回答	区分	
計	1	人 347	53.3	13.3	34.3	67.1	23.9	2.3	1.2	1

7 水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには有効な取組（複数回答）

単位：％

単位：%										
区 分	回答者数	行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる	漁業者や漁協などが、自分を取り組んでいる水産資源の管理のPR（インターネットによる情報発信、マスコミへの働きかけなど）を強化する	消費者が店頭でしっかりした資源管理の下で漁獲された水産物を選択して購入できる機会を増やす	漁業者と消費者の交流・接触の機会を増やす	漁業者が市場や外食産業と連携することで、消費者向けの啓発活動を行う	その他	無回答	区分	
計	1	人 347	51.3	43.8	34.0	37.2	21.6	2.9	0.6	1

8 6次産業化に対する認識

単位：％

単位：%									
区 分	回答者数	すでに6次産業化の取組を行っている	手取りの向上や魚のブランド化にもつながるので、積極的に取り組んでいきたい	取り組みたいとは思いますが、加工・販売まで自ら行うのは難しい	生鮮魚の魚価の向上を図る取組が重要で、加工・販売は専門業者が行う方がよい	その他	無回答	区分	
計	1	人 347	13.0	19.0	45.2	19.6	2.3	0.9	1

9 6次産業化の取組

単位：％

平成 年										
区 分	回答者数	水産加工品の製造・販売	産地直売施設等での直接販売直売	民宿・旅館の経営	漁家レストランの経営	遊漁船の経営	漁業・漁村体験	その他	無回答	区分
計	111	37.8	39.6	2.7	1.8	1.8	5.4	6.3	4.5	1

【 統 計 表 】

(流通加工業者モニターに対する調査)

《 目 次 》

1 会社の業種	46
2 会社等で取扱う国産の農畜水産物・加工食品の現在の使用割合及び2～3年前に比べての使用量の変化	
(1) 使用割合	
① 米	46
② 小麦	46
③ 野菜	46
④ 果実	46
⑤ 魚介類	46
⑥ 肉類	47
⑦ 牛乳・乳製品類	47
(2) 2～3年前に比べての使用量の変化	
① 国産米	47
② 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	47
③ 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	47
④ 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	47
⑤ 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	48
⑥ 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	48
⑦ 国産チーズ	48
⑧ 国産牛肉	48
⑨ 国産豚肉	48
3 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が増えた理由（複数回答）	
(1) 国産米	50
(2) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	50
(3) 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	50
(4) 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	50
(5) 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	50
(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	52
(7) 国産チーズ	52
(8) 国産牛肉	52
(9) 国産豚肉	52
4 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が減った理由（複数回答）	
(1) 国産米	52
(2) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	54
(3) 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	54
(4) 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	54
(5) 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	54
(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	54
(7) 国産チーズ	56
(8) 国産牛肉	56
(9) 国産豚肉	56
5 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量の今後の意向	
(1) 国産米	58
(2) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	58
(3) 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	58
(4) 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	59
(5) 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	59
(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	59
(7) 国産チーズ	60
(8) 国産牛肉	60
(9) 国産豚肉	60
6 原料や販売用として取扱う国産の農畜産物に求める点（複数回答）	61

7	流通加工業者が既に農業者と連携して取り組んでいる「6次産業化」の分野及び今後連携することに関心のある分野 (複数回答)	
(1)	既に取り組んでいるもの	61
(2)	今後の取組に関心があるもの	61
8	流通加工業者が農業者と連携するに当たっての課題 (複数回答)	61
9	国産野菜の使用割合	62
10	国産野菜の使用量の変化	62
11	国産野菜の使用量を増やした理由 (複数回答)	62
12	国産野菜の使用量を減らした理由 (複数回答)	62
13	国産野菜の取扱いの意向	62
14	国産野菜に求めること (複数回答)	64
15	国産野菜の使用割合を増やす条件	64
16	野菜の特徴を利用した商品 (メニュー) の取扱い (複数回答)	66
17	野菜の特徴を利用した商品 (メニュー) の評価 (複数回答)	66
18	野菜の特徴を利用した商品 (メニュー) に対する意識	66

1 会社の業種

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	食品製造業	食品卸売業	食品小売業	外食産業	無回答	区分
計	1 人 1,025	34.5	24.5	22.7	17.2	1.1	1

2 会社等で取扱う国産の農畜水産物・加工食品の現在の使用割合及び2～3年前に比べての使用量の変化

(1) 使用割合

① 米

単位：％

区 分		回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分
計	1	人 793	27.1	11.0	2.3	2.0	4.7	53.0	1
食品製造業	2	277	41.5	12.6	2.2	1.4	2.5	39.7	2
食品卸売業	3	151	43.0	19.2	2.0	2.0	4.6	29.1	3
食品小売業	4	189	18.5	10.1	2.1	3.7	10.1	55.6	4
外食産業	5	175	－	2.3	2.9	1.1	2.3	91.4	5
無回答	6	1	－	－	－	－	－	100.0	6

② 小麦

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分	
計	1	人 742	37.7	27.1	6.5	5.1	8.8	14.8	1
食品製造業	2	275	46.5	26.9	5.1	2.9	6.9	11.6	2
食品卸売業	3	139	56.1	28.8	2.9	3.6	1.4	7.2	3
食品小売業	4	163	28.8	30.7	8.0	4.9	15.3	12.3	4
外食産業	5	164	15.9	22.6	10.4	10.4	11.6	29.3	5
無回答	6	1	100.0	-	-	-	-	-	6

③ 野菜

単位：％

単位：%									
区 分	回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分	
計	1	人 839	17.9	14.1	5.8	6.8	28.4	27.1	1
食品製造業	2	278	30.2	18.3	5.4	4.7	11.5	29.9	2
食品卸売業	3	193	19.7	18.7	6.2	5.7	36.3	13.5	3
食品小売業	4	190	14.7	10.5	5.3	5.3	40.0	24.2	4
外食産業	5	173	－	5.8	5.8	13.3	34.7	40.5	5
無回答	6	5	－	20.0	40.0	－	－	40.0	6

④ 果実

単位：％

区 分		回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分
計	1	人 794	27.2	14.7	6.9	13.7	21.2	16.2	1
食品製造業	2	262	46.9	13.4	3.1	7.6	9.2	19.8	2
食品卸売業	3	181	26.0	18.2	7.2	11.6	29.3	7.7	3
食品小売業	4	181	16.0	14.9	8.3	22.7	26.5	11.6	4
外食産業	5	167	10.2	12.6	10.8	15.6	25.7	25.1	5
無回答	6	3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	6

⑤ 魚介類

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分	
計	1	人 751	32.9	14.6	9.6	14.9	17.8	10.1	1
食品製造業	2	259	49.0	15.1	5.8	10.0	10.8	9.3	2
食品卸売業	3	157	43.3	19.1	8.3	12.7	11.5	5.1	3
食品小売業	4	166	29.5	9.6	7.8	19.9	24.1	9.0	4
外食産業	5	167	1.8	15.0	18.6	19.2	28.1	17.4	5
無回答	6	2	-	-	-	50.0	50.0	-	6

⑥ 肉類

単位：％

区 分		回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分
計	1	人 740	34.9	13.6	8.9	8.9	15.4	18.2	1
食品製造業	2	250	56.0	14.0	4.4	4.4	6.8	14.4	2
食品卸売業	3	143	50.3	16.8	6.3	6.3	11.9	8.4	3
食品小売業	4	176	23.3	11.4	7.4	11.4	26.1	20.5	4
外食産業	5	169	3.0	13.0	18.9	15.4	20.1	29.6	5
無回答	6	2	-	-	50.0	-	-	50.0	6

⑦ 牛乳・乳製品類

単位：％

区 分	回答者数	全く使っていない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国産品を使用	区分	
計	1	人 717	36.1	13.2	3.3	4.0	16.2	27.1	1
食品製造業	2	252	52.4	11.9	1.6	3.6	9.5	21.0	2
食品卸売業	3	138	55.8	18.1	3.6	2.2	7.2	13.0	3
食品小売業	4	164	21.3	13.4	2.4	4.3	26.8	31.7	4
外食産業	5	160	9.4	10.6	6.9	6.3	23.1	43.8	5
無回答	6	3	-	33.3	-	-	33.3	33.3	6

(2) 2～3年前に比べての使用量の変化

① 国産米

単位：％

区 分		回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分
計	1	人 625	10.4	80.0	9.6	1
食品製造業	2	189	15.9	74.1	10.1	2
食品卸売業	3	100	15.0	79.0	6.0	3
食品小売業	4	162	9.3	80.2	10.5	4
外食産業	5	172	2.9	87.2	9.9	5
無回答	6	2	-	50.0	50.0	6

② 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）

単位：％

区 分		回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分
計	1	人 490	20.0	76.1	3.9	1
食品製造業	2	148	20.3	75.7	4.1	2
食品卸売業	3	71	31.0	67.6	1.4	3
食品小売業	4	140	27.1	67.1	5.7	4
外食産業	5	130	6.2	90.8	3.1	5
無回答	6	1	-	100.0	-	6

③ 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）

単位：％

区 分		回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分
計	1	人 561	14.6	77.7	7.7	1
食品製造業	2	181	19.3	72.9	7.7	2
食品卸売業	3	81	17.3	76.5	6.2	3
食品小売業	4	142	16.9	77.5	5.6	4
外食産業	5	155	5.8	84.5	9.7	5
無回答	6	2	-	50.0	50.0	6

④ 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）

単位：％

単位：%						
区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分	
計	1	人 531	17.1	77.8	5.1	1
食品製造業	2	158	20.3	74.1	5.7	2
食品卸売業	3	81	19.8	76.5	3.7	3
食品小売業	4	136	23.5	72.8	3.7	4
外食産業	5	153	6.5	87.6	5.9	5
無回答	6	3	33.3	33.3	33.3	6

⑤ 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品

単位：％

単位：%						
区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分	
計	1	人 668	18.9	73.1	8.1	1
食品製造業	2	192	27.1	66.7	6.3	2
食品卸売業	3	147	20.4	69.4	10.2	3
食品小売業	4	158	18.4	75.9	5.7	4
外食産業	5	167	9.0	81.4	9.6	5
無回答	6	4	-	50.0	50.0	6

⑥ 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品

単位：％

区 分		回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分
計	1	人 606	12.7	78.7	8.6	1
食品製造業	2	149	15.4	77.9	6.7	2
食品卸売業	3	143	13.3	73.4	13.3	3
食品小売業	4	155	17.4	77.4	5.2	4
外食産業	5	157	5.1	85.4	9.6	5
無回答	6	2	-	100.0	-	6

⑦ 国産チーズ

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分	
計	人 441	6.3	85.7	7.9	1	
食品製造業	2	120	9.2	83.3	7.5	2
食品卸売業	3	75	8.0	86.7	5.3	3
食品小売業	4	121	6.6	86.8	6.6	4
外食産業	5	123	2.4	86.2	11.4	5
無回答	6	2	-	100.0	-	6

⑧ 国産牛肉

単位：％

単位：%						
区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分	
計	人 484	14.5	77.1	8.5	1	
食品製造業	2	120	12.5	83.3	4.2	2
食品卸売業	3	80	16.3	76.3	7.5	3
食品小売業	4	134	14.2	76.1	9.7	4
外食産業	5	149	15.4	73.2	11.4	5
無回答	6	1	-	100.0	-	6

⑨ 国産豚肉

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	区分	
計	人 504	15.1	76.2	8.7	1	
食品製造業	2	129	14.7	78.3	7.0	2
食品卸売業	3	80	16.3	77.5	6.3	3
食品小売業	4	139	13.7	76.3	10.1	4
外食産業	5	155	16.1	73.5	10.3	5
無回答	6	1	-	100.0	-	6

3 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が増えた理由（複数回答）

（「2 会社等で取扱う国産の農畜水産物・加工食品の現在の使用割合及び2～3年前に比べての使用量の変化」（2）で1つでも「増えた」

（1）国産米

区 分	回答者数	外国産に 比べ品質 が高いた め	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	安定的に 量が調達 できるた め	外国産に 比べて価 格が安い ため	価格が外 国産に比 べて安定 している ため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者 等）がいた ため	自社生産 に取り組 んだため	国産の方 が外国産 よりイメ ージが良 いと思う ため	小売業者や 顧客等から 国産を使用 して欲しい との要望が あったため	
計	1	65	41.5	43.1	24.6	-	1.5	46.2	12.3	12.3	38.5	12.3

（2）国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）

区 分	回答者数	外国産に 比べ品質 が高いた め	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	安定的に 量が調達 できるた め	外国産に 比べて価 格が安い ため	価格が外 国産に比 べて安定 している ため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者 等）がいた ため	自社生産 に取り組 んだため	国産の方 が外国産 よりイメ ージが良 いと思う ため	小売業者 や顧客等 から国産 を使用し て欲しい との要望 があった ため
計	198	21.4	43.9	13.3	-	-	45.9	6.1	11.2	24.5	23.5

（3）国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）

区 分	回答者数	外国産に 比べ品質 が高いた め	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	安定的に 量が調達 できるた め	外国産に 比べて価 格が安い ため	価格が外 国産に比 べて安定 している ため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者 等）がいた ため	自社生産 に取り組 んだため	国産の方が 外国産より イメージが 良いと思う ため	小売業者や 顧客等から 国産を使用 して欲しい との要望が あったため	
計	1	82	25.6	48.8	6.1	2.4	1.2	41.5	8.5	6.1	31.7	26.8

（4）国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）

区 分	回答者数	外国産に 比べ品質 が高いた め	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	安定的に 量が調達 できるた め	外国産に 比べて価 格が安い ため	価格が外 国産に比 べて安定 している ため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者 等）がいた ため	自社生産 に取り組 んだため	国産の方が 外国産より イメージが 良いと思う ため	小売業者や 顧客等から 国産を使用 して欲しい との要望が あったため
計	1 91	38.5	42.9	8.8	2.2	3.3	39.6	7.7	5.5	37.4	22.0

（5）生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品

区 分	回答者数	外国産に 比べ品質 が高いた め	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	安定的に 量が調達 できるた め	外国産に 比べて価 格が安い ため	価格が外 国産に比 べて安定 している ため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者 等）がいた ため	自社生産 に取り組 んだため	国産の方が 外国産より イメージが 良いと思う ため	小売業者や 顧客等から 国産を使用 して欲しい との要望が あったため	
計	1	126	38.1	42.1	16.7	1.6	1.6	42.1	8.7	9.5	42.9	37.3

と回答された方のみ回答)

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	38.5	3.1	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	37.8	8.2	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	36.6	8.5	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	35.2	6.6	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
0.8	46.0	8.7	1

(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品

区分	回答者数	外国産に比べ品質が高いため	商品の高付加価値化・差別化のため	安定的に量が調達できるため	外国産に比べて価格が安い	価格が外国産に比べて安定しているため	国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから	産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため	自社生産に取り組んだため	国産の方が外国産より良いと思うため	小売業者や顧客等から国産を使用したいとの要望があったため
計	1人 77	35.1	40.3	15.6	2.6	1.3	44.2	9.1	7.8	28.6	27.3

(7) 国産チーズ

区分	回答者数	外国産に比べ品質が高いため	商品の高付加価値化・差別化のため	安定的に量が調達できるため	外国産に比べて価格が安い	価格が外国産に比べて安定しているため	国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから	産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため	自社生産に取り組んだため	国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため	小売業者や顧客等から国産を使用したいとの要望があったため
計	1人 28	28.6	42.9	7.1	-	10.7	53.6	3.6	7.1	32.1	14.3

(8) 国産牛肉

区分	回答者数	外国産に比べ品質が高いため	商品の高付加価値化・差別化のため	安定的に量が調達できるため	外国産に比べて価格が安い	価格が外国産に比べて安定しているため	国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから	産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため	自社生産に取り組んだため	国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため	小売業者や顧客等から国産を使用したいとの要望があったため
計	1人 70	55.7	51.4	20.0	-	8.6	35.7	8.6	7.1	42.9	22.9

(9) 国産豚肉

区分	回答者数	外国産に比べ品質が高いため	商品の高付加価値化・差別化のため	安定的に量が調達できるため	外国産に比べて価格が安い	価格が外国産に比べて安定しているため	国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから	産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため	自社生産に取り組んだため	国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため	小売業者や顧客等から国産を使用したいとの要望があったため
計	1人 76	50.0	48.7	25.0	2.6	6.6	40.8	11.8	2.6	38.2	21.1

4 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量が減った理由（複数回答）

（「2 会社等で取扱う国産の農畜水産物・加工食品の現在の使用割合及び2～3年前に比べての使用量の変化」（2）で1つでも「減った」

（1）国産米

区分	回答者数	外国産の方が品質が高いため	外国産の方が商品の高付加価値化・差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べて基本的な価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1人 60	-	3.3	3.3	8.3	3.3	-	-	-	-	-

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	39.0	13.0	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
-	28.6	-	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
2.9	21.4	7.1	1

単位：％

輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	地産地消の要望があったため	その他	区分
1.3	26.3	9.2	1

と回答された方のみ回答)

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
-	-	51.7	1

(2) 国産米を使用した米粉加工品(米粉、米粉めん、米粉パン等)

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1	人 19	-	10.5	10.5	5.3	-	-	-	-	-

(3) 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品(小麦粉、めん、パン等)

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1	人 43	7.0	4.7	27.9	23.3	4.7	-	-	2.3	-

(4) 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品(豆腐、納豆等)

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1	人 27	-	-	18.5	18.5	7.4	-	-	-	-

(5) 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1	人 54	1.9	1.9	25.9	24.1	9.3	-	-	1.9	-

(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	1	人 52	1.9	3.8	26.9	21.2	7.7	-	-	-	1.9

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
-	-	42.1	1

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
2.3	7.0	23.3	1

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
-	-	18.5	1

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
5.6	3.7	27.8	1

単位：％

消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため	外国産の方が品種、大きさ、外観、水分などが加工・業務用に適しているため	その他	区分
5.8	-	28.8	1

(7) 国産チーズ

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため	
計	1	人 35	8.6	14.3	8.6	20.0	8.6	-	2.9	-	-	2.9

(8) 国産牛肉

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため	
計	1	人 41	4.9	7.3	17.1	36.6	2.4	2.4	-	-	4.9	-

(9) 国産豚肉

区 分	回答者数	外国産の方が品質が良かったため	外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため	量を安定的に確保することが困難なため	外国産に比べ基本的に価格が高いため	価格が外国産に比べて不安定であるため	海外で新たな産地を確保したため	輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため	国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため	外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため	円高により一時的に外国産を利用しているため
計	144	6.8	9.1	13.6	34.1	9.1	-	-	2.3	-	-

単位：％

消費者の外国 産に対する抵 抗が少なく なったため	外国産の方 が品種、大 きさ、外 観、水分な どが加工・ 業務用に適 しているた め	その他	区分
5.7	8.6	2.9	1

単位：％

消費者の外国 産に対する抵 抗が少なく なったため	外国産の方 が品種、大 きさ、外 観、水分な どが加工・ 業務用に適 しているた め	その他	区分
17.1	4.9	12.2	1

単位：％

消費者の外国 産に対する抵 抗が少なく なったため	外国産の方 が品種、大 きさ、外 観、水分な どが加工・ 業務用に適 しているた め	その他	区分
11.4	11.4	22.7	1

5 国産の農畜水産物・加工食品の取扱量の今後の意向

(1) 国産米

単位：％

平成 27 年								
区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や していき たい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分	
計	1	人 592	48.0	15.0	36.7	0.2	0.2	1
食品製造業	2	174	52.9	12.6	33.3	0.6	0.6	2
食品卸売業	3	95	34.7	27.4	37.9	-	-	3
食品小売業	4	153	47.7	14.4	37.9	-	-	4
外食産業	5	168	51.2	11.3	37.5	-	-	5
無回答	6	2	-	-	100.0	-	-	6

(2) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）

単位：％

単位：%							
区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や していき たい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分
計	1	人 456	32.2	28.9	38.8	-	1
食品製造業	2	132	37.9	25.8	36.4	-	2
食品卸売業	3	69	26.1	27.5	46.4	-	3
食品小売業	4	129	38.8	28.7	32.6	-	4
外食産業	5	125	23.2	33.6	43.2	-	5
無回答	6	1	-	-	100.0	-	6

(3) 国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）

単位：％

単位：%								
区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や していき たい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分	
計	1	人 538	26.4	29.0	44.1	0.4	0.2	1
食品製造業	2	172	32.0	25.6	41.9	0.6	-	2
食品卸売業	3	77	20.8	29.9	49.4	-	-	3
食品小売業	4	133	27.1	28.6	44.4	-	-	4
外食産業	5	154	22.1	33.1	43.5	0.6	0.6	5
無回答	6	2	50.0	-	50.0	-	-	6

(4) 国産大豆又は国産大豆を使用した加工品(豆腐、納豆等)

単位: %

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分
計	1	485	31.1	28.0	40.6	- 0.2	1
食品製造業	2	136	36.0	24.3	39.0	- 0.7	2
食品卸売業	3	76	22.4	38.2	39.5	- -	3
食品小売業	4	124	33.9	22.6	43.5	- -	4
外食産業	5	146	28.8	30.8	40.4	- -	5
無回答	6	3	33.3	33.3	33.3	- -	6

(5) 生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品

単位: %

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分
計	1	655	37.7	27.8	33.6	0.5 0.5	1
食品製造業	2	187	43.3	25.7	29.9	- 1.1	2
食品卸売業	3	150	32.0	36.0	32.0	- -	3
食品小売業	4	153	38.6	24.2	36.6	0.7 -	4
外食産業	5	160	36.3	25.6	36.9	1.3 -	5
無回答	6	5	20.0	40.0	20.0	- 20.0	6

(6) 生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品

単位: %

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていきた い、もし くは国産 を増やし ていきた い	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いきた い、もし くは外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	区分
計	1	583	32.8	27.3	38.9	0.5 0.5	1
食品製造業	2	140	40.7	17.1	40.7	- 1.4	2
食品卸売業	3	142	28.9	33.8	36.6	- 0.7	3
食品小売業	4	149	34.2	27.5	37.6	0.7 -	4
外食産業	5	150	28.0	30.0	40.7	1.3 -	5
無回答	6	2	-	50.0	50.0	- -	6

(7) 国産チーズ

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていき たい、も しくは 国産を 増やし ていき たい	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いき たい、も しくは 外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは 外国産を 増やしてい きたい	区分
計	1	401	21.4	24.7	52.1	1.5	0.2
食品製造業	2	102	25.5	16.7	55.9	1.0	1.0
食品卸売業	3	68	22.1	25.0	52.9	-	-
食品小売業	4	110	20.0	30.0	47.3	2.7	-
外食産業	5	118	18.6	27.1	52.5	1.7	-
無回答	6	3	33.3	-	66.7	-	-

(8) 国産牛肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていき たい、も しくは 国産を 増やし ていき たい	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いき たい、も しくは 外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは 外国産を 増やしてい きたい	区分
計	1	449	30.3	28.1	40.1	1.6	-
食品製造業	2	102	26.5	26.5	44.1	2.9	-
食品卸売業	3	76	32.9	26.3	40.8	-	-
食品小売業	4	123	36.6	22.0	39.0	2.4	-
外食産業	5	147	26.5	34.7	38.1	0.7	-
無回答	6	1	-	100.0	-	-	-

(9) 国産豚肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていき たい、も しくは 国産を 増やし ていき たい	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いき たい、も しくは 外国 産を増や してい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは 外国産を 増やしてい きたい	区分
計	1	470	31.5	27.4	40.0	0.9	0.2
食品製造業	2	109	32.1	26.6	41.3	-	-
食品卸売業	3	76	32.9	27.6	39.5	-	-
食品小売業	4	129	35.7	21.7	39.5	2.3	0.8
外食産業	5	155	27.1	32.3	40.0	0.6	-
無回答	6	1	-	100.0	-	-	-

6 原料や販売用として取扱う国産の農畜産物に求める点（複数回答）

単位：％

区分	回答者数	価格が安定していること	価格が安いこと	数量が安定して供給されること	外国産より味がよいこと	地元産であること	ブランド・産地が名の通ったものであること	無農薬・減農薬であること	加工・調理する上での品質・仕様等の要請に的確に応えたものであること	その他	区分
計	1,025人	33.6	14.5	32.1	19.6	27.8	8.5	10.5	13.5	2.8	1
食品製造業	354	29.9	16.9	30.8	13.0	28.5	7.6	8.8	18.6	2.5	2
食品卸売業	251	33.5	7.6	41.0	16.7	23.9	10.8	11.6	10.8	4.8	3
食品小売業	233	36.5	12.0	33.0	27.0	33.9	9.4	9.4	5.6	1.3	4
外食産業	176	38.6	22.7	22.2	27.8	23.3	6.3	13.6	17.6	2.8	5
無回答	11	9.1	18.2	9.1	9.1	36.4	-	18.2	9.1	-	6

7 流通加工業者が既に農業者と連携して取り組んでいる「6次産業化」の分野及び今後連携することに関心のある分野（複数回答）
（1）既に取り組んでいるもの

単位：％

区分	回答者数	農業	農産物加工	直接販売	観光農園	農家レストラン	農家民宿	その他	なし	区分
計	1,025人	20.4	25.4	22.2	1.9	2.8	0.8	4.0	39.9	1

（2）今後の取組に関心があるもの

単位：％

区分	回答者数	農業	農産物加工	直接販売	観光農園	農家レストラン	農家民宿	その他	なし	区分
計	1,025人	20.0	30.3	24.0	8.2	11.8	4.8	5.3	18.7	1

8 流通加工業者が農業者と連携するに当たっての課題（複数回答）

単位：％

区分	回答者数	連携できる農業者をみつけないこと	連携の効果を十分発揮することができる人材がいらない	労働力が不足していること	施設等が不足していること	資金が不足していること	その他	無回答	区分
計	1,025人	33.5	38.4	14.9	23.2	33.3	6.7	11.7	1

9 国産野菜の使用割合

単位：％

単位：%										
区 分	回答者数	全て 国産品 を使用	76%以上	51～75%	26～50%	1 ～25%	全く 使って いない	無回答	区分	
計	1	1,025	22.1	23.2	5.6	4.8	11.5	14.6	18.1	1
業態別										
食品製造業	2	354	23.4	9.0	3.7	4.2	14.4	23.7	21.5	2
食品卸売業	3	251	10.4	27.9	4.4	4.8	14.3	15.1	23.1	3
食品小売業	4	233	19.7	32.6	4.3	4.3	8.6	12.0	18.5	4
外食産業	5	176	39.8	34.1	13.1	5.7	5.7	－	1.7	5
無回答	6	11	18.2	－	－	18.2	9.1	－	54.5	6

10 国産野菜の使用量の変化

単位：％

区 分	回答者数	増えた	ほとんど 変わらない	減った	無回答	区分
計	1,025	12.3	47.6	5.3	34.8	1

11 国産野菜の使用量を増やした理由（複数回答）

区 分	回答者数	地産地消 の要望が あったた め	国産の方 が外国産 よりイメ ージが良 いと思っ たため	国内農 業・地域 農業の振 興に役立 ちたいか ら	商品の高 付加価値 化・差別 化のため	外国産に 比べ品質 が高いた め	小売業者 や顧客等 から国産 を使用し て欲しい との要望 があった ため	安定的に 量が調達 できるた め	自社生産 に取り組 んだため	産地を紹 介してく れる仲介 業者（流 通業者等 ）がいた ため
計	126	46.0	42.9	42.1	42.1	38.1	37.3	16.7	9.5	8.7

12 国産野菜の使用量を減らした理由（複数回答）

区 分	回答者数	量を安定 的に確保 することが 困難なた め	外国産に 比べ基本 的に価格 が高いた め	価格が外 国産に比 べて不安 定である ため	消費者の 外国産に 対する抵 抗が少な くなった ため	外国産の 方が品質 ・規格（ 品種、大 きさ、外 観、水分 など）が 加工・業 務用に適 している ため	国内市場 価格の高 騰によ り、産地 からこれ までの契 約取引を 断られた ため	外国産の 方が商品 の高付加 価値化、 差別化が できるた め	外国産の 方が品質 が良かった ため	海外で新 たな産地 を確保し たため
計	54	25.9	24.1	9.3	5.6	3.7	1.9	1.9	1.9	—

13 国産野菜の取扱いの意向

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 国産の利 用を続け ていき たい、も しくは、 国産を増 やしてい きたい	可能な範 囲で国産 の利用を 続けてい きたい、 もしくは 国産を増 やしてい きたい	これまで と変わら ない	可能な範 囲で外国 産の利用 を続けて いき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	積極的に 外国産の 利用を続 けていき たい、も しくは外 国産を増 やしてい きたい	無回答	区分
計	1025	24.1	17.8	21.5	0.3	0.3	36.1	1

単位：％

外国産に比べて価格が安い ため	価格が外国産に比べて安定している ため	輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため	その他	区分
1.6	1.6	0.8	8.7	1

単位：％

外国産に比べて価格が安い ため	価格が外国産に比べて安定している ため	円高により一時的に外国産を利用しているため	その他	区分
-	-	-	27.8	1

14 国産野菜に求めること（複数回答）

区 分	回答者数	価格が安定していること	数量が安定して供給されること	地元産であること	外国産より味がいいこと	価格が安いこと	加工・調理する上で品質・仕様等の要請に的確にこたえたものであること	無農薬・減農薬であること	ブランド・産地が名の通ったものであること	その他
計	1,025	33.6	32.1	27.8	19.6	14.5	13.5	10.5	8.5	2.8

15 国産野菜の使用割合を増やす条件

単位：％

区 分	回答者数	重視する	やや重視する	どちらともいえない	あまり重視しない	重視しない	無回答	区分
品質を確保したうえで、生産コストや流通コストを下げること	1,025	55.2	20.1	9.9	2.3	1.0	11.5	1
契約取引により中・長期的に数量・価格を安定させること	1,025	36.0	32.7	13.6	3.2	2.1	12.4	2
地元産野菜の供給拡大を行うこと	1,025	35.6	30.9	15.5	3.9	1.9	12.2	3
異常気象等でも供給不足にならないよう産地分散等のリスクヘッジを行うこと	1,025	27.2	37.4	16.8	4.1	1.8	12.8	4
産地情報や生育情報の発信を強化すること	1,025	28.7	35.2	15.7	6.0	1.8	12.6	5
GAPの取組や、農薬使用履歴やトレーサビリティが確立されていること	1,025	33.4	30.4	16.4	4.9	1.9	13.1	6
産地が加工・業務用に要求される条件を理解していること	1,025	26.4	32.6	19.5	5.7	2.9	12.9	7
加工・業務用に適した品質・規格（品種、大きさ、外観、水分など）の野菜が供給されること	1,025	25.8	28.6	19.0	9.0	4.8	12.9	8
有機農産物や特別栽培農産物等であること	1,025	11.8	29.2	30.5	11.2	4.5	12.8	9
産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいること	1,025	13.4	27.1	26.3	12.2	7.7	13.3	10
リレー出荷等に対応するため、流通業者と連携すること	1,025	12.4	26.5	30.3	10.0	7.5	13.3	11
国内で一次加工処理（皮むき、芯抜き、カットなど）されて供給されること	1,025	10.9	20.0	24.3	17.7	14.2	12.9	12
品質や規格にはあまりこだわらないので、外国産との価格差が縮小されること	1,025	11.0	18.2	27.1	16.8	13.9	13.0	13
今よりコストがかかっても良いので、より高品質な野菜を供給すること	1,025	8.0	17.4	37.8	15.6	8.7	12.6	14

単位：％

無回答	区分
26.2	1

16 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の取扱い（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	特定産地の野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている	有機栽培や特別栽培した野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている	野菜使用量が多いことをアピールした商品（メニュー）を取り扱っている	その他の取組	特に行っていない	無回答	区分
計 1	人 875	26.3	13.9	10.2	3.4	22.1	57.0	1

17 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の評価（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	自社の商品（メニュー）の付加価値になっている	他社との差別化に有効である	顧客の確保に貢献している	自社の収益アップに貢献している	コストの割に利益に結びつかない	取組の継続への負担が大きい	その他	区分
計 1	人 471	46.3	40.8	29.3	17.0	18.0	8.1	0.8	1

18 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）に対する意識

単位：％

区 分	回答者数	現在も取り組んでおり、今後は拡大していきたい	現在は取り組んでいないが、今後取り組んでみたい	現在も取り組んでおり、現状を維持したい	現在も取り組んでいないし、今後とも取り組む予定は	現在も取り組んでいるが、規模を縮小していきたい	無回答	区分
計 1	人 1,025	30.0	20.9	18.0	23.5	0.8	6.7	1

【 統 計 表 】

(消費者モニターに対する調査)

《 目 次 》

1	地域区分	70
2	年齢	70
3	世帯構成	70
4	農業に関する印象	70
5	都市農業の役割	
(1)	新鮮で安全な農産物の供給	70
(2)	農業体験・交流活動の場	70
(3)	心安らぐ緑地空間	70
(4)	災害に備えたオープンスペース	70
(5)	農業への理解の醸成	70
6	都市で生産された農産物の売り場の認知度及び購入頻度	
(1)	売り場について	71
(2)	購入頻度(「(1) 売り場について」で「売っている場所を知っている」を選択した方のみ回答)	71
7	消費者からみた農村の現状	71
8	農業・農村の維持・活性化のために、消費者として応援していったらよいと思う取組(複数回答)	71
9	農業・農村の維持・活性化のための応援をする場合に支障となること(複数回答)	71
10	子どもたち(小学校高学年～中学生まで)の食べ物や農業についての知識	72
11	子どもたち(小学校高学年～中学生まで)の親の食べ物や農業についての知識	72
12	地球環境問題を解決するために、普段の食料品の買い物や食生活上で行っている取組	
(1)	1位	72
(2)	2位	72
13	食品廃棄物を減らすための取組	73
14	食品の容器包装等を減らすための取組	73
15	農業関係の環境負荷軽減に関するマーク等の認知度	
(1)	有機JASマーク	74
(2)	カーボンフットプリントマーク	74
(3)	生き物マーク	74
(4)	エコファーマーのマーク	75
(5)	フードマイレージ	75
(6)	水産エコラベル	75
16	国産の農産物の購入状況	
(1)	国産米を使用した米粉加工品(米粉、米粉めん、米粉パン等)	76
(2)	国産小麦を使用した加工品(小麦粉、めん、パン等)	76
(3)	国産大豆を使用した加工品(豆腐、納豆等)	76
(4)	生鮮の国産野菜	76
(5)	生鮮の国産果実	76
(6)	国産チーズ	76
(7)	国産牛肉	76
(8)	国産豚肉	76

17	地場産の農産物の購入状況	
(1)	国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	77
(2)	国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	77
(3)	国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	77
(4)	生鮮の国産野菜	77
(5)	生鮮の国産果実	77
(6)	国産チーズ	77
(7)	国産牛肉	77
(8)	国産豚肉	77
18	国産の農産物等を購入している理由	78
19	地場産の農産物等を購入している理由	78
20	国産の農産物等を購入していない理由	78
21	地場産の農産物等を購入していない理由	78
22	水産物を購入する際に重視すること（複数回答）	79
23	我が国周辺海域の水産資源の状況の認識	79
24	水産資源の利用に関するあなたの考え方	79
25	資源管理について、重視すべき効果・目標（複数回答）	79
26	水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには有効な取組（複数回答）	80
27	「エコラベル」マークが付いた水産物購入の意向	80

1 地域区分

単位：％

単位：%					
区 分	回答者数	都市 1	都市 2	左記以外の市町村	区分
計	1,626人	42.4	18.8	38.9	1

注：「都市1」、「都市2」については、【利用上の注意】を参照されたい（以下同様）。

2 年齢

単位：％

区 分		回答者数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	区分
計	1	1,626	6.0	21.8	24.6	17.3	11.7	8.9	9.7	1

3 世帯構成

単位：％

年別：79							
区 分	回答者数	夫婦のみの世帯	夫婦と子どもの世帯	単独世帯	その他の世帯	区分	
計	1	人 1,626	7.9	55.4	24.4	12.3	1

4 農業に関する印象

（「1 地域区分」が「都市部1」又は「都市部2」の方のみ回答）

単位：％

単位：%						
区 分	回答者数	農地があり農業が行われていて、どのような作物が栽培されているか知っている	農地があり農業が行われているが、どのような作物が栽培されているか分からない	農地はない、又は農地があるかどうか分からない	無回答	区分
計	1984	54.8	22.1	21.7	1.4	1

5 都市農業の役割

（「4 農業に関する印象」で「農地があり農業が行われていて、どのような作物が栽培されているか知っている」又は「農地があり農業が行われているが、どのような作物が栽培されているか分からない」を選択した方のみ回答）

（1）新鮮で安全な農産物の供給

単位：％

区 分	回答者数	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果たしていない	全く果たしていない	分からない	無回答	区分	
計	1	756	27.5	51.2	10.2	6.7	0.8	2.6	0.9	1

（2）農業体験・交流活動の場

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果たしていない	全く果たしていない	分からない	無回答	区分	
計	1	756	8.5	32.0	22.9	20.4	8.6	6.7	0.9	1

（3）心安らぐ緑地空間

単位：％

単位：70

区 分	回答者数	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果たしていない	全く果たしていない	分からない	無回答	区分	
計	1	756	18.1	46.6	17.9	11.6	3.7	0.7	1.5	1

（4）災害に備えたオープンスペース

単位：％

単位：人

区 分	回答者数	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果たしていない	全く果たしていない	分からない	無回答	区分	
計	1	756	9.0	29.8	28.4	15.7	5.3	9.9	1.9	1

（5）農業への理解の醸成

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果たしていない	全く果たしていない	分からない	無回答	区分
計	1	756	7.9	36.6	25.1	17.2	4.8	7.1	1.2

6 都市で生産された農産物の売り場の認知度及び購入頻度

「4 農地に関する印象」で「農地があり農業が行われていて、どのような作物が栽培されているか知っている」又は「農地があり農業が行われているが、どのような作物が栽培されているか分からない」を選択した方のみ回答

(1) 売り場について

(4) 売場について

単位：％

区 分	回答者数	売っている場所を知っている	直売所、スーパー等売っているところは知っているが、その場所は知らない	売っている場所があることを知らない	無回答	区分
計	1人 756	77.5	7.5	9.3	5.7	1

(2) 購入頻度（「(1) 売り場について」で「売っている場所を知っている」を選択した方のみ回答）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に購入するようにしている	見かけた場合などに、時々購入するようにしている	あまり購入していない	まったく購入していない	無回答	区分
計	1586	39.9	47.8	9.6	2.4	0.3	1

7 消費者からみた農村の現状

（「1 地域区分」が「左記以外の市町村」の方、又は「都市部1」及び「都市部2」の方であっても、帰省先が「左記以外の市町村」の方のみ回答）

単位：％

区 分	回答者数	荒れた農地や空き家等が目立つ	あまり変わっている印象がない	新たに工場やスーパー等ができ、活気づいている	農業や農業関連の事業が盛んで、活気づいている	よくわからない	無回答	区分	
計	1	1,166	28.6	40.0	13.4	4.0	8.1	5.9	1
農 政 局 等 別									
北 海 道	2	54	11.1	50.0	9.3	9.3	13.0	7.4	2
東 北	3	89	42.7	37.1	6.7	2.2	6.7	4.5	3
関 東	4	399	24.3	42.6	13.5	3.5	9.3	6.8	4
北 陸	5	59	16.9	50.8	11.9	5.1	6.8	8.5	5
東 海	6	91	25.3	35.2	20.9	3.3	6.6	8.8	6
近 畿	7	179	25.7	37.4	16.8	2.2	14.5	3.4	7
中 国	8	129	43.4	34.1	13.2	2.3	-	7.0	8
四 国	9	144	38.2	38.2	10.4	7.6	3.5	2.1	9
九 州	10	19	5.3	36.8	15.8	10.5	15.8	15.8	10
沖 縄	11	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	11

8 農業・農村の維持・活性化のために、消費者として応援していったらよいと思う取組（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	米など国内で生産できる農産物は国産農産物を積極的に消費・購入する	農村に滞在して余暇を楽しむグリーンツーリズム等により農村へ積極的に訪れる	農地を有効利用するための市民農園の利用や、体験農業等へ積極的に参加する	消費者が農業者と事前に農産物の売買契約を結んで農家の経営等を支援する	リンゴの木や棚田などのオーナーとなり農作業を体験するオーナー制度への参加	「コミュニティビジネス」への参加	その他	無回答	区分
計	1,626	84.3	24.5	54.9	38.9	31.9	30.9	9.4	0.1	1

9 農業・農村の維持・活性化のための応援をする場合に支障となること（複数回答）

① 事業・展覧の維持・活性化のための応援をする場合に支援となること（複数回答）
 単位：％

区 分	回答者数	具体的な取組に関する情報が少ない	一緒に取り組む仲間がいない	相談相手、窓口がわからない	費用がかかる	その他	無回答	区分
計	1,626	73.9	31.5	42.1	39.7	10.4	0.2	1

10 子どもたち（小学校高学年～中学生まで）の食べ物や農業についての知識

単位：％

区 分		回答者数	ほとんどの子どもたちが知識を十分持っている	十分知識を持っている子どもたちが多いが、一部は持っていない	十分知識をもっている子どもも、持っていない子ども半々ぐらいである	知識をもっていない子どもたちが多いが、一部は十分知識を持っている	ほとんどの子どもたちが十分な知識を持っている	わからない	無回答	区分
計	1	人 1,626	2.3	7.3	17.7	27.7	33.5	11.4	0.1	1
都市、非都市別										
都市 1	2	689	1.5	6.4	16.5	27.6	35.4	12.5	0.1	2
都市 2	3	305	2.0	8.2	20.0	29.2	28.9	11.8	-	3
上記以外の市町村	4	632	3.3	7.8	17.9	27.1	33.7	10.1	0.2	4

11 子どもたち（小学校高学年～中学生まで）の親の食べ物や農業についての知識

単位：％

区 分		回答者数	ほとんどの親たちが知識を十分持っている	十分知識を持っている親たちが多いが、一部は持っていない	十分知識を持っている親、持っていない親半々ぐらいである	知識を保持していない親が多いが、一部は十分知識を持っている	ほとんどの親たちが十分な知識を保持していない	わからない	無回答	区分
計	1	1,626	2.6	13.7	28.8	30.8	15.5	8.4	0.2	1
都市、非都市別										
都市 1	2	689	2.5	11.3	27.3	31.2	17.7	9.9	0.1	2
都市 2	3	305	3.0	13.4	30.2	32.5	12.5	8.5	-	3
上記以外の市町村	4	632	2.7	16.5	29.7	29.6	14.6	6.6	0.3	4

12 地球環境問題を解決するために、普段の食料品の買い物や食生活上で行っている取組

(1) 1位

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	使い残さないように量を考えて農産物や食品を買う	地元産の農産物や食品を買う	化学肥料・農薬等の使用量が少ない、環境負荷軽減に配慮した農産物や食品を買う	旬の農産物を買う（ハウス栽培による二酸化炭素の発生抑制等を意図）	包装や容器のゴミが多くならない農産物や食品を買う	その他	特に取り組んでいない	無回答	区分	
計	1	1,626	40.6	29.2	15.4	9.5	3.3	0.6	1.3	0.1	1
年齢階層別											
20～29歳	2	97	56.7	20.6	6.2	10.3	4.1	－	2.1	－	2
30～39歳	3	355	49.3	26.2	7.6	9.6	3.7	1.1	2.3	0.3	3
40～49歳	4	400	44.8	26.5	14.8	7.8	4.3	0.5	1.5	－	4
50～59歳	5	282	30.5	34.0	21.6	9.6	3.2	0.7	0.4	－	5
60～64歳	6	190	27.9	34.2	18.4	16.3	2.6	－	0.5	－	6
65～69歳	7	144	33.3	31.3	21.5	10.4	2.1	－	1.4	－	7
70歳以上	8	158	40.5	31.6	20.3	4.4	1.3	0.6	0.6	0.6	8

(2) 2位

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	使い残さないように量を考えて農産物や食品を買う	地元産の農産物や食品を買う	化学肥料・農薬等の使用量が少ない、環境負荷軽減に配慮した農産物や食品を買う	旬の農産物を買う（ハウス栽培による二酸化炭素の発生抑制等を意図）	包装や容器のゴミが多くならない農産物や食品を買う	その他	特に取り組んでいない	無回答	区分	
計	1	1,626	19.1	27.7	17.7	22.0	8.5	2.2	2.5	0.4	1
年齢階層別											
20～29歳	2	97	16.5	30.9	13.4	19.6	7.2	3.1	8.2	1.0	2
30～39歳	3	355	20.0	24.8	14.9	23.7	11.0	1.4	3.7	0.6	3
40～49歳	4	400	19.0	30.5	19.0	18.3	7.8	2.5	2.5	0.5	4
50～59歳	5	282	22.3	23.4	17.7	24.8	8.5	1.4	1.8	－	5
60～64歳	6	190	21.1	27.4	18.9	24.2	6.3	0.5	1.6	－	6
65～69歳	7	144	16.7	26.4	19.4	23.6	9.0	4.2	0.7	－	7
70歳以上	8	158	13.3	34.2	20.3	19.6	8.2	3.8	－	0.6	8

13 食品廃棄物を減らすための取組

単位：％

単位：%

区 分	回答者数	少量パック等、食べきれる量の食品を購入している	賞味期限が過ぎていても、見た目やにおい等で判断して食べている	賞味期限が切れないう在庫管理をおこなっている	料理の際は、作りすぎないように心がけている	料理の際は、生ゴミを少なくするよう料理をしている	外食の際は、食べきれる量を注文している	その他	特に何もおこなっていない	無回答	区分	
計	1	1,626	24.9	24.7	20.9	11.1	10.8	4.9	1.8	0.9	0.1	1
年齢階層別												
20～29歳	2	97	29.9	25.8	15.5	8.2	11.3	8.2	1.0	-	-	2
30～39歳	3	355	26.5	21.7	25.1	10.7	7.3	5.6	1.4	1.4	0.3	3
40～49歳	4	400	22.0	24.5	22.8	12.3	9.0	6.0	1.8	1.8	-	4
50～59歳	5	282	22.0	28.4	18.1	13.1	12.1	4.3	2.1	-	-	5
60～64歳	6	190	26.3	22.6	18.4	9.5	16.3	3.2	3.2	0.5	-	6
65～69歳	7	144	25.0	29.9	15.3	10.4	13.2	3.5	2.1	0.7	-	7
70歳以上	8	158	29.1	22.2	23.4	10.1	11.4	2.5	1.3	-	-	8

14 食品の容器包装等を減らすための取組

単位：％

区 分		回答者数	簡易包装の商品を選択している	トレイや牛乳パック等の回収に協力している	買い物袋（エコバッグ）を持参している	外食時などに自分の箸を持参している	その他	特に何もおこなっていない	無回答	区分
計	1	1,626	10.2	32.9	50.8	0.9	1.3	3.9	0.1	1
年齢階層別										
20～29歳	2	97	11.3	26.8	48.5	3.1	1.0	9.3	-	2
30～39歳	3	355	9.3	34.1	48.7	1.1	0.8	5.6	0.3	3
40～49歳	4	400	10.5	29.0	55.5	1.0	0.5	3.5	-	4
50～59歳	5	282	10.3	36.5	48.2	0.4	1.8	2.8	-	5
60～64歳	6	190	9.5	29.5	58.4	-	0.5	2.1	-	6
65～69歳	7	144	10.4	32.6	48.6	0.7	4.2	3.5	-	7
70歳以上	8	158	11.4	41.8	42.4	0.6	1.9	1.9	-	8

15 農業関係の環境負荷軽減に関するマーク等の認知度

(1) 有機JASマーク

単位：％

単位：人

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	マーク(言 葉)をみた ことがあ るが意味 は知らない	知らない	無回答	区分	
計	1	1,626	60.1	28.5	11.3	0.1	1
年齢階層別							
20～29歳	2	97	41.2	44.3	14.4	-	2
30～39歳	3	355	46.8	41.4	11.5	0.3	3
40～49歳	4	400	51.0	33.5	15.5	-	4
50～59歳	5	282	68.1	22.0	9.9	-	5
60～64歳	6	190	71.1	19.5	9.5	-	6
65～69歳	7	144	77.8	16.0	6.3	-	7
70歳以上	8	158	81.0	10.8	7.6	0.6	8
都市、非都市別							
都市 1	9	689	59.9	27.6	12.3	0.1	9
都市 2	10	305	56.7	31.1	12.1	-	10
上記以外の市町村	11	632	61.9	28.2	9.8	0.2	11

(2) カーボンフットプリントマーク

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	マーク(言 葉)をみた ことがあ るが意味 は知らない	知らない	無回答	区分	
計	1	人 1,626	17.8	19.2	62.8	0.2	1
年齢階層別							
20～29歳	2	97	8.2	18.6	73.2	－	2
30～39歳	3	355	16.3	19.2	64.2	0.3	3
40～49歳	4	400	15.8	20.3	64.0	－	4
50～59歳	5	282	22.3	20.2	57.4	－	5
60～64歳	6	190	23.7	15.8	60.5	－	6
65～69歳	7	144	16.0	19.4	64.6	－	7
70歳以上	8	158	18.4	19.0	60.8	1.9	8
都市、非都市別							
都市 1	9	689	20.8	19.0	59.7	0.6	9
都市 2	10	305	13.4	19.0	67.5	－	10
上記以外の市町村	11	632	16.6	19.5	63.9	－	11

(3) 生き物マーク

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	マーク(言 葉)をみた ことがあ るが意味 は知らない	知らない	無回答	区分	
計	1	人 1,626	7.9	13.0	78.8	0.3	1
年齢階層別							
20～29歳	2	97	5.2	6.2	88.7	－	2
30～39歳	3	355	5.9	8.7	85.1	0.3	3
40～49歳	4	400	3.8	11.3	85.0	－	4
50～59歳	5	282	8.2	17.4	74.5	－	5
60～64歳	6	190	14.2	12.6	73.2	－	6
65～69歳	7	144	8.3	20.8	70.8	－	7
70歳以上	8	158	16.5	16.5	64.6	2.5	8
都市、非都市別							
都市 1	9	689	7.8	12.5	79.1	0.6	9
都市 2	10	305	6.9	14.1	79.0	－	10
上記以外の市町村	11	632	8.5	13.0	78.3	0.2	11

(4) エコファーマーのマーク

単位：％

単位：人

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	マーク(言 葉)をみた ことがあ るが意味 は知らない	知らない	無回答	区分	
計	1	1,626	32.3	21.8	45.6	0.3	1
年齢階層別							
20～29歳	2	97	17.5	21.6	60.8	-	2
30～39歳	3	355	22.0	22.3	55.5	0.3	3
40～49歳	4	400	22.8	25.0	52.3	-	4
50～59歳	5	282	41.1	22.0	36.9	-	5
60～64歳	6	190	46.8	18.4	34.7	-	6
65～69歳	7	144	41.7	22.9	35.4	-	7
70歳以上	8	158	47.5	15.2	34.8	2.5	8
都市、非都市別							
都市 1	9	689	30.8	20.8	47.9	0.6	9
都市 2	10	305	29.8	24.3	45.9	-	10
上記以外の市町村	11	632	35.3	21.7	42.9	0.2	11

(5) フードマイレージ

単位：％

単位：％

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	知らない	無回答	区分	
計	1	人 1,626	42.5	56.9	0.6	1
年齢階層別						
20～29歳	2	97	34.0	66.0	－	2
30～39歳	3	355	36.6	63.1	0.3	3
40～49歳	4	400	35.8	63.8	0.5	4
50～59歳	5	282	52.8	46.8	0.4	5
60～64歳	6	190	49.5	50.5	－	6
65～69歳	7	144	47.2	52.8	－	7
70歳以上	8	158	46.8	50.0	3.2	8
都市、非都市別						
都市 1	9	689	46.0	53.1	0.9	9
都市 2	10	305	38.7	61.0	0.3	10
上記以外の市町村	11	632	40.5	59.2	0.3	11

(6) 水産エコラベル

単位：％

年10、20

区 分	回答者数	マーク (言葉) の意味を 知っている	マーク(言 葉)をみた ことがあ るが意味 は知らない	知らない	無回答	区分	
計	1	人 1,626	13.3	12.2	74.2	0.3	1
年齢階層別							
20～29歳	2	97	7.2	12.4	80.4	-	2
30～39歳	3	355	7.3	8.7	83.7	0.3	3
40～49歳	4	400	10.5	12.0	77.5	-	4
50～59歳	5	282	17.7	11.7	70.6	-	5
60～64歳	6	190	17.4	10.5	72.1	-	6
65～69歳	7	144	16.7	16.7	66.7	-	7
70歳以上	8	158	21.5	19.6	56.3	2.5	8
都市、非都市別							
都市 1	9	689	14.8	11.6	73.0	0.6	9
都市 2	10	305	12.5	9.5	78.0	-	10
上記以外の市町村	11	632	12.0	14.2	73.6	0.2	11

16 国産の農産物の購入状況

(1) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	38.9	30.3	21.0	6.2	3.3	0.4	1

(2) 国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	35.4	40.1	15.6	2.3	6.3	0.3	1

(3) 国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	55.2	33.3	7.6	0.7	2.9	0.3	1

(4) 生鮮の国産野菜

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	79.5	17.0	1.8	0.4	1.0	0.3	1

(5) 生鮮の国産果実

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	63.0	30.1	4.9	0.4	1.2	0.4	1

(6) 国産チーズ

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	28.4	35.5	22.1	5.9	7.7	0.4	1

(7) 国産牛肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	50.8	30.0	14.2	3.7	1.0	0.3	1

(8) 国産豚肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	65.0	27.3	4.9	1.0	1.3	0.4	1

17 地場産の農産物の購入状況

(1) 国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	25.4	28.0	23.3	13.0	9.5	0.7	1

(2) 国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	21.9	31.7	22.3	10.6	12.9	0.7	1

(3) 国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	32.2	29.4	17.6	9.4	10.8	0.6	1

(4) 生鮮の国産野菜

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	59.2	29.0	6.2	2.2	2.8	0.6	1

(5) 生鮮の国産果実

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	38.9	36.4	15.6	4.0	4.6	0.6	1

(6) 国産チーズ

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	15.7	23.9	25.0	21.0	13.8	0.6	1

(7) 国産牛肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	28.5	28.2	21.1	14.0	7.4	0.7	1

(8) 国産豚肉

単位：％

区 分	回答者数	積極的に 購入して いる	ある程度 購入して いる	あまり購 入してい ない	まったく 購入して いない	分からない	無回答	区分
計	1 人 1,626	38.1	28.5	15.9	9.0	7.9	0.6	1

18 国産の農産物等を購入している理由

(「16 国産の農産物の購入状況」で「積極的に購入している」、「ある程度購入している」と1つでも答えた方のみ回答)

単位：％

表 1 農産物産地別・産地別 産										
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

19 地場産の農産物等を購入している理由

(「17 地場産の農産物の購入状況」で「積極的に購入している」、「ある程度購入している」と1つでも答えた方にのみ回答)

単位：％

区 分	回答者数	他の農産物に比べて安いから	他の農産物に比べて品質が良いから	質や形が揃っているから	品数が多いから	売っている店が身近にあるから	いつも置いてあるから	地元の農業を応援したいから	その他	無回答	区分
計	1,490	4.8	36.1	1.0	0.9	12.3	1.5	34.6	5.8	2.8	1

20 国産の農産物等を購入していない理由

(「16 国産農産物の購入」で「あまり購入していない」、「まったく購入していない」と1つでも答えた方のみ回答)

単位：％

区 分	回答者数	他の農産物に比べて高いから	他の農産物に比べて品質が悪いから	質や形にバラツキがみられるから	品数が少ないから	売っている店が身近にないから	売り切れていることが多いから	その他	無回答	区分
計	1892	19.2	2.4	1.1	12.7	15.8	0.9	10.5	37.4	1

21 地場産の農産物等を購入していない理由

(「17 地場産の農産物等の購入」で「あまり購入していない」、「まったく購入していない」と1つでも答えた方のみ回答)

単位：％

平成27年度										単位：％
区 分	回答者数	他の農産物に比べて高いから	他の農産物に比べて品質が悪いから	質や形にバラツキがみられるから	品数が少ないから	売っている店が身近にないから	売り切れていることが多いから	その他	無回答	区分
計	1,032人	13.6	1.8	1.5	13.2	26.6	0.6	9.4	33.4	1

22 水産物を購入する際に重視すること（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	価格	安全・安心であること	国産であること	近隣で漁獲された水産物であること	鮮度	旬の魚であること	切身や干物など調理しやすい形で売られていること	調理されて売られていること	資源の枯渇の恐れがないなど、水産資源の管理上、問題のない魚種であること	その他	区分	
計	1	人 1,626	49.4	54.6	26.3	14.4	67.7	26.3	13.1	0.9	1.9	1.2	1

23 我が国周辺海域の水産資源の状況の認識

単位：％

区 分	回答者数	水産資源 は豊富で ある	枯渇しつ つある	比較的安 定してい る	分からな い	無回答	区分	
計	1	人 1,626	7.9	55.4	24.4	12.3	0.1	1

24 水産資源の利用に関するあなたの考え方

単位：％

区 分	回答者数	良好な環境・生態系を後世に残すことが大事であり、水産資源の食料としての利用よりも保護を優先すべきである	水産資源を食料として持続的に利用できるよう、漁業と資源保護の両立を図っていくべきである	水産資源の状態を正確に把握することは困難であり、まずは効率的な利用を推進していくべきである	水産資源の問題には特に関心がない	区分	
計	1	人 1,626	7.4	86.5	4.7	1.3	1

25 資源管理について、重視すべき効果・目標（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	漁場環境・生態系の維持・回復	国民への水産物の安定供給	水産資源の回復・増大	漁業者の経営の安定（魚価の安定）	秩序ある操業の実現	その他	分からない	区分	
計	1	人 1,626	57.3	29.6	24.9	30.9	17.7	0.9	1.7	1

26 水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには有効な取組（複数回答）

単位：％

区 分	回答者数	行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる	漁業者や漁協などが、自分に取り組んでいる水産資源の管理のPR（インターネットによる情報発信、マスコミへの働きかけなど）を強化する	消費者が店頭でしっかりと資源管理の下で漁獲された水産物を選択して購入できる機会を増やす	漁業者と消費者の交流・接触の機会を増やす	漁業者が市場や外食産業と連携することで、消費者向けの啓発活動を行う	その他	区分
計	1	1,626	52.1	41.1	43.5	25.5	18.8	1

27 「エコラベル」マークが付いた水産物購入の意向

単位：％

区分							回答者数	多少高くても、エコラベルのマークが付いた水産物を購入する	価格や鮮度が同一であれば、エコラベルのマークが付いた水産物を選択する	鮮度や産地、ブランドに関する情報の方が重要であり、エコラベルが選択の基準とは思わないと思う	その他	無回答	区分
計	1	1,626	16.0	69.9	12.4	1.4	0.4	1					

【調査事項】

農業者モニター用

【基本項目】

問 1 はじめに、あなたの経営（家や法人単位）の農業部門において、過去 1 年間でも
っとも販売金額の多い品目は次のうちどれですか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 米
- 2 畑作物（麦、大豆、てん菜、ばれいしょ、さとうきび、かんしょ）
- 3 野菜
- 4 果樹
- 5 畜産
- 6 花き
- 7 その他

問 2 あなたのご年齢は次のうちどれですか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 20～29 歳
- 2 30～39 歳
- 3 40～49 歳
- 4 50～59 歳
- 5 60～64 歳
- 6 65～69 歳
- 7 70 歳以上

問 3 あなたの農業経営の状況について教えてください

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 全て個別に行っている。
- 2 米などの基幹作物では自分で行っているが、他の作物では他の人、組織に任せている。
- 3 一部作物では自分で行っているが、多くの作物では、他の人、組織に任せている。
- 4 全て、他の人、組織に任せている。

【農業経営の意向関係】

問 4 今後、あなたは農業経営をどのようにしたいですか。

＜経営規模等＞、＜組織形態＞、＜集落営農への参加＞について、それぞれ該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

＜農業の経営規模等＞

- 1 農業経営面積（頭数等）を拡大したい。
- 2 作業受託（面積等）を拡大したい。
- 3 新たな部門に取り組む等、経営の複合化を進めたい。
- 4 現状のまま維持したい。
- 5 農業経営面積（頭数等）を縮小したい。
- 6 農業取組部門数を減らしたい
- 7 作業受託（面積等）を縮小したい。
- 8 農業を止めたい。

＜組織形態＞

- 1 個人経営（非法人）のままでよい。
- 2 法人化したい。
- 3 既に法人になっている。

＜集落営農への参加＞

注：集落営農には、転作組合、麦作集団等も含まれます。

- 1 自らの農地の近くに集落営農があり、参加したい。
- 2 自らの農地の近くに集落営農ができれば、参加したい。
- 3 自らの農地の近くに集落営農があるが、参加したくない。
- 4 自らの農地の近くに集落営農もないし、参加もしたくない。
- 5 既に集落営農に参加しており、今後も参加したい。
- 6 既に集落営農に参加しているが、今後は参加したくない。

問 5 この質問は問 4 <農業の経営規模等>で 1～3 のいずれかを選択した方のみお答え下さい。

「経営面積（頭数等）を拡大したい」、あるいは「新たな部門に取り組みたい」と考える理由を以下の選択肢から 2 つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 収益の増加が見込めるため
- 2 農地購入価格、または借り入れ地代が低いため
- 3 他の農家等から農地等を引き受けてほしいという依頼があるため
- 4 自分の農地と隣接した農地を利用できる見込みがあり、規模拡大により効率的な営農を行いたいと考えるため
- 5 後継者がいる等、規模拡大に必要な労働力が十分あり、この労働力を有効活用するため
- 6 遊休農地等を有効活用するため
- 7 農業機械・施設を有効活用するため
- 8 品種改良や機械、栽培技術といった技術面の進歩により生産効率が上がっており、規模拡大に必要な資金や労力的な余裕があるため
- 9 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 6 この質問は問 4 <農業の経営規模等>で 5～8 のいずれかを選択した方のみお答え下さい。

「経営面積（頭数等）を縮小したい」、「取組部門数を減らしたい」等を行いたい理由を以下の選択肢から 2 つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 収益性が低いため
- 2 農地の売却価格、または貸し付け地代が高いため
- 3 他の農家、組織から農地の購入、または借り入れの申し出があるため
- 4 農地が分散または小区画で営農が非効率なため
- 5 高齢化等により、労力的に対応できないため
- 6 農業機械・施設の老朽化が進んでおり、更新も難しいため
- 7 特定部門に集中した経営により効率的に営農したいため
- 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【6次産業化の取組関係】

問7 この質問は全員の方がお答え下さい。

農林水産省は、農業者の所得増大や、農村における雇用機会を確保することにより農業・農村の活性化等を図ることを目的として、農産物生産のみならず経営体内における加工・販売や、他の製造業者や小売業等との融合を図る等の「6次産業化」を推進することとしています。

以下にあげる「6次産業化」に関連した分野について、あなたの家、または参加している組織、グループにおいて、＜既に取り組んでいるもの＞、＜今後、取り組みたいもの＞について、それぞれ該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

＜既に取り組んでいるもの＞

- 1 農産物加工
- 2 直接販売（農産物直売所への出荷も含みます。）
- 3 観光農園
- 4 農家レストラン
- 5 農家民宿
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 7 関心がない

＜今後、取り組みたいもの＞

- 1 農産物加工
- 2 直接販売（農産物直売所への出荷も含みます。）
- 3 観光農園
- 4 農家レストラン
- 5 農家民宿
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 7 関心がない

問 8 問 7 <既に取り組んでいるもの>、<今後、取り組みたいもの>とも 1～6 を選択した方のみお答え下さい。

農業者が「6 次産業化」に取り組む場合の課題としてどのようなものがありますか。

該当する選択肢を 2 つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 事業のノウハウ・技術をもっていない。
- 2 ノウハウ・技術を指導や支援してくれる人・機関がない。
- 3 事業のリスクが大きい。
- 4 一緒に取り組む農業者がいない
- 5 他産業の連携先がみつからない。
- 6 労働力が不足している。
- 7 資金が乏しい。
- 8 自身のものも含め原料農産物の安定的な調達が難しい。
- 9 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【環境保全型農業の取組関係】

問 9 この質問は全員の方がお答え下さい。

あなたは化学肥料・農薬の使用量を減らす等により環境負荷の軽減等を図る「環境保全型農業」に取り組みたいと思いますか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 取り組みたい
- 2 どちらかと言えば取り組みたい
- 3 どちらかと言えば取り組みたくない
- 4 取り組みたくない
- 5 既に取り組んでいる
- 6 関心がない

問10 問9で1、2、5のいずれかを選択した方のみお答え下さい。

「環境保全型農業」に取り組みたい又は既に取り組んでいる理由は何ですか。
該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 農薬の使用の減少によって自身の健康面への不安が小さくなるから
- 2 連作障害や地力低下を防ぐなど、栽培面の効果があるから
- 3 生産物に付加価値がつくなど、収入面で魅力があるから
- 4 環境問題への解決に貢献したいから
- 5 消費者や消費者グループ、農協や行政から働きかけがあるから
- 6 取引先が求めるから
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問11 問9で1、2、5のいずれかを選択した方のみお答え下さい。

「環境保全型農業」に取り組む場合に支障となること又はなっていることは何ですか。

該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 慣行栽培と比べて、経費がかかる割には販売単価が評価されないこと
- 2 慣行栽培に比べて単収が減少すること
- 3 慣行栽培に比べて労力がかかること
- 4 環境に配慮した生産方法に関する情報が少ないこと
- 5 実際に取り組む際に行政等による技術的支援が少ないこと
- 6 周辺の農業者等の理解が得られないこと
- 7 周辺の農業者等の理解を得るために必要な行政からの支援が少ないこと
- 8 生産物の販路の確保が難しいこと
- 9 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問12 問9で3、4を選択した方のみお答え下さい。

「環境保全型農業」に取り組みたくない理由は何ですか。
該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 慣行栽培と比べて、経費がかかる割には販売単価が評価されないから
- 2 慣行栽培に比べて単収が減少するから
- 3 慣行栽培に比べて労力がかかるから
- 4 環境に配慮した生産方法に関する情報が少ないこと
- 5 実際に取り組む際に行政等による技術的支援が少ないこと
- 6 周辺の農業者等の理解が得られないこと
- 7 周辺の農業者等の理解を得るために必要な行政からの支援が少ないこと
- 8 生産物の販路の確保が難しいこと
- 9 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

〔以降の質問は全員の方がお答え下さい。〕

【農村の維持・活性化関係】

問13 お住まいの集落の中で農業の後継ぎ（集落営農や法人を担う人も含みます）はどの程度確保できてますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 集落内の農業が維持できる程度には後継ぎが確保できている
- 2 集落内の農業が維持できるかどうか後継ぎの確保に不安な状態である
- 3 後継ぎがあまり確保できておらず、集落内の農業が一部維持できない状態である
- 4 後継ぎがほとんど確保できておらず、集落の農業の維持がほとんどできない状態である

問14 これから先（10年程度後まで）、あなたや家族が農村で生活する上で、困ること、不安なことについて、順位を付けて上位5つの選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 近くに病院がないこと
- 2 救急医療機関が遠く搬送に時間がかかること
- 3 近くで食料や日常品を買えないこと
- 4 子どもの学校が遠いこと
- 5 近くに働き口がないこと
- 6 郵便局や農協が近くになく不便なこと
- 7 携帯電話の電波が届かないこと（電波の状態が悪いこと）
- 8 農地の手入れが十分にできないこと
- 9 付近に耕作放棄地が増加してきたこと
- 10 サル、イノシシ、クマなどの獣が現れること
- 11 台風、地震、豪雨など災害で被災や孤立の恐れがあること
- 12 自身・同居家族だけでは身のまわりのことは十分にできないこと
- 13 一人住まい、あるいは、近所に住んでいる人が少なくさみしいこと
- 14 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 15 特になし

問15 お住まいの集落の中で今後の集落の維持・活性化方策を決めていますか。
該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 既に決めている。
- 2 現在話し合い中である。
- 3 今後話し合いを始める予定である。
- 4 決める予定はない。
- 5 わからない

問16 今後の集落の農業の担い手として、どのような人・組織を期待しますか。
該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 農業者のこども・親族
- 2 農業者のこども・親族以外で、農村在住の人
- 3 農業者のこども・親族以外で、農村以外に在住の人
- 4 集落営農組織（法人・任意組織）
- 5 企業
- 6 J A・地方公共団体
- 7 上記以外の法人・団体（具体的に回答用紙に記入してください。）

問17 あなたは集落維持・活性化のためにどのような取組を行っていますか。
該当する選択肢の番号を全て選択して回答用紙に記入してください。

- 1 農業用水、農道、ため池等農業用施設の維持・管理
- 2 空屋の維持・管理
- 3 伝統文化の維持
- 4 寺・神社の維持・管理
- 5 草刈り・清掃・街路樹の剪定等による景観の保持
- 6 集落活性化のための行事等の企画・実施
- 7 集落の見回り・高齢者のお世話（防災・防火を含む）
- 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 9 特に取り組んでいない

問18 あなたの周りの子どもたち（小学校高学年～中学生まで）は、食べ物や農業についての知識（米、野菜、畜産物等の農産物、食品はどのように生産されるのか等）をどの程度もっていると思いますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 ほとんどの子どもたちが知識を十分持っている。
- 2 十分知識を持っている子どもたちが多いが、一部は持っていない。
- 3 十分知識をもっている子ども、持っていない子ども半々ぐらいである。
- 4 知識を持っていない子どもたちが多いが、一部は十分知識を持っている。
- 5 ほとんどの子どもたちが十分な知識を持っていない。
- 6 わからない

問19 あなたの周りの子どもたち（小学校高学年～中学生まで）の親は、食べ物や農業についての知識（米、野菜、畜産物等の農産物、食品はどのように生産されるのか等）をどの程度もっていると思いますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 ほとんどの親たちが知識を十分持っている。
- 2 十分知識を持っている親たちが多いが、一部は持っていない。
- 3 十分知識をもっている親、持っていない親半々ぐらいである。
- 4 知識を持っていない大人が多いが、一部は十分知識を持っている。
- 5 ほとんどの親たちが十分な知識を持っていない。
- 6 わからない

【農業関連団体関係】

問20 周りの農業関連団体（農業協同組合、農業委員会、農業共済組合、土地改良区、普及組織）は、農業経営の安定、地域農業の発展等それぞれの役割に照らして十分な機能を発揮していますか。

あなたのお考えに最も近いものをそれぞれ1つずつ選択して回答用紙に記入してください。

	大いに発揮 している	ある程度発 揮している	どちらとも 言えない	あまり発揮 していない	全く発揮し ていない	分からない
(1) 農業協同組合	1	2	3	4	5	6
(2) 農業委員会	1	2	3	4	5	6
(3) 農業共済組合	1	2	3	4	5	6
(4) 土地改良区	1	2	3	4	5	6
(5) 普及組織	1	2	3	4	5	6

問21 農業関連団体に関して、望みたいこと等ありましたら自由に回答用紙にご記入ください。

漁業者モニター用

問 1 あなたの年齢を教えてください。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|--------|---|--------|
| 1 | 20～29歳 | 2 | 30～39歳 | 3 | 40～49歳 | 4 | 50～59歳 |
| 5 | 60～64歳 | 6 | 65歳以上 | | | | |

問 2 あなたの世帯構成を教えてください。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | | | |
|---|---------|---|-------------------------|
| 1 | 夫婦のみの世帯 | 2 | 夫婦と子どもの世帯 |
| 3 | 単独世帯 | 4 | その他（具体的に回答用紙に記入してください。） |

問 3 あなたが主として営んでいる漁業種類を教えてください。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 採貝・採藻、地先の釣り等の沿岸漁業
- 2 日帰りできる範囲で、地先から離れて行う漁業
- 3 数日以上にわたる沖合漁業
- 4 数ヶ月にわたる遠洋漁業

問 4 最近の水産資源の状況について、どのように感じているか教えてください。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | | | |
|---|-----------|---|----------|
| 1 | 資源は減少している | 2 | 資源は変わらない |
| 3 | 資源は増加している | 4 | 分からない |

問 5 問 4 で 1 を選択した方に伺います。資源が減少している原因としてあなたが最も強く感じていることを教えてください。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 過剰な漁獲により、資源が減少している
- 2 水温上昇等の環境変化により、資源が減少している
- 3 漁業者の減少等により地先の漁場の管理・保全等が十分に行われなくなったため、資源量が減少している
- 4 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 5 分からない

〔以降の質問は全員の方がお答え下さい。〕

問 6 あなたは、漁獲量や漁獲サイズの制限、休漁、漁具の制限等の水産資源の管理の取組によって達成される効果・目標のうち、何を重視すべきと考えますか。

該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 漁場環境・生態系の維持・回復
- 2 国民への水産物の安定供給
- 3 水産資源の回復・増大
- 4 漁業者の経営の安定（魚価安定）
- 5 秩序ある操業の実現
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 7 漁業者が行っている水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには、どのような取組が有効だと考えますか。

該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる。
- 2 漁業者や漁協などが、自分に取り組んでいる水産資源の管理のPR（インターネットによる情報発信、マスコミへの働きかけなど）を強化する。
- 3 消費者が店頭でしっかりした資源管理の下で漁獲された水産物を選択して購入できる機会を増やす。
- 4 漁業者と消費者の交流・接触の機会を増やす。
- 5 漁業者が市場や外食産業と連携することで、消費者向けの啓発活動を行う。
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 8 漁獲した生鮮魚類をそのまま出荷するだけでなく、自ら（あるいは漁協等で）加工し、販売することにより、商品としての付加価値を高めるいわゆる「6次産業化」の取組が注目されています。このような取組についてどう思いますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 すでに6次産業化の取組を行っている
- 2 手取りの向上や魚のブランド化にもつながるので、積極的に取り組んでいきたい
- 3 取り組みたいと思うが、加工・販売まで自ら行うのは難しい
- 4 生鮮魚の魚価の向上を図る取組が重要で、加工・販売は専門業者が行う方がよい
- 5 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 9 問 8 で、1 または 2 を選択した方に伺います。どのような取組を行っていますか
(または、行いたいですか)

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 水産加工品の製造・販売
- 2 産地直売施設等での直接販売直売
- 3 民宿・旅館の経営
- 4 漁家レストランの経営
- 5 遊漁船の経営
- 6 漁業・漁村体験
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【基本項目】

問 1 あなたが経営または所属する会社等の業種について、もっとも近いものは次のうちどれですか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

1 食品製造業 2 食品卸売業 3 食品小売業 4 外食産業

問 2 あなたの経営または所属する会社等で原料や販売用として取扱う国産農畜水産物・加工食品の量は全体量のうちのどれくらいの割合ですか。また、2、3 年前に比べてどうなりましたか。

それぞれの品目の選択肢の番号を 1 つ選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

なお、以下の農畜産物・加工食品を取り扱っていない場合は未記入としてください。

(1) 使用割合

	全く使 ってい ない	1～25%	26～50%	51～75%	76%以上	全て国 産品を 使用
①米	1	2	3	4	5	6
②小麦	1	2	3	4	5	6
③野菜	1	2	3	4	5	6
④果実	1	2	3	4	5	6
⑤魚介類	1	2	3	4	5	6
⑥肉類	1	2	3	4	5	6
⑦牛乳・乳製品類	1	2	3	4	5	6

(2) 使用量の変化

	増えた	ほとんど 変わらない	減った
①国産米	1	2	3
②国産米を使用した米粉加工品 (米粉、米粉めん、米粉パン等)	1	2	3
③国産小麦又は国産小麦を使用した加工品 (小麦粉、めん、パン等)	1	2	3
④国産大豆又は国産大豆を使用した加工品 (豆腐、納豆等)	1	2	3
⑤生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	1	2	3
⑥生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	1	2	3
⑦国産チーズ	1	2	3
⑧国産牛肉	1	2	3
⑨国産豚肉	1	2	3

問3 問2の(2)で1つでも「増えた」と回答された方のみお答えください。国産の使用量を増やした理由は、次のうちどれですか。

農畜水産物・加工食品ごとに該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 外国産に比べ品質が高いため
- 2 商品の高付加価値化・差別化のため
- 3 安定的に量が調達できるため
- 4 外国産に比べて価格が安いため
- 5 価格が外国産に比べて安定しているため
- 6 国内農業・地域農業の振興に役立ちたいから
- 7 産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいたため
- 8 自社生産に取り組んだため
- 9 国産の方が外国産よりイメージが良いと思うため
- 10 小売業者や顧客等から国産を使用して欲しいとの要望があったため
- 11 輸入相手国・地域の検疫条件等が強化される等、外国産が仕入れにくくなったため
- 12 地産地消の要望があったため
- 13 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 4 問 2 の (2) で 1 つでも「減った」と回答された方のみお答えください。

国産の使用量を減らした理由は、次のうちどれですか。

農畜水産物・加工食品ごとに該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 外国産の方が品質が良かったため
- 2 外国産の方が商品の高付加価値化、差別化ができるため
- 3 量を安定的に確保することが困難なため
- 4 外国産に比べ基本的に価格が高いため
- 5 価格が外国産に比べて不安定であるため
- 6 海外で新たな産地を確保したため
- 7 輸入相手国・地域の検疫条件等が緩和される等、外国産が仕入れやすくなったため
- 8 国内市場価格の高騰により、産地からこれまでの契約取引を断られたため
- 9 外国産の方が生産履歴が明確であったり、トレーサビリティが確立しているため
- 10 円高により一時的に外国産を利用しているため
- 11 消費者の外国産に対する抵抗が少なくなったため
- 12 外国産の方が品質・規格（品種、大きさ、外観、水分など）が加工・業務用に適しているため
- 13 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

〔以降の質問は全員の方がお答えください。〕

問 5 あなたが経営または所属する会社等の原料や販売用として取扱う国産の農畜水産物・加工食品のこれからの取扱量の意向をお聞かせください。

それぞれ該当する選択肢の番号を 1 つ選択して、回答用紙に記入してください。

なお、以下の農畜産物・加工食品を取り扱っていない場合は未記入としてください。

	積極的に国産の利用を 続けていき たい、もし くは、国産 を増やして いきたい	可能な範囲 で国産の利 用を続けて いきたい、 もしくは国 産を増やし ていきたい	これまでと 変わらない	可能な範囲 で外国産の 利用を続け ていきたい 、もしくは は外国産を 増やしてい きたい	積極的に外 国産の利用 を続けてい きたい、も しくは外国 産を増やし ていきたい
①国産米	1	2	3	4	5
②国産米を使用した米粉加工品（米粉、米粉めん、米粉パン等）	1	2	3	4	5
③国産小麦又は国産小麦を使用した加工品（小麦粉、めん、パン等）	1	2	3	4	5
④国産大豆又は国産大豆を使用した加工品（豆腐、納豆等）	1	2	3	4	5
⑤生鮮の国産野菜又は国産野菜を使用した加工品	1	2	3	4	5
⑥生鮮の国産果実又は国産果実を使用した加工品	1	2	3	4	5
⑦国産チーズ	1	2	3	4	5
⑧国産牛肉	1	2	3	4	5
⑨国産豚肉	1	2	3	4	5

問 6 あなたが経営または所属する会社等で、原料や販売用として取扱う国産の農畜産物に求めることは何ですか。

該当する選択肢の番号を 2 つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 価格が安定していること
- 2 価格が安いこと
- 3 数量が安定して供給されること
- 4 外国産より味がいいこと
- 5 地元産であること

(注) ここでいう「地元産」とは、あなたが経営又は所属する会社等がある都道府県内で生産された農畜産物のことです。

- 6 ブランド・産地が名の通ったものであること
- 7 無農薬・減農薬であること
- 8 加工・調理する上での品質・仕様等の要請に的確に応えたものであること
- 9 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【 6 次産業化の取組関係】

問 7 農林水産省は、農商工連携などの取組を通じて、農業者の加工・販売の一体化、農業と製造業、小売業等の他産業との融合を図る等の「6 次産業化」を推進することとしています。以下のような農業者の取組のうち、あなたが経営または所属する会社が既に農業者と連携して取り組んでいる分野、今後連携することに関心のある分野は何ですか。以下にあげる「6 次産業化」に関連した分野について、＜既に取り組んでいるもの＞、＜今後の取組に関心があるもの＞について、それぞれ該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

＜既に取り組んでいるもの＞

- | | | |
|---------------------------|-----------|--------|
| 1 農業 | 2 農産物加工 | 3 直接販売 |
| 4 観光農園 | 5 農家レストラン | 6 農家民宿 |
| 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） | | |
| 8 なし | | |

＜今後の取組に関心があるもの＞

- | | | |
|---------------------------|-----------|--------|
| 1 農業 | 2 農産物加工 | 3 直接販売 |
| 4 観光農園 | 5 農家レストラン | 6 農家民宿 |
| 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） | | |
| 8 関心がない | | |

問 8 農業者と流通加工業者等が連携して生産、加工から販売等まで行う 6 次産業化に取り組む場合に支障や課題は何だと思いますか。

該当する選択肢の番号を 2 つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 連携できる農業者をみつけれないこと
- 2 連携の効果を十分発揮することができる人材がいらないこと
- 3 労働力が不足していること
- 4 施設等が不足していること
- 5 資金が不足していること
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【野菜の取組関係】

問 9 問 2 の(1)で③野菜が「1」（全く使っていない）以外を選択された方のみお答え下さい。

あなたが経営または所属する会社等では、野菜の特徴を利用した商品（メニュー）を取扱っていますか。

該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 野菜使用量が多いことをアピールした商品（メニュー）を取り扱っている。
- 2 特定産地の野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている。
- 3 有機栽培や特別栽培した野菜使用をアピールした商品（メニュー）を取り扱っている。
- 4 その他の取組（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 5 特に行っていない。

問10 問9で1～4を選択された方のみお答えください。

あなたが経営または所属する会社等で扱っている、野菜の特徴を利用した商品（メニュー）について、あなたが経営または所属する会社等ではどのように評価していますか。

該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 自社の収益アップに貢献している。
- 2 自社の商品（メニュー）の付加価値になっている。
- 3 他社との差別化に有効である。
- 4 顧客の確保に貢献している。
- 5 コストの割に利益に結びつかない。
- 6 取組の継続への負担が大きい。
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

〔以降の質問は全員の方がお答えください。〕

問11 野菜の特徴を利用した商品（メニュー）の取扱いについて、どのように思っていますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 現在も取り組んでおり、今後は拡大していきたい。
- 2 現在も取り組んでおり、現状を維持したい。
- 3 現在も取り組んでいるが、規模を縮小していきたい。
- 4 現在は取り組んでいないが、今後取り組んでみたい。
- 5 現在も取り組んでいないし、今後もし取り組む予定はない。

問12 取り扱う野菜について、国産の割合を増やす（国産のみを使用している場合は、今後とも国産の使用を継続する）上で、国内産地に求める条件についてお聞きします。

(1) 国内産地に求める条件として、次の①～⑭のそれぞれについて、どの程度重視しますか。①～⑭のそれぞれについて、該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

	重視する	やや重視する	どちらともいえない	あまり重視しない	重視しない
①品質を確保したうえで、生産コストや流通コストを下げる こと	1	2	3	4	5
②品質や規格にはあまりこだわらないので、外国産との価格 差が縮小されること	1	2	3	4	5
③今よりコストがかかっても良いので、より高品質な野菜を 供給すること	1	2	3	4	5
④契約取引により中・長期的に数量・価格を安定させること	1	2	3	4	5
⑤加工・業務用に適した品質・規格（品種、大きさ、外観、 水分など）の野菜が供給されること	1	2	3	4	5
⑥国内で一次加工処理（皮むき、芯抜き、カットなど）され て供給されること	1	2	3	4	5
⑦産地が加工・業務用に要求される条件を理解していること	1	2	3	4	5
⑧産地を紹介してくれる仲介業者（流通業者等）がいること	1	2	3	4	5
⑨リレー出荷等に対応するため、流通業者と連携すること	1	2	3	4	5
⑩GAPの取組や、農薬使用履歴やトレーサビリティが確立 されていること	1	2	3	4	5
⑪有機農産物や特別栽培農産物等であること	1	2	3	4	5
⑫地元産野菜の供給拡大を行うこと	1	2	3	4	5
⑬異常気象等でも供給不足にならないよう産地分散等のリス クヘッジを行うこと	1	2	3	4	5
⑭産地情報や生育情報の発信を強化すること	1	2	3	4	5

(2) 国内産地に求める条件として、(1)の①～⑭以外で重視するものがあれば具体的に回答用紙に記入してください。

【基本項目】

問 1 あなたの住まいの地域区分をお聞きます。あなたは、現在、どの地域にお住まいですか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 都市部（三大都市圏特定市（首都圏、中部圏、近畿圏の市で、別紙で定めるもの）
- 2 都市部（1 以外の政令指定都市（札幌市、仙台市、新潟市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市）又は 1 以外の県庁所在地
- 3 1 及び 2 以外の市町村

問 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 | 4 50～59歳 |
| 5 60～64歳 | 6 65～69歳 | 7 70歳以上 | |

問 3 あなたの世帯構成を教えてください。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 夫婦のみの世帯 | 2 夫婦と子どもの世帯 |
| 3 単独世帯 | 4 その他の世帯 |

【都市農業関係】

問 4 あなたの住まいの地域区分が 1（都市部（三大都市圏特定市））又は 2（都市部（1 以外の政令指定都市又は 1 以外の県庁所在地））の方のみお答え下さい。

日常生活で活動（通勤、通学、買い物等）する範囲内の農業に関する印象について、該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 農地があり、農業が行われていて、どのような作物が栽培されているか知って
- 2 農地があり、農業が行われているが、どのような作物が栽培されているかは分からない。
- 3 農地はない、又は農地があるかどうか分からない。

（注） ここでいう「作物」とは、キャベツやトマトといった具体的な品目ではなく、米、麦、野菜、果樹、花きなど栽培されている作物の大まかな種類のことを指します。

問 5 問 4 で 1 又は 2 を選択した方のみお答え下さい。

日常生活で活動する範囲内で行われている農業は、どのような役割・機能を果たしているとお考えですか。

あなたのお考えに最も近いものを、それぞれに該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

	大いに果たしている	ある程度果たしている	どちらとも言えない	あまり果していない	全く果たしていない	分からない
(1) 新鮮で安全な農産物の供給	1	2	3	4	5	6
(2) 農業体験・交流活動の場	1	2	3	4	5	6
(3) 心安らぐ緑地空間	1	2	3	4	5	6
(4) 災害に備えたオープンスペース	1	2	3	4	5	6
(5) 農業への理解の醸成	1	2	3	4	5	6

問 6 問 4 で 1 又は 2 を選択した方のみお答え下さい。

あなたは、日常生活で活動する範囲内で生産された農産物を販売している、お住まいの近くの直売所やスーパー等の売り場を知っていますか。また知っていると答えた方は、どの程度購入していますか。

それぞれに該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

< 売り場について >

- 1 売っている場所を知っている。
- 2 売っているところ（直売所、スーパー等）があるのは知っているが、その場所は知らない。
- 3 売っている場所があることを知らない。

< 購入頻度（< 売り場について > で 1 を選択した方のみお答え下さい。） >

- 1 積極的に購入するようにしている
- 2 見かけた場合などに、時々購入するようにしている
- 3 あまり購入していない
- 4 まったく購入していない

【農業・農村の活性化関係】

問 7 あなたのお住まいの地域区分が 3（1 都市部（三大都市圏特定市）及び 2 都市部（1 以外の政令指定都市又は 1 以外の県庁所在地）以外の市町村）の方、又は 1、2 の方でも帰省先が 3 の方のみお答えください。

あなたがお住まいの地域（地域区分が 3 の方）又は帰省先（地域区分が 1、2 の方）の農業・農村の現状についてどのようにお感じになりますか。

該当する選択肢の番号を 1 つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 荒れた農地や空き家等が目立つ。
- 2 あまり変わっている印象がない。
- 3 新たに工場やスーパー等ができ、活気づいている。
- 4 農業や農業関連の事業が盛んで、活気づいている。
- 5 よくわからない。

〔以降の質問は全員の方がお答え下さい。〕

問 8 農業・農村の維持・活性化のために、消費者として応援していったらよいと思う取組は何ですか。

該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 米など国内で生産できる農産物は国産農産物を積極的に消費・購入する。
- 2 農村に滞在して余暇を楽しむグリーンツーリズム等により農村へ積極的に訪れる。
- 3 農地を有効利用するための市民農園の利用や、体験農業等へ積極的に参加する。
- 4 消費者が農業者と事前に農産物の売買契約を結ぶことにより農家の経営等を支援する活動（「地域支援型農業」といいます）
- 5 リンゴの木や棚田などのオーナーとなり、収穫等の農作業体験をするオーナー制度への積極的な参加
- 6 地域の活性化や環境・資源の保全等の地域の課題を、行政、市民、企業、NPO等が連携して解決する取組である「コミュニティビジネス」への参加
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問 9 農業・農村の維持・活性化のための応援をする場合に支障となることは何ですか。

該当する選択肢の番号を全て選択して、該当する選択肢の番号を回答用紙に記入してください。

- 1 具体的な取組に関する情報が少ない
- 2 一緒に取り組む仲間がいない
- 3 相談相手、窓口がわからない
- 4 費用がかかる
- 5 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問10 あなたの周りの子どもたち（小学校高学年～中学生まで）は、食べ物や農業についての知識（米、野菜、畜産物等の農産物、食品はどのように生産されるのか等）をどの程度もっていると思いますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 ほとんどの子どもたちが知識を十分持っている。
- 2 十分知識を持っている子どもたちが多いが、一部は持っていない。
- 3 十分知識を持っている子ども、持っていない子ども半々ぐらいである。
- 4 知識を持っていない子どもたちが多いが、一部は十分知識を持っている。
- 5 ほとんどの子どもたちが十分な知識を持っていない。
- 6 わからない

問11 あなたの周りの子どもたち（小学校高学年～中学生まで）の親は、食べ物や農業についての知識（米、野菜、畜産物等の農産物、食品はどのように生産されるのか等）をどの程度もっていると思いますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 ほとんどの親たちが知識を十分持っている。
- 2 十分知識を持っている親たちが多いが、一部は持っていない。
- 3 十分知識を持っている親、持っていない親半々ぐらいである。
- 4 知識を持っていない親が多いが、一部は十分知識を持っている。
- 5 ほとんどの親たちが十分な知識を持っていない。
- 6 わからない

【環境と食生活関係】

問12 あなたは、普段の食料品の買い物や食生活上で環境に配慮した取組を行っていますか。

特に当てはまる選択肢の番号上位2つを順位付けして回答用紙に記入してください。

- 1 使い残さないように量を考えて農産物や食品を買う
- 2 地元産の農産物や食品を買う
- 3 化学肥料・農薬等の使用量が少ない、環境負荷軽減に配慮した農産物や食品を買う
- 4 旬の農産物を買う（ハウス栽培による二酸化炭素の発生抑制等を意図）
- 5 包装や容器のゴミが多くなならない農産物や食品を買う
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 7 特に取り組んでいない

問13 食品廃棄物を減らすためにどのような取組をおこなっていますか。

特に当てはまる選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 少量パック等、食べきれる量の食品を購入している。
- 2 賞味期限が過ぎていても、見た目やにおい等で判断して食べている。
- 3 賞味期限が切れないよう在庫管理をおこなっている。
- 4 料理の際は、作りすぎないように心がけている。
- 5 料理の際は、生ゴミを少なくするよう料理をしている。
- 6 外食の際は、食べきれる量を注文している。
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 8 特に何もおこなっていない。

問14 食品の容器包装等を減らすためにどのような取組をおこなっていますか。

特に当てはまる選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 簡易包装の商品を選択している。
- 2 トレイや牛乳パック等の回収に協力している。
- 3 買い物袋（エコバッグ）を持参している。
- 4 外食時などに自分の箸を持参している。
- 5 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）
- 6 特に何もおこなっていない。

問15 あなたは、農業に関係した環境への負荷軽減に関する次のマーク等について、ご存じですか。

それぞれのマーク等について最もあなたの感覚に近い選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

	マーク（言葉） の意味を知っ ている	マーク（言葉） をみたこと があるが意 味は知らな い	知らない
(1)有機 J A S マーク	1	2	3
(2)カーボンフットプリントマーク	1	2	3
(3)生き物マーク	1	2	3
(4)エコファーマーのマーク	1	2	3
(5)フードマイレージ	1	—	3
(6)水産エコラベル	1	2	3

【国産・地場産、食品の購入関係】

問16 あなたは、普段の食材の買い物において、どの程度国産の農産物を購入していますか。

それぞれの食品について最もあなたの感覚に近い選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

	積極的 に購入 してい る	ある程 度購入 してい る	あまり 購入し ていな い	まった く購入 してい ない	分から ない
(1)国産米を使用した米粉加工品 (米粉、米粉めん、米粉パン等)	1	2	3	4	5
(2)国産小麦を使用した加工品 (小麦粉、めん、パン等)	1	2	3	4	5
(3)国産大豆を使用した加工品 (豆腐、納豆等)	1	2	3	4	5
(4)生鮮の国産野菜	1	2	3	4	5
(5)生鮮の国産果実	1	2	3	4	5
(6)国産チーズ	1	2	3	4	5
(7)国産牛肉	1	2	3	4	5
(8)国産豚肉	1	2	3	4	5

問17 あなたは、普段の食材の買い物において、問16の国産農産物のうち、地場産の農産物等をどの程度購入していますか。

それぞれの食品について最もあなたの感覚に近い選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

(注) ここで「地場産の農産物」とは、同一都道府県内で生産された穀物、野菜・果実等の農産物をいいます。

	積極的 に購入 している	ある程 度購入 している	あまり 購入し ていな い	まった く購入 してい ない	分 か ら ない
(1)国産米を使用した米粉加工品 (米粉、米粉めん、米粉パン等)	1	2	3	4	5
(2)国産小麦を使用した加工品 (小麦粉、めん、パン等)	1	2	3	4	5
(3)国産大豆を使用した加工品 (豆腐、納豆等)	1	2	3	4	5
(4)生鮮の国産野菜	1	2	3	4	5
(5)生鮮の国産果実	1	2	3	4	5
(6)国産チーズ	1	2	3	4	5
(7)国産牛肉	1	2	3	4	5
(8)国産豚肉	1	2	3	4	5

問18 問16（国産農産物の購入）で「積極的に購入している」、「ある程度購入している」と1つでも答えた方にお聞きします。

国産の農産物等を購入する最も強い理由を以下の選択肢の番号から1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 他の農産物に比べて安いから | 2 他の農産物に比べて品質が良いから |
| 3 質や形が揃っているから | 4 品数が多いから |
| 5 売っている店が身近にあるから | 6 いつも置いてあるから |
| 7 国内の農業を応援したいから | 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） |

問19 問17（地場産の農産物等の購入）で「積極的に購入している」、「ある程度購入している」と1つでも答えた方にお聞きします。

地場産の農産物等を購入する最も強い理由を以下の選択肢の番号から1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 他の農産物に比べて安いから | 2 他の農産物に比べて品質が良いから |
| 3 質や形が揃っているから | 4 品数が多いから |
| 5 売っている店が身近にあるから | 6 いつも置いてあるから |
| 7 地元の農業を応援したいから | 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） |

問20 問16（国産農産物の購入）で「あまり購入していない」、「まったく購入していない」と1つでも答えた方にお聞きします。

国産の農産物等を購入しない最も強い理由を以下の選択肢の番号から1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 他の農産物に比べて高いから
- 2 他の農産物に比べて品質が良くないから
- 3 質や形にバラツキがみられるから
- 4 品数が少ないから
- 5 売っている店が身近にないから
- 6 売り切れていることが多いから
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問21 問17（地場産の農産物等の購入）で「あまり購入していない」、「まったく購入していない」と1つでも答えた方にお聞きします。

地場産の農産物等を購入しない最も強い理由を以下の選択肢の番号から1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 他の農産物に比べて高いから
- 2 他の農産物に比べて品質が良くないから
- 3 質や形にバラツキがみられるから
- 4 品数が少ないから
- 5 売っている店が身近にないから
- 6 売り切れていることが多いから
- 7 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

〔以降の質問は全員の方がお答えください。〕

【水産業関係】

問22 あなたは、水産物を購入する際にどのようなことを重視していますか。
該当する選択肢の番号を3つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 価格
- 2 安全・安心であること
- 3 国産であること
- 4 近隣で漁獲された水産物であること
- 5 鮮度
- 6 旬の魚であること
- 7 切身や干物など調理しやすい形で売られていること
- 8 調理されて売られていること
- 9 資源の枯渇の恐れがないなど、水産資源の管理上、問題のない魚種であること
- 10 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問23 我が国周辺海域の水産資源の状況について、あなたの認識を教えてください。
該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 水産資源は豊富である | 2 枯渇しつつある |
| 3 比較的安定している | 4 分からない |

問24 水産資源の利用に関するあなたの考え方に最も近いものを選んで下さい。
該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 良好な環境・生態系を後世に残すことが大事であり、水産資源の食料としての利用よりも保護を優先すべきである。
- 2 水産資源を食料として持続的に利用できるよう、漁業と資源保護の両立を図っていくべきである。
- 3 水産資源の状態を正確に把握することは困難であり、まずは効率的な利用を推進していくべきである。
- 4 水産資源の問題には特に関心がない。

問25 水産資源の持続的利用の実現に向けて漁業者は、漁獲量や漁獲サイズの制限、休漁、漁具の制限等の様々な資源管理に取り組んでいます。漁業者が行っている資源管理について、あなたはどのような効果・目標の実現を重視すべきと考えますか。

該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1 漁場環境・生態系の維持・回復 | 2 国民への水産物の安定供給 |
| 3 水産資源の回復・増大 | 4 漁業者の経営の安定（魚価の安定） |
| 5 秩序ある操業の実現 | 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） |
| 7 分からない | |

問26 漁業者が行っている水産資源の管理について消費者の理解を深めるためには、どのような取組が有効だと考えますか。

該当する選択肢の番号を2つまで選択して回答用紙に記入してください。

- 1 行政機関が、消費者に対して、水産資源の状況や水産資源の管理の重要性についての情報提供を充実させる。
- 2 漁業者や漁協などが、自分に取り組んでいる水産資源の管理のPR（インターネットによる情報発信、マスコミへの働きかけなど）を強化する。
- 3 消費者が店頭でしっかりした資源管理の下で漁獲された水産物を選択して購入できる機会を増やす。
- 4 漁業者と消費者の交流・接触の機会を増やす。
- 5 漁業者が市場や外食産業と連携することで、消費者向けの啓発活動を行う。
- 6 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問27 現在、一部の店頭では水産資源の持続的利用が可能な漁法で漁獲された水産物であることを示す「エコラベル」のマークが付いた水産物が販売されています。このような商品が販売されていたら、あなたは購入しますか。

該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。

- 1 多少高くても、エコラベルのマークが付いた水産物を購入する。
- 2 価格や鮮度が同一であれば、エコラベルのマークが付いた水産物を選択する。
- 3 鮮度や産地、ブランドに関する情報の方が重要であり、エコラベルが選択の基準とはならないと思う。
- 4 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【利用上の注意】

1 調査の内容

本調査は、食の安全と消費者の信頼の確保、農業・農村の再生及び水産資源の持続的利用を図るための施策の基礎資料とするため、生産者、流通加工業者及び消費者がどのような意識・意向を持っているかを調査したものである。

2 調査対象

農林水産情報交流モニターのうち、農業者モニター（2,000名）、漁業者モニター（400名）、流通加工業者モニター（1,650名）、消費者モニター（1,800名）を対象とした。

3 実施時期

平成23年1月下旬～2月上旬

4 調査方法

農林水産省大臣官房情報評価課からのオンライン調査及び、地方農政局、地方農政事務所、北海道農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局からの郵送調査により行った。

なお、オンライン調査とは、調査対象の情報交流モニターが、本調査用ホームページに接続して回答することにより行うものである。

5 調査票の回収率等

	対象者数(人)	回答者数(人)	回収率(%)
農業者モニター	2,000	1,627	81.4
漁業者モニター	400	347	86.8
流通加工業者モニター	1,650	1,025	62.1
消費者モニター	1,800	1,626	90.3

6 その他

- (1) 農政局等の区分は次のとおりである。

北 海 道：北海道

東 北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関 東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、
静岡

北 陸：新潟、富山、石川、福井

東 海：岐阜、愛知、三重

近 畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国 四 国：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

九 州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島

沖 縄：沖縄

- (2) 統計表の各回答率は、各設問（各区分）の有効回答者数計を 100.0とする割合である。

- (3) 表示単位未満を四捨五入したため、計と内訳の積み上げ値は必ずしも一致しない。

- (4) 統計表に使用した記号「－」は、事実のないことを表す。

- (5) 統計表の数値の中には、回答者数の少ないものもあるので、利用に当たっては、十分注意されたい。

- (6) 消費者モニターに対する調査票の「問1 あなたのお住まいの地域区分をお聞きます。あなたは、現在、どの地域にお住いですか。該当する選択肢の番号を1つ選択して回答用紙に記入してください。」における選択肢「1 都市部（三大都市圏特定市（首都圏、中部圏、近畿圏の市で、別紙で定めるもの）」に該当する地域は表1のとおりである。

また、問1の選択肢と【統計表】（消費者モニターに対する調査）における「都市1」、「都市2」との対応関係は表2のとおりである。

表 1 「1 都市部(三大都市圏特定市(首都圏、中部圏、近畿圏の市で、別紙で定めるもの)」に該当する地域

圏域名	都府 県名	市 名
首都圏	茨城県 (7市)	龍ヶ崎市、取手市、坂東市、牛久市、守谷市、常総市、つくばみらい市
	埼玉県 (37市)	川越市、川口市、行田市、所沢市、飯能市、加須市、東松山市、春日部市、狭山市、羽生市、鴻巣市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、鳩ヶ谷市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、坂戸市、幸手市、鶴ヶ島市、日高市、吉川市、さいたま市、ふじみ野市、熊谷市
	千葉県 (23市)	千葉市、市川市、船橋市、木更津市、松戸市、野田市、成田市、佐倉市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、浦安市、四街道市、袖ヶ浦市、印西市、白井市、富里市
	東京都 (27市)	特別区 ^(注2) 、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市
	神 奈 川 県 (19市)	横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、相模原市、三浦市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市
中部圏	愛知県 (32市)	名古屋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、みよし市、あま市
	三重県 (3市)	四日市市、桑名市、いなべ市
	静岡県 (2市)	静岡市、浜松市
近畿圏	京都府 (10市)	京都市、宇治市、亀岡市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、南丹市、木津川市
	大阪府 (33市)	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市
	兵庫県 (8市)	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市
	奈良県 (12市)	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、宇陀市

注１： 三大都市圏特定市とは、以下に掲げる圏域に存在する政令指定都市及び以下に掲げる区域を含む市（東京都の特別区を含む。）をいう。

首都圏：首都圏整備法の既成市街地及び近郊整備地帯内にあるもの

中部圏：中部圏開発整備法の都市整備区域内にあるもの

近畿圏：近畿圏整備法の既成都市区域及び近郊整備区域内にあるもの

注２： 東京都の特別区の存する区域を一つの市としてカウントしている。

表２ 調査票と統計表の対応表

調査票の記載内容	統計表の記載内容
1 都市部（三大都市圏特定市（首都圏、中部圏、近畿圏の市で、別紙で定めるもの）に該当する地域	都市 1
2 都市部（1 以外の政令指定都市（札幌市、仙台市、新潟市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市）又は 1 以外の県庁所在地	都市 2

連絡先

農林水産省 大臣官房 情報評価課
電話（直通）03(3501)8047

この資料は、農林水産省ホームページ【<http://www.maff.go.jp/>】の右側の「統計情報 ≫ 各種調査結果 ≫ 意識・意向調査」からご覧いただけます。